

【学部共通科目】

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
0012001	哲学基礎文化学系	ゼミナールI	1-4	2	前期	木2	大西,三上,林(和雄),福家,末永	コーディネーター:大西	学部共通科目1
0022002	東洋文化学系	ゼミナールII	1-4	2	後期	木5	田中(草),高橋,奥田,中山	コーディネーター:田中(草)	学部共通科目3
0032001	西洋文化学系	ゼミナールI	1-4	2	前期	水2	小林,宮坂,中村(満),久保田,霜田,青山,山口	コーディネーター:小林	学部共通科目4
0032002	西洋文化学系	ゼミナールII	1-4	2	前期	集中	小林,飯島,山下(裕),山下(大吾),野末,山下(大輔),柴田,中村(満)	コーディネーター:小林	学部共通科目5
0042001	歴史基礎文化学系	ゼミナールI	1-4	2	前期	木1	谷川,加藤,岡島,田口,佐藤(早),勅使河原,伊藤,平良,林(和樹),藤田,浮網	コーディネーター:谷川	学部共通科目6
0042002	歴史基礎文化学系	ゼミナールII	1-4	2	後期	木1	谷川,宗,松島,呉,辻田,田中(悠),法貴,高木,高野	コーディネーター:谷川	学部共通科目7
0052001	行動・環境文化学系	ゼミナールI	1-4	2	前期	木5	千田,鈴木,山本,徐,田多井,山岡	コーディネーター:千田	学部共通科目8
0052002	行動・環境文化学系	ゼミナールII	1-4	2	後期	木5	千田,朝倉,谷本,武田,宮武,Guillaume,脇坂,戸梶	コーディネーター:千田	学部共通科目9
0062001	基礎現代文化学系	ゼミナールI	1-4	2	前期	木5	小野沢,福田,谷,白木,TATARCZUK,佐藤(夏)	コーディネーター:小野沢	学部共通科目10
9639001	ヘブライ語(初級)	語学	3-4	2	前期	火3	手島 勲矢		学部共通科目11
9640001	ヘブライ語(中級)	語学	3-4	2	後期	火3	手島 勲矢		学部共通科目12
9616001	サンスクリット(2時間コース)	語学	1-4	4	通年	月4	山口 周子		学部共通科目13
9617001	サンスクリット(4時間コース)	語学	1-4	8	通年	月5,木5	Tao PAN		学部共通科目14
9633001	ヒンディー語(初級)	語学	1-4	4	通年	金5	小松 久恵		学部共通科目15
9659001	ヒンディー語(中級)I	語学	2-4	2	前期	火3	西岡 美樹		学部共通科目16
9660001	ヒンディー語(中級)II	語学	2-4	2	後期	火3	西岡 美樹		学部共通科目17
9628001	チベット語(初級)	語学	2-4	2	前期	月1	宮崎 泉		学部共通科目18
9629001	チベット語(初級)	語学	2-4	2	後期	月1	宮崎 泉		学部共通科目19
9630001	チベット語(中級)	語学	3-4	2	前期	水1	高橋 慶治		学部共通科目20
9630002	チベット語(中級)	語学	3-4	2	後期	水1	高橋 慶治		学部共通科目21
9664001	ギリシア語(初級I)	語学	2-4	2	前期	金3	西村 洋平		学部共通科目22
9665001	ギリシア語(初級II)	語学	2-4	2	後期	金3	西村 洋平		学部共通科目23
9615001	ギリシア語(4時間コース)	語学	2-4	8	通年	月1,木1	広川 直幸		学部共通科目24
9666001	ラテン語(初級I)	語学	2-4	2	前期	水2	勝又 泰洋		学部共通科目25
9667001	ラテン語(初級II)	語学	2-4	2	後期	水2	勝又 泰洋		学部共通科目26
9645001	ラテン語(4時間コース)	語学	2-4	8	通年	月2,金2	佐藤 義尚		学部共通科目27
9661001	ポーランド語(初級I)	語学	1-4	2	前期	木4	Bogna Sasaki		学部共通科目28
9662001	ポーランド語(初級I)	語学	1-4	2	後期	木4	Bogna Sasaki		学部共通科目29
9642001	ポーランド語(中級II)	語学	1-4	2	前期	木5	Bogna Sasaki		学部共通科目30
9642002	ポーランド語(中級II)	語学	1-4	2	後期	木5	Bogna Sasaki		学部共通科目31
9646001	ロシア語(初級)	語学	1-4	2	後期	水2	田中 大		学部共通科目32
9647001	ロシア語(中級)	語学	1-4	2	前期	水2	中村 唯史		学部共通科目33
9673001	スペイン語(初級)I	語学	2-4	2	前期	火4	小西 咲子		学部共通科目34
9674001	スペイン語(初級)II	語学	2-4	2	後期	火4	小西 咲子		学部共通科目35
9668001	スペイン語(中級)I	語学	2-4	2	前期	火5	小西 咲子		学部共通科目36
9669001	スペイン語(中級)II	語学	2-4	2	後期	火5	小西 咲子		学部共通科目37
9675001	イタリア語(初級4時間コース)I	語学	2-4	4	前期	月2,木3	菅野 類		学部共通科目38
9676001	イタリア語(初級4時間コース)II	語学	2-4	4	後期	月2,木3	菅野 類		学部共通科目39
9663001	イタリア語会話(中級)	語学	2-4	2	前期	火5	Ida Duretto		学部共通科目40
9663002	イタリア語会話(中級)	語学	2-4	2	後期	火5	Ida Duretto		学部共通科目41
9604001	アラブ語(初級)	語学	2-4	4	通年	木3	西尾 哲夫		学部共通科目42
9608001	イラン語(初級)	語学	3-4	4	通年	金2	杉山 雅樹		学部共通科目43
9620001	シュメール語(初級)	語学	3-4	4	通年	金1	森 若葉		学部共通科目44
9624001	スワヒリ語(初級)	語学	2-4	2	前期	火3	井戸根 綾子		学部共通科目45
9625001	スワヒリ語(中級)	語学	2-4	2	後期	火3	井戸根 綾子		学部共通科目46
9648001	朝鮮語(初級A)	語学	2-4	2	前期	金1	杉山 豊		学部共通科目47
9649001	朝鮮語(初級B)	語学	2-4	2	後期	金1	杉山 豊		学部共通科目48
9650001	朝鮮語(中級A)	語学	2-4	2	前期	金1	中村 麻結		学部共通科目49
9651001	朝鮮語(中級B)	語学	2-4	2	後期	金1	中村 麻結		学部共通科目50
9672001	古代エジプト語・コプト語(初級)	語学	2-4	2	前期	未定	(未定)		学部共通科目51
9677001	古代エジプト語・コプト語(中級)	語学	2-4	2	後期	未定	(未定)		学部共通科目52
9635001	フランス語(中級)	語学	2-4	2	前期	金3	Olivier LORRILLARD		学部共通科目53
9635002	フランス語(中級)	語学	2-4	2	後期	金3	Justine LE FLOC'H		学部共通科目54
9636001	フランス語(上級)	語学	3-4	2	前期	金4	Olivier LORRILLARD		学部共通科目55
9636002	フランス語(上級)	語学	3-4	2	後期	金4	Justine LE FLOC'H		学部共通科目56
8005001	博物館学I	講義	2-4	2	前期	火1	松岡 久美子	学芸員用	学部共通科目57
8006001	博物館学II	講義	2-4	2	後期	火1	松岡 久美子	学芸員用	学部共通科目58
8007001	博物館学III	講義	2-4	2	後期	水2	宮川 禎一	学芸員用	学部共通科目59
8107001	書道	演習	2-4	2	前期	火5	万殿 伸昭	教職用	学部共通科目60
8107002	書道	演習	2-4	2	後期	火5	万殿 伸昭	教職用	学部共通科目61
8041001	英語論文作成法	演習	2-4	2	前期	火4	大崎 紀子		学部共通科目62
8041002	英語論文作成法	演習	2-4	2	後期	火4	大崎 紀子		学部共通科目63
9702001	人文学の多面的展開	演習	1-4	2	後期	不定	伊勢田,田多井,平岡,平出,TATARCZUK,長岡,樽田,小林	大学コンソーシアム京都による「プラザ推奨科目」を兼ねる	学部共通科目64
9610001	インドネシア語I(初級)	語学	1-4	2	前期	木5	柏村 彰夫		学部共通科目65

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
9611001	インドネシア語II(初級)	語学	1-4	2	後期	木5	柏村 彰夫		学部共通科目66
9626001	タイ語I(初級)	語学	1-4	2	前期	木5	弓庭 育子		学部共通科目67
9627001	タイ語II(初級)	語学	1-4	2	後期	木5	弓庭 育子		学部共通科目68
9631001	ビルマ(ミャンマー)語I(初級)	語学	1-4	2	前期	木3	本行 沙織		学部共通科目69
9637001	ベトナム語I(初級)	語学	1-4	2	前期	火2	吉本 康子		学部共通科目70
9638001	ベトナム語II(初級)	語学	1-4	2	後期	水2	吉本 康子		学部共通科目71
9822001	タイ研修	特殊講義	1-4	2	後期	集中	張 子康		学部共通科目72
9822002	ベトナム研修	特殊講義	1-4	2	後期	集中	張 子康		学部共通科目73
9822005	インドネシア研修	特殊講義	1-4	2	後期	集中	張 子康		学部共通科目74
9822003	戦争と植民地の歴史認識	特殊講義	1-4	2	後期	木2	小山 哲,高嶋 航		学部共通科目75
JK31001	Introduction-Focus I Seminar (KBR) A	演習	3-4	2	前期	火2	VASUDEVA,Somdev		学部共通科目76
JK32001	Introduction-Focus I Seminar (SEG) A	演習	3-4	2	前期	金2	安里 和晃		学部共通科目77
JK33001	Introduction-Focus I Seminar (VMC) A	演習	3-4	2	前期	火3	KAMM, Bjorn-Ole		学部共通科目78
JK35001	Introduction-Focus I Seminar (SEG) B	特殊講義	3-4	2	前期	木3	ERICSON, Kjell David		学部共通科目79
JK07001	Skills for Transcultural Studies I-English	演習	3-4	2	前期	水2	ERICSON, Kjell David		学部共通科目80
JK11003	Foundations I-Seminar (VMC)	特殊講義	3-4	2	前期	月2	KITSNIK, Lauri		学部共通科目81
JK15001	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	月5	海田 大輔		学部共通科目82
JK15002	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	金4	川島 隆		学部共通科目83
JK17001	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	金2	安里 和晃		学部共通科目84
JK17005	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	木2	佐野 真由子		学部共通科目85
JK17006	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	水2	河合 淳子		学部共通科目86
JK19001	Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	水4,水5	WADA-MARCIANO, Mitsuyo		学部共通科目87
JK19002	Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	火4,火5	WADA-MARCIANO, Mitsuyo		学部共通科目88
JK21001	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	火2	高嶋 航,村上 衛,ERICSON, Kjell David		学部共通科目89
JK21003	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	木3	ERICSON, Kjell David		学部共通科目90
JK21005	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	水6	ERICSON, Kjell David		学部共通科目91

学部共通科目1

科目ナンバリング		U-LET40 10012 SJ36									
授業科目名 <英訳>		哲学基礎文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 大西 琢朗 非常勤講師 三上 航志 非常勤講師 林 和雄 非常勤講師 福家 佑亮 非常勤講師 末永 絵里子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語
題目		哲学基礎文化学入門									
【授業の概要・目的】											
<p>哲学基礎文化学系各専修の大学院で学んだ若手研究者によるリレー講義。それぞれのイキのいい研究テーマについて、学部学生向けに、分りやすく、そして楽しく語ってまいります。</p> <p>この授業の特色として、毎回、質問の時間を用意しています。その日の講義の内容はもちろんのこと、学生生活や研究生生活の相談や、進路相談など、経験豊富な先輩にどしどしぶつけてみましょう。皆さんにとって学問の最前線に触れるとともに、研究室の先輩と早い目から交流する場となることもこの授業の目的のひとつです。</p> <p>なお受講者には担当者が代わるたびに授業アンケートに答えていただきます。これからあちこちの大学で教鞭を取る若手教員を育てるつもりになって、参考にも励みにもなる回答をお寄せください。</p>											
【到達目標】											
哲学基礎文化学系に進むための基本的な知識とスキルを習得する。哲学で論じられる幅広いトピックに対応できる柔軟な思考力を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回-第3回 福家佑亮講師：デモクラシーの哲学</p> <p>第4回-第6回 林和雄講師：J.S.ミルの功利主義的自由主義</p> <p>第7回-第8回 振り返り・中間まとめ(大西)</p> <p>第9回-第11回 三上航志講師：感情の哲学とデカルト哲学</p> <p>第12回-第14回 末永絵里子講師：SNSというコミュニケーションツールの持つ宗教性 小説家・村上春樹氏のインタビューを手がかりとして</p> <p>第15回 予備</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業に際しては、毎回出席をとります。全講義の8割以上に出席することが、単位認定の条件です。成績評価は学期末レポートで行います。提出要領その他は授業時に伝達します。											
----- 哲学基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く -----											

哲学基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業中に適宜指示する。

**(その他(オフィスアワー等))**

授業中に適宜指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目3

科目ナンバリング		U-LET41 10022 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 田中 草大 非常勤講師 高橋 健二 非常勤講師 奥田 茉莉子 非常勤講師 中山 慧輝			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語
題目		東洋のことばと文化(国語学国文学・仏教学・インド古典学)									
[授業の概要・目的]											
<p>各担当者がリレー形式で、国語学国文学・仏教学・インド古典学の研究とは具体的にどのようなものであるのかを紹介する。東洋の文献にはどのようなものがあり、それらをどのような手法を用いて研究するのか、そこからどのようなことがわかるのかを、二次文献の講読なども交えつつ学ぶ。授業の形式は各講師によって異なるが、「文献学」という一貫したテーマが設けられている。すべての授業において、受講生が「文献学とは何か」という問いを設定し、積極的に発言し質問することによって、自分なりの見解を得ることを期待する。</p>											
[到達目標]											
<p>本科目の履修を通して以下のような知識と能力の習得を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語学国文学・仏教学・インド古典学の各専修で行われている研究がどのようなものであるのかを理解すること。</li> <li>・国語学国文学・仏教学・インド古典学各分野について興味・関心を持つこと。</li> <li>・文献学とは何かを自分なりに理解した上で、興味をもった分野について参考文献等を用いて自身の見解を整理し、レポートとしてまとめることができること。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回. ガイダンス、サンスクリット語文化論(1) その形と歴史 (高橋・インド古典学)</p> <p>第2回. サンスクリット語文化論(2) インド=ヨーロッパ諸語との関係 (高橋・インド古典学)</p> <p>第3回. サンスクリット語文化論(3) 日本語のなかのサンスクリット語 (高橋・インド古典学)</p> <p>第4回. 日本語の歴史をさぐる(1) 過去の発音はなぜ分かる? (田中・国語学国文学)</p> <p>第5回. 日本語の歴史をさぐる(2) 『源氏物語』を見ても平安時代の文字は分からない? (田中・国語学国文学)</p> <p>第6回. 日本語の歴史をさぐる(3) 話し言葉の歴史はどうやって分かる? (田中・国語学国文学)</p> <p>第7回. 能と古典文学(1) 源氏物語と能「葵上」 (奥田・国語学国文学)</p> <p>第8回. 能と古典文学(2) 平家物語と能「敦盛」 (奥田・国語学国文学)</p> <p>第9回. 能と古典文学(3) 中国文学と能「班女」 (奥田・国語学国文学)</p> <p>第10回. 能と古典文学(4) 伊勢物語と能「井筒」 (奥田・国語学国文学)</p> <p>第11回. インド仏教の修行道(1) 修行道の確立に至るまで (中山・仏教学)</p> <p>第12回. インド仏教の修行道(2) 声聞乗(いわゆる小乗) (中山・仏教学)</p> <p>第13回. インド仏教の修行道(3) 独覚乗(いわゆる小乗) (中山・仏教学)</p> <p>第14回. インド仏教の修行道(4) 菩薩乗(大乘) (中山・仏教学)</p> <p>第15回. 総括</p>											
----- 東洋文化学系(ゼミナールII)(2)へ続く -----											

東洋文化学系(ゼミナールII) (2)

\*フィードバック方法については各講師が授業中に説明する。

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

平常点（20％）と学期末のレポート（80％、課題選択制）。

**【教科書】**

配布資料による。

**【参考書等】**

（参考書）  
授業中に紹介する

**【授業外学修（予習・復習）等】**

授業中に指示する。

**（その他（オフィスアワー等））**

質問等は授業後に受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目4

科目ナンバリング		U-LET42 10032 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子 非常勤講師 宮坂 真依子 非常勤講師 中村 満耶 非常勤講師 久保田 麻里 非常勤講師 霜田 洋祐 非常勤講師 青山 忠申 非常勤講師 山口 知廣			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語
題目		西洋文学へのいざない									
【授業の概要・目的】											
本研究科西洋文献文化学専攻出身の若手研究者7名によるリレー講義。西洋文化学系で学ぼうと考えている1・2回生をおもな対象として、西洋文学にかんする入門的な授業をおこなう。西洋古典文学、ロシア文学、ドイツ文学、フランス文学、イタリア文学、アメリカ文学の作家や作品を通して、西洋文学の多面的な魅力にふれるとともに、文学研究のさまざまなテーマや方法を学ぶことを目的とする。授業は講義形式を基本とするが、必要に応じて演習形式を取り入れることもある。											
【到達目標】											
西洋文学の代表的な作家・作品について学び、西洋文学の世界の多面的な魅力を理解する。合わせて、文学研究の方法への案内とする。											
【授業計画と内容】											
取り上げる担当者とテーマは次の通り。 一つのテーマについて2コマの授業時間をあてる。 第1・2週 中村満耶(西洋古典) 「ウエルギリウス『アエネーイス』を読む」 第3・4週 宮坂真依子(西洋古典) 「オウイディウスの『変身物語』を読む」 第5・6週 久保田麻里(仏文) 「フランス17世紀の演劇事情とモリエール」 第7・8週 青山忠申(露文) 「17世紀ロシアの文学ーアヴァクムの『自伝』を読む」 第9・10週 霜田洋祐(伊文) 「疫病と文学：マンゾーニの小説を読む」 第11・12週 山口知廣(独文) 「フランツ・カフカと映画」 第13・14週 小林久美子(米文) 「アメリカ文学における少年少女」 第15週 総括(小林)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点：1回の授業につき5点満点で評価 期末レポート：40点満点で評価											
----- 西洋文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く -----											

西洋文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

**[教科書]**

プリント配布。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業中に指示する。

**(その他(オフィスアワー等))**

あまり関心のないテーマにかんする授業でも、きっと新しい発見があるはずなので、ぜひ出席してみてください。

コーディネーター：小林久美子

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



学部共通科目5

科目ナンバリング		U-LET42 10032 SJ36										
授業科目名 <英訳>		西洋文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子 非常勤講師 飯島 雄太郎 非常勤講師 山下 裕大 同志社大学 嘱託講師 山下 大吾 非常勤講師 野末 幸子 非常勤講師 山下 大輔 非常勤講師 柴田 秀樹 非常勤講師 中村 満耶				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語	
題目		西洋文学の諸相										
[授業の概要・目的]												
本研究科西洋文献文化学専攻出身の若手研究者7名によるリレー講義。西洋文化学系で学ぼうと考えている1・2回生をおもな対象として、西洋文学にかんする入門的な授業をおこなう。西洋古典文学、ロシア文学、ドイツ文学、アメリカ文学、フランス文学のさまざまなジャンルの作品を通して、西洋文学の多面的な魅力にふれるとともに、文学研究のテーマや方法への理解を深めることを目的とする。授業は講義形式を基本とするが、必要に応じて演習形式を取り入れることもある。												
[到達目標]												
西洋文学の代表的な作家・作品について学び、西洋文学の世界の多面的な魅力を理解する。合わせて、文学研究の方法への案内とする。												
[授業計画と内容]												
取り上げるテーマと担当者は次の通り。 一つのテーマについて2回の授業時間をあてる。												
9月5日(月)												
1・2限 中村満耶(西洋古典)「エレゲイア詩を読む」												
3・4限 山下裕大(仏文)「不実の所在、起源への眼差し マリヴォー『いさかい』」												
9月6日(火)												
1・2限 山下大吾(露文)「プーシキンの抒情詩を読む」												
3・4限 飯島雄太郎(独文)「トーマス・ベルンハルト作品におけるトラウマ表象について」												
9月7日(水) 休み												
9月8日(木)												
1・2限 柴田秀樹(仏文)「20・21世紀フランス文学と哲学 ミシェル・フーコーを中心に」												
3・4限 野末幸子(米文)「イーディス・ウォートンの短編小説を読む」												
9月9日(金)												
1・2限 山下大輔(独文)「フランツ・カフカの物語における語りの仕組み 人称の問題につい												
----- 西洋文化学系(ゼミナールII)(2)へ続く -----												

西洋文化学系(ゼミナールII)(2)

て」  
3限 総括(小林)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

平常点：1回の授業につき5点満点で評価  
期末レポート：40点満点で評価

**【教科書】**

プリント配布。

**【参考書等】**

(参考書)  
授業中に紹介する

**【授業外学修(予習・復習)等】**

授業中に指示する。

**(その他(オフィスアワー等))**

あまり関心のないテーマにかんする授業でも、きっと新しい発見があるはずなので、ぜひ出席してみてください。

コーディネーター：小林久美子

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目6

科目ナンバリング		U-LET43 10042 SJ36										
授業科目名 <英訳>		歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 谷川 穰 非常勤講師 加藤 麻子 非常勤講師 岡島 陽子 非常勤講師 田口 佳奈 非常勤講師 佐藤 早紀子 非常勤講師 勅使河原 拓也 非常勤講師 伊藤 啓介 非常勤講師 平良 聡弘 非常勤講師 林 和樹 非常勤講師 藤田 風花 非常勤講師 浮網 佳苗				
配当年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語	
題目		歴史学研究の最前線(1) 日本史学・西洋史学のフロンティア										
【授業の概要・目的】												
歴史学研究の最前線で活躍する若手研究者が講師となり、自らの研究の体験をふまえながら、リレー形式で最新の研究成果をわかりやすく紹介する。前期の授業では、日本史学、西洋史学の新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得ることを目的とする。												
【到達目標】												
新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得る。												
【授業計画と内容】												
ゼミナール担当講師がリレー講義を行なう。講義担当者と講義題目(予定)は以下のとおり。日程については初回の授業で発表する。												
<p>加藤麻子「律令公文書制度の導入」          岡島陽子「日本古代女官制度について」          田口佳奈「平安時代の思想文化」          佐藤早紀子「平安時代の貴族装束について」          勅使河原拓也「院政期政治史と武力」          伊藤啓介「日本中世の手形と信用」          伊藤啓介「高解像度古気候復元データと日本中世史」          平良聡弘「対日使節派遣運動の展開と日本開国 ペリー来航の再検討」          平良聡弘「幕末維新期の日本観 「文明」と世界資本主義の論理」          林 和樹「産業革命期の日本交通史」          林 和樹「用材調達からみる近代日本の鉄道と地域」          藤田風花「東地中海世界と対抗宗教改革」          浮網佳苗「近代イギリスの消費文化と倫理」          浮網佳苗「近代イギリスの消費社会と若者」          谷川：フィードバック          *コーディネーター：谷川 穰</p>												
----- 歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く -----												

歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

フィードバックについては、授業中に指示する。

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

講義の感想を中心とする毎回の小レポート(40%)と、学期末のレポート(60%)にもとづいて総合的に評価する。

**【教科書】**

使用しない

**【参考書等】**

(参考書)  
授業中に紹介する

**【授業外学修(予習・復習)等】**

毎回、講師・テーマが変わるので、各講義で学んだ内容をそのたびに整理すること。

**(その他(オフィスアワー等))**

受講生には、講師への質問や授業内容に関連する問題提起など、積極的に授業に参加することを期待する。

前期は日本史・西洋史、後期は東洋史・西南アジア史・考古学と分かれているが、歴史学を様々な視点からみてほしいので、できれば志望する専修如何にかかわらず、前後期ともに受講するのが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目7

科目ナンバリング		U-LET43 10042 SJ36									
授業科目名 <英訳>	歴史基礎文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 谷川 穰 非常勤講師 宗 周太郎 非常勤講師 松島 隆真 非常勤講師 呉 明浩 非常勤講師 辻田 明子 非常勤講師 田中 悠子 非常勤講師 法貴 遊 非常勤講師 高木 康裕 非常勤講師 高野 紗奈江				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語
題目	歴史学研究の最前線(2) 東洋史学・西南アジア史学・考古学のフロンティア										
[授業の概要・目的]											
歴史学研究の最前線で活躍する若手研究者が講師となり、リレー形式で最新の研究成果をわかりやすく紹介する。後期の授業では、東洋史学・西南アジア史学・考古学の新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得ることを目的とする。											
[到達目標]											
新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得る。											
[授業計画と内容]											
ゼミナール担当講師がリレー講義を行なう。講義担当者と講義題目は以下のとおり。日程については初回の授業で発表する。											
<p>宗周太郎「簡牘史料と中国古代経済史」          宗周太郎「中国古代の交通管理」          松島隆真「前漢時代の「孝」と政治」          松島隆真「漢代中国の「天下」観と国際関係」          呉 明浩「唐宋変革と税法」          呉 明浩「唐宋変革と貨幣」          辻田明子「古代メソポタミアの書記教育」          田中悠子「イスラーム初期史研究の困難とカリフ像」          田中悠子「イスラーム初期の異端(者)イメージとその『利用』」          法貴 遊「10世紀から13世紀の間に記されたカイロ・ゲニザ文書に見られる西アジアのユダヤの歴史」          法貴 遊「16世紀から19世紀の間に記されたカイロ・ゲニザ文書に見られる西アジアのユダヤの歴史」          高木康裕「先史時代の日本列島における石器石材の利用」          高野紗奈江「縄文原体」          高野紗奈江「『縄文』にみる西日本縄文時代後期」          谷川：フィードバック          *コーディネーター：谷川 穰</p>											
フィードバックについては、授業中に指示する。											
----- 歴史基礎文化学系(ゼミナールII)(2)へ続く -----											

歴史基礎文化学系(ゼミナールII)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

講義の感想を中心とする毎回の小レポート（40％）と、学期末のレポート（60％）にもとづいて総合的に評価する。

**【教科書】**

使用しない

**【参考書等】**

（参考書）  
授業中に紹介する

**【授業外学修（予習・復習）等】**

毎回、講師・テーマが変わるので、各講義で学んだ内容をそのたびに整理すること。

**（その他（オフィスアワー等））**

受講生には、講師への質問や授業内容に関連する問題提起など、積極的に授業に参加することを期待する。

前期は日本史・西洋史、後期は東洋史・西南アジア史・考古学と分かれているが、歴史学を様々な視点からみてほしいので、できれば志望する専修如何にかかわらず、前後期ともに受講するのが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目8

科目ナンバリング		U-LET44 10052 SJ36									
授業科目名 <英訳>		行動・環境文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 非常勤講師 鈴木 赳生 非常勤講師 山本 博子 非常勤講師 徐 堯 非常勤講師 田多井 俊喜 非常勤講師 翁 和美 非常勤講師 山岡 翔			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語
題目		行動文化学への招待									
[授業の概要・目的]											
<p>行動文化系の分野で研究している新進気鋭の研究者たちが、この分野で研究する事の意義や楽しさを紹介し、あわせて研究の始め方や、基本となる入門書、当初に遭遇する困難など、学生に近い立場から具体的に語りかけるとともに、学生の相談にも応えます。</p>											
[到達目標]											
<p>行動文化学に関する最新の知見と方法論を習得し、人間が日常使う言語や、心の動き、社会の中で行動とそれを取り巻く地域そのものについて包括的に理解する力をつけます。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>下記のテーマについて扱う予定です。変更や追加もあり得ますので、その場合はKULASIS上でお知らせします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 差異をとおして社会をみる(鈴木 赳生)</li> <li>3. 多文化の問いにどう応えるか(鈴木 赳生)</li> <li>4. 社会学の基礎 M・ヴェーバーの社会学(山本 博子)</li> <li>5. 福祉国家論の展開(徐 堯)</li> <li>6. 後発福祉国家の形成(徐 堯)</li> <li>7. ジェンダー・アイデンティティをめぐる論争(田多井 俊喜)</li> <li>8. 「性同一性障害」当事者と生存権(田多井 俊喜)</li> <li>9. ビジネス倫理と性的マイノリティ(田多井 俊喜)</li> <li>10. 認知症の医療の場の社会学〔1〕医療の場に接ぎ木された「日常生活世界」(翁 和美)</li> <li>11. 認知症の医療の場の社会学〔2〕「日常生活世界」を社会学する(翁 和美)</li> <li>12. 音声と音韻(山岡 翔)</li> <li>13. 音声から音韻を考える(1)(山岡 翔)</li> <li>14. 音声から音韻を考える(2)(山岡 翔)</li> <li>15. フィードバック</li> </ol>											
<p>----- 行動・環境文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く -----</p>											

行動・環境文化化学系(ゼミナールⅠ)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

平常点評価です。毎回小テストを実施し、前期を通じての平均点で評価します。小テストを受けない回は0点として計算されます。

**【教科書】**

教材は必要に応じて授業中に配布します。

**【参考書等】**

(参考書)  
授業中に紹介する

**【授業外学修(予習・復習)等】**

授業中に指示します。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーは特に設けませんが、授業の後に担当の講師と話し合ってください。また各講師ごとに授業に関するアンケートをします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



学部共通科目9

科目ナンバリング		U-LET44 10052 SJ36									
授業科目名 <英訳>	行動・環境文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 千田 俊太郎 非常勤講師 朝倉 慎人 非常勤講師 谷本 涼 非常勤講師 武田 龍樹 非常勤講師 宮武 実知子 非常勤講師 LADMIRAL, Guillaume 非常勤講師 脇坂 美和子 非常勤講師 戸梶 民夫				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語
題目	行動文化学への招待										
[授業の概要・目的]											
行動文化系の分野で研究している新進気鋭の研究者たちが、この分野で研究する事の意義や楽しさを紹介し、あわせて研究の始め方や、基本となる入門書、当初に遭遇する困難など、学生に近い立場から具体的に語りかけるとともに、学生の相談にも応えます。											
[到達目標]											
行動文化学に関する最新の知見と方法論を習得し、人間が日常使う言語や、心の動き、社会の中で の行動とそれを取り巻く地域そのものについて包括的に理解する力をつけます。											
[授業計画と内容]											
下記のテーマについて扱う予定です。変更や追加もあり得ますが、KULASIS上でお知らせします。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 生活空間の観光化と地域社会の論理 (朝倉 慎人)</li> <li>3. 農村らしさの商品化と観光地の葛藤 (朝倉 慎人)</li> <li>4. 地理学における生活の質とアクセシビリティ (谷本 涼)</li> <li>5. 現代におけるアクセシビリティ分析の技法と事例 (谷本 涼)</li> <li>6. 暴力の人類学 1 (武田 龍樹)</li> <li>7. 暴力の人類学 2 (武田 龍樹)</li> <li>8. インタビューの心得 沖縄での経験から (宮武 実知子)</li> <li>9. ネットワーク分析入門 1 グローバル化と世界経済システムを応用例にして (ラドミラル ギヨーム)</li> <li>10. ネットワーク分析入門 2 バランス理論、仲介役割、普及 (ラドミラル ギヨーム)</li> <li>11. ネットワーク分析入門 3 ー引用と系譜 (ラドミラル ギヨーム)</li> <li>12. 90年代以後の日本における性的マイノリティの新自由主義化とその乗り越え (戸梶 民夫)</li> <li>13. 日本語と方言と気づかない日本語と気づかない方言 1 (脇坂 美和子)</li> <li>14. 日本語と方言と気づかない日本語と気づかない方言 2 (脇坂 美和子)</li> <li>15. フィードバック</li> </ol>											
----- 行動・環境文化学系(ゼミナールII)(2)へ続く -----											

行動・環境文化学系(ゼミナールII)(2)

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

平常点評価です。毎回小テストを実施し、後期を通じての平均点で評価します。小テストを受けない回は0点として計算されます。

**[教科書]**

教材は必要に応じて授業中に配布します。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業中に指示します。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーは特に設けませんが、授業の後に担当の講師と話し合ってください。また各講師ごとに授業に関するアンケートをします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目10

科目ナンバリング		U-LET45 10062 SJ36									
授業科目名 <英訳>		基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透 非常勤講師 福田 耕佑 非常勤講師 谷 セツニ 非常勤講師 白木 正俊 非常勤講師 TATARCZUK, Marcin Adam 非常勤講師 佐藤 夏樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語
題目		現代文化学への招待Ⅰ									
[授業の概要・目的]											
<p>現代文化学専攻の博士後期課程を修了した若手研究者が、現代文化学系を志す後輩達に、自分たちの最新の研究成果をふまえて、現代文化学系の学問についてわかりやすく講義します。この科目は二つの性格をもっています。</p> <p>ひとつ目は、現代文化学に関心をもつ1、2回生のための導入的専門科目という性格です。多様な現代文化学系の研究内容の一端を示すことで、現代文化学系への理解を深めてもらい、1回生には、系分属選択の判断材料を、2回生には、専修選択の判断材料を提供することがその目的です。</p> <p>ふたつ目は、大学教員をめざす若手研究者のための教育実践（大学教育改善のための実践＝FDの一環であるプレFD）の場であるということです。現代文化学系で学び、将来大学教員を志す若手研究者が、実際に学生に教えることで、その教育力を延ばすことが目的となります。そのために毎回授業終了後に、授業について感想や意見を書いもらうアンケートを実施します。</p>											
[到達目標]											
<p>この科目は、現代文化学系に関心をもっている学生に、多様性に富む現代文化学系の学問内容の一端を提示することを目的としています。リレー講義を担当する若手の研究者は、未熟ですが、同時に最先端に近いところで研究をしています。そういった研究の新動向を少しでも知ることによって、受講生が現代文化学系に関心をもつようになり、専修分属を決める際の判断材料の材料となります。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>初回の授業で簡単なガイダンスを行った後、下記の予定で5名の講師が各3回の授業を行う。</p> <p>第1～3週：日本文化の形成史：特有文化の作られ方 （担当：マルチン・タタルチュック） 第1回 明治時代の京都と国風文化 第2回 20世紀における国風文化・物語・観光 第3回 現代京都と新たな文化の試み</p> <p>第4～6週：ヒスパニックと中米紛争（エルサルバドルを中心に） （担当：佐藤夏樹） 第1回 ヒスパニック／ラティーノの形成 第2回 ヒスパニックと中米紛争 第3回 ラティーノと中米紛争</p> <p>第7～9週：日本近代都市における人と水の関係史～京都市を事例に～ （担当：白木正俊）</p>											
----- 基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く -----											

## 基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

第1回 近代社会における人と水の関係史

第2回 都市における利水事業の展開

第3回 都市における治水事業の展開

第10～12週：戦間期日本の知識人の対中国認識

(担当：谷セツニ)

第1回 大正デモクラットの中国観：吉野作造

第2回 大正デモクラットの中国観：福田徳三

第3回 「外地」メディアにおける中国評論：橋樸

第13～15週：戦間期のギリシア散文文学における西洋化 - 「八十年世代」(新アテネ派)から「三十年世代」へ -

(担当：福田耕佑)

第1回 導入：「メガリ・イデア」と言語問題の背景について

第2回 ギリシア王国独立後の文学的潮流と新アテネ派(八十年世代)の作品と言語

第3回 ヨルゴス・テオトカスの『自由なる精神』(1929)とギリシアのヨーロッパ化

### 【履修要件】

授業は主として1, 2回生を受講者に想定しておこないますが、3, 4回生の受講も可。

### 【成績評価の方法・観点】

授業への参加態度と試験によって総合的に成績を評価します。試験は、各授業担当者が与える課題についてレポートの提出してもらいます。

平常点50%, 試験(レポート)50%とします。

平常点:リフレクションシートによって評価します。5回以下の提出は0点、6～7回25点、8～9回30点、10～11回35点、12～13回40点、14回45点、15回50点とします。

30分以上遅刻した場合は、リフレクションシート提出回数に加えません。

試験(レポート)：各講師の最後の授業で出されたレポート課題を提出する。分量は400～800字程度。講師5人に提出した課題の平均点が50点満点で成績となります。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

授業時に、各担当者から、課題が提示されることがあります。その指示にしたがってください。

基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ)(3)

(その他(オフィスアワー等))

この授業の一部は、若手研究者のためのプレFDプログラムに参加しています。そのために毎回授業終了後に、授業について感想や意見を書いもらうアンケートを実施することがあります。また、プレFD対象授業は受講生以外の参観者の出席をみとめています。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目11

科目ナンバリング		U-LET49 39639 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（初級）（語学） Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（初級）									
【授業の概要・目的】											
ヘブライ語の文字、母音記号などの聖書テキストの伝統、またラビ文学を含む歴史的な言語文化の変化を概要するとともに、文法の基礎（名詞、人称代名詞、形容詞、前置詞、語根、分詞ほか）を教える。名詞文の特徴的構造に親しみ、さらに個々の文法事項がもつ聖書解釈上の意義についても解説する。その際、16 - 17世紀の文法学者の意見も紹介する。											
【到達目標】											
ヘブライ語の文字と母音記号を認識して、文章を声に出して読めること。ヘブライ語作文ができること。辞書を使えるようになること。また簡単な名詞文の和訳ができること。											
【授業計画と内容】											
1．ヘブライ語の歴史（概観）、2．文字と母音記号、3．音節と区切り、4．形容詞と名詞（単数と複数）、5．形容詞と名詞（ジェンダーと性別他）、6．存在詞と非存在詞、7．現在分詞と名詞、8．語根とビニヤン（導入）、9．カルとニファル、10．ピエルとプアル、11．ヒフィルとフファル、12．ヒトパエルとニファル、13．人称代名詞と接尾辞、14．一般と唯一、15．まとめ											
* 1 課題あたり 1 ~ 2 回を当てる場合もある。 * * 内容や順番は授業の進捗状況で多少変化することもある。 * * * 確認クイズは 2 ~ 3 回、学習の区切りで行う。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題（20%）、クイズ（30%）、小テスト（50%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
-----ヘブライ語（初級）（語学）(2)へ続く-----											

ヘブライ語（初級）(語学)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業時に指示する暗記課題や練習問題をすること。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目12

科目ナンバリング		U-LET49 39640 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（中級）（語学） Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（中級）									
【授業の概要・目的】											
<p>動詞（完了形・未完了形・命令形、時制など）のシステムと、その文章構造の理解を中心にヘブライ語文法の基礎を学ぶ。語根別の共通変化パターン、および歴史的な語根の混同また時制システムの歴史的な問題を学ぶ。聖書テキストを含む色々な時代のテキストを声に出して読み、テキスト翻訳の中で注意すべき文法的な事項の認識を深める。また聖書テキストの中にある、言葉の結びつきと切り離しの伝統（タアメイ・ミクラー）の重要性も解説する。動詞の理解については、16 - 17世紀の文法学者の意見にも注目する。</p>											
【到達目標】											
<p>動詞 / 完了・未完了の基本活用を覚えること。語根パターンが生む不規則変化を認識できること。完了・未完了・分詞を含む現代ヘブライ語の文構造を理解し翻訳できること。聖書ヘブライ語の特殊な時制構造を理解すること。辞書を効果的に用いること。母音記号なしのテキストも多少読めること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1．名詞文と動詞の確認、2．名詞と動詞パラダイムの諸問題、3．完了形（基本）、4．未完了形（基本）、5．不定詞と命令形、6．レヴィータ文法（自動詞、他動詞）、7．レヴィータ文法（時制と時間）、8．語根 / ギズラー、9．W倒置と北西セム語、10．読解聖書、11．読解ラビ文献、12．読解中世文献、13．読解近代文献、14．読解現代文、15．まとめ</p> <p>* 1 課題あたり 1 ~ 2 回の授業を要する場合もある。          * * 進捗状況をみながら内容や順番は多少変化する。          * * * 学習の区切りで、2~3回の確認クイズをする。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題（20%）、クイズ（30%）、注解レポート（50%）											
-----ヘブライ語（中級）（語学）(2)へ続く-----											



ヘブライ語（中級）(語学)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

（参考書）

授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業時に指示する暗記課題やテキスト読解の予習をすること。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目13

科目ナンバリング		U-LET49 19616 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(2時間コース)(語学) Sanskrit(2H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級文法(2時間コース)									
【授業の概要・目的】											
<p>サンスクリット語は南アジア(インド)において、古くは紀元前1200年頃より、多くの文献資料を残してきた言語である。サンスクリット語の習得は、インドの宗教(仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教等)や哲学文献、文学の研究へと道を開く。また、サンスクリット語は、インド・ヨーロッパ語族に属し、その古さと文法・音韻の保守性から、インド・ヨーロッパ祖語の解明・理解に欠かせない重要言語であるため、言語学、西洋古典の学生、研究者にも有益である。</p>											
【到達目標】											
<p>このコースでは古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の文法事項の解説と、各項目に関する練習問題による読解演習とを平行して行います。</p> <p>前期 サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3回) 名詞・形容詞曲用(母音語幹:第4-8回、子音語幹:第9-13回) 代名詞、数詞、複合語(第14-15回)</p> <p>後期 動詞現在活用(第1種活用:第16-18、第2種活用:第19-22回) 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞(第23-29回) 年度末テスト(テスト期間) フィードバック期間:フィードバック(第30回)</p> <p>授業の進行は受講生の理解度に応じて変更する場合があります。</p>											
----- サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)

**[履修要件]**

予備知識は特に必要としません。幅広い専攻からの受講を歓迎します。

**[成績評価の方法・観点]**

- ・平常点(練習問題への理解度、および理解への積極性、50点)
- ・年度末筆記試験(50点)。

**[教科書]**

吹田隆道(編著)『実習サンスクリット文法:萩原雲来『実習梵語学』新訂版』(春秋社)ISBN:978-4393101728

必要に応じて、補助資料(プリント)を配布します。

**[参考書等]**

(参考書)

辻直四郎『サンスクリット文法』(岩波書店)ISBN:978-4000202220

**[授業外学修(予習・復習)等]**

予習:各回の進捗状況に合わせて、原則として次の2つのいずれかを授業中に指示します。

- ・宿題として出された練習問題の解答(訳)を準備してくること。
- ・次回の学習テーマとなる文法事項について、テキストの解説に目を通しておくこと。

復習:授業内容を見直すこと(特に、練習問題で正解できなかった点を中心に見直す)。

授業の進捗状況や受講生の理解度によって、変更する場合があります。基本的には、毎回の授業で指示します。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目14

科目ナンバリング		U-LET49 19617 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(4時間コース)(語学) Sanskrit(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	月5,木5	授業 形態	語学	使用 言語	英語
題目		Sanskrit Grammar									
【授業の概要・目的】											
<p>This course targets at students with no prior knowledge of Sanskrit and offers a systematic introduction to the Sanskrit language and its linguistic background. The course content basically include: (1) Learn the Sanskrit grammar and check the linguistic remarks in the textbook (see below); (2) Historical grammar of Sanskrit (for example cognate words in other language families including Iranian, Greek and Germanic languages); (3) Translate Sanskrit sentences into English (exercises in the textbook + Buddhist Sanskrit texts); (4) Occasional exercise of English to Sanskrit translation.</p>											
【到達目標】											
<p>(1) to read and write in Devanagari-script (also used for Hindi)  (2) to gain a systematic overview of basic and intermediate grammar of Classical Sanskrit  (3) to develop skills of reading and interpreting simple prose and verse in Classical Sanskrit  (4) to understand the history and linguistic background of Sanskrit  (5) to develop basic skills in composing prose sentences in Classical Sanskrit</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The overall duration of the course is 30 weeks (15 + 15). Based on the plan laid out in the Japanese version of Perry 's Sanskrit Primer, the first semester covers lessons 1 to 22 and the second semester covers lessons 23 to 45.</p> <p>First semester  Week #01 Introduction to Sanskrit language  Week #02 to #14: Grammar and exercises in lessons 1 to 22.  Week #15: Feedback</p> <p>Second semester  Week #01 Review course content of lessons 1 to 22  Week #02 to #14: Grammar and exercises in lessons 23 to 45.  Week #15: Feedback</p>											
【履修要件】											
Classes will be held in English with translational help provided by a Japanese TA.											
----- サンスクリット(4時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

サンスクリット ( 4 時間コース ) ( 語学 ) ( 2 )

**[成績評価の方法・観点]**

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.  
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

**[教科書]**

Edward Perry 『A Sanskrit Primer』 ( Orient Book Distributors, 1986 ) ISBN:978-8120802070 ( both English and Japanese version will be used )  
Antonia Ruppel 『Cambridge Introduction to Sanskrit』 ( Cambridge University Press, 2017 ) ISBN:978-1107459069 ( <https://www.cambridge-sanskrit.org> )  
Manfred Mayrhofer 『Sanskrit-Grammatik mit sprachvergleichenden Erläuterungen』 ( de Gruyter, 1978 ) ISBN:978-3110071771  
The books by Perry and Ruppel can be purchased at the department room of Indological Study.

**[参考書等]**

( 参考書 )  
授業中に紹介する

( 関連 URL )

<https://www.sanskrit-lexicon.uni-koeln.de/scans/MWScan/2014/web/webtc2/index.php>(Sanskrit-English Dictionary)  
<https://www.sanskrit-lexicon.uni-koeln.de/scans/AEScan/2014/web/webtc/indexcaller.php> (English-Sanskrit Dictionary)  
<https://vedaweb.uni-koeln.de/rigveda/view/id/2.1.1>(Rigveda explained)  
<http://dsal.uchicago.edu/dictionaries/>(Dictionaries of Indian languages)  
<http://www.indoskript.org/letters>(Scripts)

**[授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]**

Homework involves preparing translations from Sanskrit into English. Weekly review of grammatical categories and memorization of vocabulary. The expected preparation time is approximately two to three hours per week.

( その他 ( オフィスアワー等 ) )

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目15

科目ナンバリング		U-LET49 19633 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語（初級）（語学） Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 国際教養学部 准教授 小松 久恵			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語（初級）									
【授業の概要・目的】											
21世紀の世界において重要な役割を果たすと予想される巨大国家インドの公用語ヒンディー語の初等文法と簡単な会話を学ぶ。また映像・画像などのビジュアルを通して、急激に変化を遂げる現代インド社会に触れる。インド古典文学の専攻者だけでなく、将来商社マン・外交官あるいは技術者として南アジア地域での活動を希望する諸君にも是非受講してもらいたい。											
【到達目標】											
インドでは英語が通じると言われるが、実際には、英語を不自由なくしゃべることのできる話者数は全人口の5パーセントにも満たない。インド人と深い意思疎通をするためには現地語を知ることが不可欠となる。インドの公用語であるヒンディー語を通して異文化世界としての北インドについて学び、世界認識の幅を広げる。ヒンディー文字を習得し、ヒンディー語の初級文法と簡単な会話を理解する。											
【授業計画と内容】											
教科書を毎回一課の速度で進んでいき、1年で文法を一通り終えて読み物を読んだり、簡単な会話ができるようになることを目標とする。また適宜、映画を用いて音声でのヒンディー語のみならずインドの社会風俗にも触れる。											
前期											
1．導入【1週】											
2．文字と発音【4週】											
3．文法と会話【9週】											
4．中間試験【1週】											
5．中間試験のフィードバック【1週】											
後期											
6．文法と会話【8週】											
7．文法と絵本・新聞講読【6週】											
8．期末試験【1週】											
9．期末試験のフィードバック【1週】											
【履修要件】											
授業には継続的に参加すること。											
----- ヒンディー語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

## ヒンディー語（初級）(語学)(2)

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（30％）と筆記試験（期末30％、年度末40％）によって評価する。

### 【教科書】

町田和彦『ニューエクスプレス ヒンディー語』（白水）ISBN:978-4-560-06791-8（同著者の「CDエクスプレス、ヒンディー」とは別の本なので、間違えないこと）

### 【参考書等】

（参考書）  
辞書については初回の授業で紹介する。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

授業の前日までに前回の講義内容を見直し、特に前回の練習問題を復習しておく。インド関係の情報に関心を持つこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目16

科目ナンバリング		U-LET49 29659 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語（中級）I Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 准教授 西岡 美樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語中級 I									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複雑な文章を精読できるようになる。</li> <li>2. 日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。</li> <li>3. 自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。</li> <li>4. 単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。</p> <p>第1～5週目：アクバルとビールバル、パンチャタントラ、小話ほか          第6～10週目：インド神話関連の物語          第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（マハーバーラタ、カター・サーガルなど）</p> <p>なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。          また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。</li> <li>・ ヒンディー語初級文法を一通り（目安は下記URLの『初級ヒンディー語文型練習帳』の第1課 - 第15課の文法項目）習得していること。</li> <li>・ 毎年、初級ヒンディー語の進度が全20課中11課あたりで終了しているが、本授業で未習の初級の文法項目については改めて説明しないので、受講する場合はその旨留意すること。</li> </ul>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業への積極的な参加（40%）          期末試験あるいはレポート（60%）</p>											
----- ヒンディー語（中級）I(2)へ続く -----											



## ヒンディー語（中級）I(2)

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### （関連URL）

<https://www.youtube.com/channel/UCsyoNsQE37tZIkuvqVPTa7g>(Hindi Fairy Tales)  
<https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ>(Hindi Acharya)  
[https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR\\_Vw](https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR_Vw)(Indian Stories For Kids)  
<https://www.youtube.com/channel/UCR22sCPCRx3J9nfCUV4htGw>(Akbar Birbal Stories)  
[https://www.youtube.com/channel/UCVP73\\_P70GlqG618HNX8qg](https://www.youtube.com/channel/UCVP73_P70GlqG618HNX8qg)(Panchatantra Stories in Hindi)  
<https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzIO0B-ltIZoCg>(Gyan Manthan)  
<http://www.jansatta.com/>(Jansatta (インドのヒンディー語新聞))  
[http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav\\_Bharat\\_Times/](http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/)(Nav Bharat Times (インドのヒンディー語新聞))  
<https://www.youtube.com/user/abpnewstv>(ABP NEWS (インドのニュース・報道専門番組))  
<http://khabar.ndtv.com/>(NDTV (インドのニュース・報道専門番組))  
<https://www.youtube.com/user/aajaktv>(Aaj Tak (インドのニュース・報道専門番組))  
<https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtweyHcFJyyMfw>(Doordarshan National)  
<https://publication.aa-ken.jp>(西岡美樹 (2017) 『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』、 『初級ヒンディー語文型練習帳』)  
<https://flipgrid.com/>(FLIPGRID (教育用Video SNSサービス))  
<https://www.bookwidgets.com/>(BookWidgets (復習用オンライン・アプリケーション))

### [授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
- ・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

### （その他（オフィスアワー等））

今年度の本授業は中級レベルの予定である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目17

科目ナンバリング		U-LET49 29660 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語（中級）II Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 准教授 西岡 美樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語中級 II									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複雑な文章を精読できるようになる。</li> <li>2. 日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。</li> <li>3. 自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。</li> <li>4. 単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。</p> <p>第1～5週目：現代の短篇小説、ヒンディー語映画の詩歌          第6～10週目：新聞記事、TVニュース          第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（ラーマーヤナ、ヴィシュヌ・プラーナ、カター・サーガルなど）</p> <p>なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。          また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。</li> <li>・ ヒンディー語初級文法を一通り（目安は下記URLの『初級ヒンディー語文型練習帳』の第1課 - 第15課の文法項目）習得していること。</li> <li>・ 毎年、初級ヒンディー語の進度が全20課中11課あたりで終了しているが、本授業で未習の初級の文法項目については改めて説明しないので、受講する場合はその旨留意すること。</li> </ul>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業への積極的な参加（40%）          期末試験あるいはレポート（60%）</p>											
----- ヒンディー語（中級）II(2)へ続く -----											

## ヒンディー語（中級）Ⅱ(2)

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### （関連URL）

<https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ>(Hindi Aacharya)  
[https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR\\_Vw](https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR_Vw)(Indian Stories For Kids)  
<https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzIO0B-ltIZoCg>(Gyan Manthan)  
<https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtweyHcFJyyMfw>(Doordarshan National)  
<https://www.youtube.com/user/abpnewstv>(ABP NEWS (インドのニュース・報道専門番組))  
<http://khabar.ndtv.com/>(NDTV (インドのニュース・報道専門番組))  
<https://www.youtube.com/user/aahtaktv>(Aaj Tak (インドのニュース・報道専門番組))  
<http://www.jansatta.com/>(Jansatta (インドのヒンディー語新聞))  
[http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav\\_Bharat\\_Times/](http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/)(Nav Bharat Times (インドのヒンディー語新聞))  
<https://publication.aa-ken.jp>(西岡美樹 (2017) 『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』、 『初級ヒンディー語文型練習帳』)  
<https://flipgrid.com/>(FLIPGRID (教育用Video SNSサービス))  
<https://www.bookwidgets.com/>(BookWidgets (復習用オンライン・アプリケーション))

### [授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
- ・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

### （その他（オフィスアワー等））

今年度の本授業は中級レベルの予定である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目18

科目ナンバリング		U-LET49 29628 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（初級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語初級									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>											
【到達目標】											
前期はチベット文字およびその読み方を習得し、チベット語の名詞の構造、文での使い方を理解する。											
【授業計画と内容】											
授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション（1週）</li> <li>2. 文字と発音（4週）</li> <li>3. 名詞（4週）</li> <li>4. 形容詞（1週）</li> <li>5. 助動詞（3週）</li> <li>6. まとめ（1週）</li> <li>7. フィードバック（1週）</li> </ol> <p>「概要・目的」欄に書いたように、日本語話者にとってチベット語はとくに難しい言語ではない。授業は、文字の習得から始め、日本語と異なる特徴を示す点についてはできる限り丁寧に説明を加えながら、段階的に文法の複雑なレベルに進む。</p> <p>受講生は、理解できない点を積極的に質問することが期待される。</p>											
チベット語（初級）(語学)(2)へ続く											

## チベット語（初級）(語学)(2)

### 【履修要件】

特にないが、後期のチベット語（初級）をあわせて受講することが望ましい。

### 【成績評価の方法・観点】

成績は、平常点（100％）によって評価する。

### 【教科書】

プリントを配布する。

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目19

科目ナンバリング		U-LET49 29629 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語(初級)(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語初級									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>											
【到達目標】											
後期は動詞の屈折を中心として学び、文の構造を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>前期のチベット語(初級)に引き続き、チベット語初級文法を解説する。授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動詞(5週)</li> <li>2. 複文他(5週)</li> <li>3. チベット語テキスト演習(4週)</li> <li>4. フィードバック(1週)</li> </ol> <p>基本的な文法の解説を終えた後は、性格の異なる短い文章をできる限り読み、実践的なチベット語の習得を目指す。</p>											
【履修要件】											
前期のチベット語(初級)を受講していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
成績は、平常点(100%)によって評価する。											
----- チベット語(初級)(語学)(2)へ続く -----											

チベット語（初級）(語学)(2)

**[教科書]**

プリントを配布する。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目20

科目ナンバリング		U-LET49 39630 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（中級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語（中級）									
【授業の概要・目的】											
この授業では、チベット語初級を終えた学生が次の課題として取り組みうる程度の現代チベット語の物語を読む。現代チベット語の読み物を通して中級レベルのチベット語を学ぶ。また、チベット語の読解を通じて、初級文法の復習を行う。											
【到達目標】											
チベット語文法に対する理解を深め、現代チベット語を読解する能力を習得することを目的とする。											
【授業計画と内容】											
この授業で使用するテキストは、中国から出版された笑い話集である。同書は、比較的短い物語を集めており、文法的にも容易で読みやすい。同時に、チベット人が持つユーモアや皮肉を含んでおり、たんに文法を学ぶだけではなく、その精神世界の一部をかいま見ることができよう。											
前期の授業は、テキストを丁寧に読みながら、文法事項を確認することで進められる。テキストは毎回1-2話ずつのペースで読む予定である。受講生は、内容を把握するだけではなく、文法事項についても理解することが求められる。助詞や助動詞の用法、また動詞の形態変化などの理解を深めることが目標の一つである。											
第1回 イン트로ダクション 第2～14回 チベット語テキストの輪読 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
チベット語初級文法を終えていること。後期のチベット語（中級）をあわせて受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（担当個所について十分に予習しているかどうか、また非担当個所についての担当者への質問など）。必要に応じて、学期末に試験を行うか、レポートの提出を求めることがある。											
【教科書】											
テキストは、プリントとして配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- チベット語（中級）(語学)(2)へ続く -----											



手ペット語（中級）(語学)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

担当箇所について、十分に予習するとともに、担当箇所以外も予習をして内容についての議論に参加できるようにすること。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目21

科目ナンバリング		U-LET49 39630 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（中級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語（中級）									
【授業の概要・目的】											
この授業では、チベット語初級を終えた学生が次の課題として取り組みうる程度の現代チベット語の物語を読む。現代チベット語の読み物を通して中級レベルのチベット語を学ぶ。また、チベット語の読解を通じて、初級文法の復習を行う。											
【到達目標】											
チベット語文法に対する理解を深め、現代チベット語を読解する能力を習得することを目的とする。											
【授業計画と内容】											
この授業で使用するテキストは、中国から出版された笑い話集である。同書は、比較的短い物語を集めており、文法的にも容易で読みやすい。同時に、チベット人が持つユーモアや皮肉を含んでおり、たんに文法を学ぶだけではなく、その精神世界の一部をかいま見ることができよう。											
後期の授業は、テキストを丁寧に読みつつ、前期よりもペースを上げて読む予定である。受講生は、文法事項を正確に把握しつつ、内容をより深く理解することが求められる。											
第1回 イン트로ダクション 第2～14回 チベット語テキストの輪読 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
チベット語初級文法を終えていること。後期のチベット語（中級）をあわせて受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（担当個所について十分に予習しているかどうか、また非担当個所についての担当者への質問など）。必要に応じて、学期末に試験を行うか、レポートの提出を求めることがある。											
【教科書】											
テキストは、プリントとして配布する。											
チベット語（中級）(語学)(2)へ続く											

チベット語（中級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

担当箇所について、十分に予習するとともに、担当箇所以外も予習をして内容についての議論に参加できるようにすること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目22

科目ナンバリング		U-LET49 29664 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ギリシア語（初級I）（語学） Greek				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語を学ぶ									
[授業の概要・目的]											
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>											
[到達目標]											
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。</p> <p>簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。</p> <p>古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 イン트로ダクション、ギリシア文字の読み方・書き方</p> <p>第2回から第14回 古典ギリシア語初歩の解説</p> <p>教科書の第3課から第17課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また活用・変化を覚えてもらうために小テストを2・3回実施する。</p> <p>期末試験</p> <p>第15回 フィードバック（試験の解説、前期の復習）</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
練習問題への取り組み（30%）、小テスト（20%）、試験（50%）で評価する。											
[教科書]											
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
毎回課される練習問題に取り組む、活用・変化を覚えるために繰り返し自習することが求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

学部共通科目23

科目ナンバリング		U-LET49 29665 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ギリシア語（初級II）（語学） Greek				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語を学ぶ									
【授業の概要・目的】											
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>											
【到達目標】											
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。 簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。 古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回から第15回 古典ギリシア語初歩の解説 教科書の第18課から第36課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また最後の3回は哲学・文学・歴史など履修者の関心に合わせて、短いテキストを講読する。</p>											
【履修要件】											
<p>前期の「ギリシア語（初級I）」を履修しているか、それに相当する文法知識を持っていること。 詳しくは初回のイントロダクションの際に相談すること。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>練習問題・講読への取り組みで評価する。また履修者数や学習状況によっては、授業内試験を実施する。</p>											
【教科書】											
<p>水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）</p>											
----- ギリシア語（初級II）（語学）(2)へ続く -----											

ギリシア語（初級II）（語学）(2)

[参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回課される練習問題に取り組み、語形変化・活用を覚えるための自習を行い、講読のために予習してこること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目24

科目ナンバリング		U-LET49 29615 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ギリシア語 (4時間コース) (語学) Greek(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 広川 直幸			
配当 学年	2回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	月1,木1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ギリシア語 (4時間コース)									
[授業の概要・目的]											
<p>ギリシア語 (正確にはギリシャ語) はヨーロッパで最も歴史の長い言語である。線文字B文書を別にすれば、紀元前8世紀後半から現在に至るまで文献が残っている。その長い歴史の中で便宜上「古典ギリシア語」と呼ばれる期間のギリシア語の基礎を習得するのがこの授業の目的である。教科書では紀元前5～4世紀頃のアッティカ方言を中心に学ぶ。アッティカ方言は、標準語を持たなかった古典ギリシア語の中で最も豊富に文献を残しており、比較的良好に実態が解明されている方言である。それゆえ、アッティカ方言の学習は、同時代の他の方言で書かれた文献を読むためにも、またそれ以前の文献 (例えばホメロス) やそれ以後の文献 (例えば『新約聖書』) を読むためにも必須である。この授業では、教科書により基礎的文法と最小限の語彙を習得することを目指すのはもちろんのこと、教科書終了後、平易なテキストを講読することにより、教科書で得られる知識と本格的な原典講読のために必要な知識との間にある非常に大きな隔たりをできるだけ小さくし、スムーズに原典講読に移行できるようになることを目指す。</p>											
[到達目標]											
<p>古典ギリシア語アッティカ方言の基礎を習得することにより、辞書、文法書等を活用して各自が望むギリシア語原典 (紀元前8世紀の叙事詩から紀元後4世紀頃の擬古文まで) の読解に取りかかることができるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>まずは全36課の教科書を原則として一回に一課ずつ学習する。授業は教科書の構成に添って進めるが、それだけでは習得に必要な反復練習や知識のネットワーク化ができないので、必要に応じて何度でも既習事項の確認・復習や関連付けを行いながら進める。特に文法に関して、何よりもまず習得すべきは屈折 (いわゆる語形変化) なので、毎回授業開始時に前回学習した屈折を覚えているかを確認し、さらに教科書の練習問題を解いてもらう度にランダムに屈折の口頭練習を行うことにより知識の早期定着を図る。</p> <p>教科書終了後は、できるだけ受講者の希望を考慮に入れてテキストを決定し講読を行う。</p> <p>前期            第1回 イントロダクション、第1課「文字と発音」の解説            第2回 第1課の練習問題、第2課「アクセント」の解説            第3回 第1課と第2課の復習            第4回 第3課の解説            第5回 第3課の屈折表の暗記の確認および練習問題、第4課の解説            第6回～第30回 第5回と同様に授業の前半に前回指定した屈折表の暗記の確認と練習問題を行い、後半に次の課の解説を行う。</p> <p>後期            第31回～第38回 前期と同様に教科書の続きを学ぶ。</p>											
										ギリシア語 (4時間コース) (語学)(2)へ続く	

ギリシア語（4時間コース）(語学)(2)

第39回～第60回 平易なテキストを講読する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（課題遂行状況、疑問点を積極的に質問する受講態度）に基づいて評価する。必要な場合、年度末に試験を行う。

出席数が全授業数の4分の3に満たない者には、理由の如何を問わず、単位を認定しない。

【教科書】

水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）ISBN:4000008293

【参考書等】

（参考書）

夏季休暇の前に後期の講読までに揃えるべき辞書類を記した文献表を配布し詳しく解説する。

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回、十分に復習と予習をしたうえで出席すること。1時間や2時間程度の予習復習では到底受講継続はできないと心得よ。予習復習の時間配分は復習9：予習1ぐらいが適切である。また、他人から入手した練習問題の解答を写すことは手直しを加えていようと予習ではない。必ず自力で予習を行わなければならない。予習・復習の具体的な方法は、授業中に詳しく指示する。

（その他（オフィスアワー等））

分からないことについては、授業中であれ授業後であれ遠慮をせずに積極的に質問することを期待する。

授業の初めに前回学習したパラダイムの暗記の確認を行うので遅刻をしないこと。

遅刻は3回につき欠席1回とみなす。また、30分以上の遅刻は欠席とみなす。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



学部共通科目25

科目ナンバリング		U-LET49 29666 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ラテン語（初級I）（語学） Latin				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 勝又 泰洋			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語文法									
【授業の概要・目的】											
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語やフランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。											
【到達目標】											
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の前半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。											
第1回～第14回：教科書第1節～第42節 定期試験 第15回：試験フィードバック											
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。											
【履修要件】											
後期開講の「ラテン語（初級II）」とセットで受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。											
【教科書】											
中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- ラテン語（初級I）（語学）(2)へ続く -----											

ラテン語（初級I）（語学）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目26

科目ナンバリング		U-LET49 29667 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ラテン語（初級II）（語学） Latin				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 勝又 泰洋			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語文法									
【授業の概要・目的】											
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語やフランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。											
【到達目標】											
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の後半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。											
第1回～第14回：教科書第43節～第82節 定期試験 第15回：試験フィードバック											
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。											
【履修要件】											
前期開講の「ラテン語（初級I）」とセットで受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。											
【教科書】											
中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- ラテン語（初級II）（語学）(2)へ続く -----											

ラテン語（初級Ⅱ）（語学）(2)

**[授業外学修（予習・復習）等]**

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

**（その他（オフィスアワー等））**

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目27

科目ナンバリング		U-LET49 29645 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ラテン語(4時間コース)(語学) Latin(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 佐藤 義尚			
配当 学年	2回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	月2,金2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語(4時間コース)									
【授業の概要・目的】											
<p>ラテン語の初歩を学ぶことを目的とする。一年間、週に二回の授業を行う。          古代ローマから近世にいたるまで哲学、文学は言うに及ばず、法律、自然科学の書物もラテン語で書かれている。ラテン語は長期にわたって西欧文化の表現手段であった。西欧の諸言語、文化はラテン語という母胎から産み落とされてきたという事実はもう少し知られてもいいだろう。ラテン語を知らずして西欧の理解はありえない。</p>											
【到達目標】											
<p>古代、中世、近世にラテン語で書かれた文献が読解できるようになることを目標とする。          フランス語、イタリア語などの近代語を生み出した言語を学ぶことで、これらの言語の仕組みがより深く理解できるようになることを目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業は教科書にそってすすむ。各課の文法事項を説明し、ラテン語和訳の練習問題を読む。動詞、名詞、形容詞の語形変化はプリントを配布して詳述する。一回の授業で二課ぐらいの進度ですすむ。ラテン語は単語の変化がすべてとも言える言語なので、変化の練習を繰り返し行い習熟を目指す。前期は文字、発音、アクセントから始まって、動詞、名詞の基本的な変化を中心に学び、後期は分詞、接続法などを学習する。後期のなかばで教科書を終え、簡単なラテン語を読んでいく。</p> <p>前期          第1回；ラテン語の仕組み。関連ウェブサイトの紹介。          第2回～第29回；一回に二課ぐらいの進度ですすむ。          第30回；学習到達度の評価</p> <p>後期          第1回～第15回；教科書を二課ずつすすみ、学習し終える。          第16回～第30回；平易なラテン語作品を文法事項を確認しながら読む。          後期定期試験。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点60点、試験40点で評価する。											
【教科書】											
<p>松平千秋・国原吉之助 『新ラテン文法』(東洋出版) ISBN:4-8096-4301-8          教科書だけではわかりにくいので、解説資料を配布する。</p>											
----- ラテン語(4時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

## ラテン語（4時間コース）(語学)(2)

教科書巻末に語彙集がついているので、最初の段階では辞書不要。

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業で次回にやる練習問題を指示するのでそれを予習しておくこと。

### （その他（オフィスアワー等））

ギリシア語既習であればラテン語学習はかなり容易。逆にラテン語を勉強すれば将来のギリシア語学習は容易になる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目28

科目ナンバリング		U-LET49 19661 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語 (初級I) Polish (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語初級I									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語の初級文法を習得する。											
【到達目標】											
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>前期では、名詞と動詞の活用を学ぶとともに、ポーランド語になれていきます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、前期ではその前半分を学習します。</p> <p>期末に映画も鑑賞し、ポーランドの文化に触れます。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 . ポーランド語の基礎知識 (文字、アクセント、語尾変化、発音など) 【1週】</li> <li>2 . 基本的な構文、格の基礎知識、名詞の主格、挨拶や自己紹介に関する語彙【1週】</li> <li>3 . 基本動詞bycの変化、名詞の性の見極め方と性による形容詞の変化【1週】</li> <li>4 . ここまでの内容の確認と練習【1週】</li> <li>5 . 名詞と形容詞の単数複数造格、日本語の「～である」に相当する主格と造格の使い分け【1週】</li> <li>6 . 名詞の単数生格、panとpaniの用法【1週】</li> <li>7 . 名詞と形容詞の複数主格、「あなたがた、皆さん」の言い方【1週】</li> <li>8 . ここまでの総復習、基本的な構文や語彙の確認【1週】</li> <li>9 . 名詞の単数複数対格、動詞の第1変化 (-m,-sz型) 【1週】</li> <li>10 . 動詞の第2変化 (-e,-isz型)、名詞の単数複数与格、「知っている」に当たる表現【1週】</li> <li>11 . 動詞の第3変化 (-e,-esz型)、現在形の動詞変化のまとめ、名詞の単数複数前置格【1週】</li> <li>12 . sie動詞、ktoとcoの格変化、名詞の複数生格、数量を表す言葉【1週】</li> <li>13 . 前期の総復習、格の使い分けや、基本的な構文の確認、語彙の復習【1週】</li> <li>14 . 映画を鑑賞し、ポーランドの文化に触れる【1週】</li> <li>15 . 定期試験【1週】</li> <li>16 . フィードバック【1週】</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
----- ポーランド語 (初級I) (2)へ続く -----											

## ポーランド語（初級I）(2)

### [成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

### [教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス+ ポーランド語』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

### [参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



学部共通科目29

科目ナンバリング		U-LET49 19662 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（初級I） Polish (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語初級I									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語の初級文法を習得する。											
【到達目標】											
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>後期では、動詞の時制や、ポーランド語における様々な構文を学びます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、後期ではその後半分を学習します。</p> <p>期末に映画の鑑賞などをして、ポーランドの文化に触れます。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．否定生格という現象、呼格、基本的な助動詞の使い方【1週】</li> <li>2．動詞の過去形、非人称文の過去時制、人称代名詞と再帰代名詞の格変化【1週】</li> <li>3．動詞bycと一般動詞の合成未来形、時刻に関する表現、非人称文の未来時制、nie maの過去形と未来形【1週】</li> <li>4．動詞のアスペクト、命令法、数詞と名詞の総合規則【1週】</li> <li>5．命令法の続き、仮定法、miecの助動詞的な用法【1週】</li> <li>6．移動の動詞isc/chodzic, jechac/jezdzicの用法、場所と移動の起点を表す前置詞【1週】</li> <li>7．関係代名詞ktoryの用法【1週】</li> <li>8．ここまでの総復習、動詞の時制などの学習内容の確認【1週】</li> <li>9．仮定法の用法の続き、関係副詞による複文の作り方、能動形容分詞、非人称動詞【1週】</li> <li>10．sieによる非人称構文、形容詞と副詞の比較変化【1週】</li> <li>11．副分詞の作り方と用法、受動形容分詞と受動構文【1週】</li> <li>12．非人称能動過去形と完了体動詞の副分詞、年月日の言い方【1週】</li> <li>13．一年間の総復習、分かりにくかった点などを確認する【1週】</li> <li>14．ポーランドの文化に触れる【1週】</li> <li>15．定期試験【1週】</li> <li>16．フィードバック【1週】</li> </ol>											
【履修要件】											
前期のポーランド語（初級I）の受講など、ポーランド語の基礎知識が要求されます。											
----- ポーランド語（初級I）(2)へ続く -----											

## ポーランド語（初級I）(2)

### [成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

### [教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス ポーランド語+』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

### [参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目30

科目ナンバリング		U-LET49 19642 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（中級II）（語学） Polish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語中級II									
【授業の概要・目的】											
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。											
【到達目標】											
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。											
【授業計画と内容】											
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。											
授業計画：											
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】											
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】											
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】											
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】											
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】											
6．総復習とまとめ【1週】											
7．定期試験【1週】											
8．フィードバック【1週】											
【履修要件】											
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。											
【成績評価の方法・観点】											
基本的に定期試験（筆記）（90%）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10%）も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。											
【教科書】											
授業中に受講生と話し合っ決めて資料を用意し配布します。											
【参考書等】											
（参考書）											
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [ 編 ] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3											
----- ポーランド語（中級II）（語学）(2)へ続く -----											

ポーランド語（中級Ⅱ）(語学)(2)

---

**【授業外学修（予習・復習）等】**

授業中に指示します。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目31

科目ナンバリング		U-LET49 19642 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（中級II）（語学） Polish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語中級									
【授業の概要・目的】											
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。											
【到達目標】											
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。											
【授業計画と内容】											
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。											
授業計画：											
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】											
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】											
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】											
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】											
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】											
6．総復習とまとめ【1週】											
7．定期試験【1週】											
8．フィードバック【1週】											
【履修要件】											
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。											
【成績評価の方法・観点】											
基本的に定期試験（筆記）（90%）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10%）も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。											
【教科書】											
授業中に受講生と話し合っ決めて決めた資料を用意し配布します。											
【参考書等】											
（参考書）											
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [ 編 ] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3											
----- ポーランド語（中級II）（語学）(2)へ続く -----											

ポーランド語（中級Ⅱ）(語学)(2)

---

**【授業外学修（予習・復習）等】**

授業中に指示します。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目32

科目ナンバリング		U-LET49 19646 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ロシア語(初級)(語学) Russian I				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 田中 大			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ロシア語の基礎									
【授業の概要・目的】											
ロシア語やロシア文化に関心のある学生を対象として、ロシア語を一から勉強していきます。日本ではあまりなじみのない文字の書き方と発音から始めて、意外に日本語との類推が利く基本的な文法と構文、語彙を学習していきます。											
【到達目標】											
1) ロシア語で使用されているキリル文字とその発音を習得する。 2) ロシア語の基礎的な文法を習得する。											
【授業計画と内容】											
授業は配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。 序：文字と発音 第1課 「これはナターシャです」：平叙文 第2課 「私はナターシャではありません」：人称代名詞・疑問文・否定文 第3課 「これは私のスーツケースです」：所有代名詞・指示代名詞 第4課 「あそこに古い写真があります」：形容詞と名詞の性 第5課 「雑誌を読んでいます」：動詞現在形第1変化 第6課 「日本語を話します」：動詞現在形第2変化・複数形 第7課 「彼女はどこに住んでいるのですか」：不規則動詞と前置格 第8課 「電話を持っていますか」：所有の表現・命令形 第9課 「音楽を聴いているのですか」：不規則動詞と対格 第10課 「小包を送りたい」：運動の動詞と行先の表現 第11課 「日本文学を勉強していました」：動詞の過去形 第12課 「家にいました」：様々な過去時制 第13課 「今晚はお客が来ます」：動詞の未来形・不規則動詞 第14課 「カサがありません」：生格の用法											
フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、試験70%で評価します。											
【教科書】											
プリントを配付します。											
----- ロシア語(初級)(語学)(2)へ続く -----											

ロシア語（初級）(語学)(2)

---

**[参考書等]**

（参考書）  
開講時および授業中に紹介します。

**[授業外学修（予習・復習）等]**

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

**（その他（オフィスアワー等））**

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



学部共通科目33

科目ナンバリング		U-LET49 19647 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ロシア語（中級） Russian II				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ロシア語の基礎									
【授業の概要・目的】											
ロシア語の初級を前年度に履修したか、それと同程度の基礎運用能力を習得している学生を対象として、ロシア語の基本文法の完成をめざします。											
【到達目標】											
1) ロシア語の基礎文法を完成させる。 2) 辞書を引けば、平易なロシア語を読めるようになる。											
【授業計画と内容】											
授業は、前年度初級に引き続き、配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。（第1回～第6回） 第15課 「夫にプレゼントを買いたいのです」：与格の表現 第16課 「紅茶は普通ミルクを入れて飲みます」：造格の表現 第17課 「日本料理店でアントンを見かけました」：活動体名詞の対格・形容詞の格変化 第18課 「それがアントンでないとどうして分かるのですか？」：動詞の完了体と不完了体 第19課 「捨てるのなら手伝います」：時制のまとめ・助動詞的用法 第20課 「もし私が鳥だったら」：仮定法  その後、ロシア語の文章を読むのに必要な文法事項をさらに学びます。（第7回～12回） ・関係詞 ・副動詞 ・形動詞 ・被動相  文法事項の確認を兼ねて、平易なロシア語の文章を読みます。（第13回～第14回）  第15回 まとめ  フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
ロシア語（初級）を前年度に履修したか、それと同程度のロシア語能力を有していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、試験70%で評価します。											
----- ロシア語（中級）(2)へ続く -----											

ロシア語（中級）(2)

**[教科書]**

プリントを配付します。

**[参考書等]**

（参考書）

開講時および授業中に紹介します。

**[授業外学修（予習・復習）等]**

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

**（その他（オフィスアワー等））**

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目34

科目ナンバリング		U-LET49 29673 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スペイン語（初級）I Spanish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小西 咲子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スペイン語（初級I）									
【授業の概要・目的】											
<p>スペイン語の発音および基礎文法（直説法過去時制まで）を教科書に沿って学習する。</p> <p>授業は文法事項の解説と例文訳読、練習問題、簡単な会話文の読解からなる。初級文法のうち直説法の過去時制までを一通り学習するので進度が速く、そのため予習と復習は必須である。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スペイン語の発音のルールを理解し正しく発音できるようになる。</li> <li>・スペイン語の基本的な構造を理解し、直説法を用いた平易な文章を読解しまた作文できるようになる。</li> <li>・初級Ⅱ（接続法、命令法、初級文法発展）の学習に繋げる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>教科書に沿って進めるが、受講者の理解度を確認しながら進度を調節したり、必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。</p> <p>各回の主たる学習項目は以下の通りである。</p> <p>第1回：ガイダンス、スペイン語の歴史と地理について略説、第0課導入          第2回：第0課 [ アルファベット、発音、音節の分け方 ]          第3回：第1課 [ 名詞の性数、冠詞、形容詞、主格人称代名詞と動詞ser ]          第4回：第2課 [ 動詞estar、存在のhay、指示詞、所有形容詞 ]          第5回：第3課 [ 直説法現在：規則動詞と不規則動詞 ]          第6回：復習（1）第1課～第3課の作文および応用問題          第7回：第4課 [ 直説法現在：その他の不規則動詞、接続詞 ]          第8回：第5課 [ 目的格人称代名詞、動詞gustar、時刻・日付の表現 ]          第9回：第6課 [ 前置詞、過去分詞、直説法現在完了 ]          第10回：復習（2）第4課～第6課の作文および応用問題          第11回：第7課 [ 再帰動詞、不定主語文、現在分詞 ]          第12回：第8課 [ 直説法点過去、天候の表現 ]          第13回：第9課 [ 直説法線過去、時間表現のhacer、直説法過去完了 ]          第14回：復習（3）第7課～第9課の作文および応用問題          第15回：期末試験・フィードバック</p>											
----- ス페인語（初級）I (2)へ続く -----											

## スペイン語（初級）I (2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点 10%：発音を中心に評価する。

期末試験 90%：既習の文法事項を理解・習得しているか判定する。

### 【教科書】

川口正道 『文法からいくスペイン語』（朝日出版社,2020）ISBN:978-4-255-55113-5 C1087

必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。

### 【参考書等】

（参考書）

辞書 『現代スペイン語辞典』（白水社）

辞書 『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』（小学館）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2（中級まで対応した文法解説書）

### 【授業外学修（予習・復習）等】

進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）と予習（語彙調査、例文等の下訳、練習問題の解答、等）をした上で出席すること。

### （その他（オフィスアワー等））

教員メール [konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目35

科目ナンバリング		U-LET49 29674 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スペイン語（初級）II Spanish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小西 咲子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スペイン語（初級II）									
【授業の概要・目的】											
<p>前期開講の「スペイン語 初級I」と同じ教科書を用い、引き続きスペイン語の初級文法を学習する。</p> <p>授業は文法事項の解説と例文訳読、練習問題、簡単な会話文の読解からなる。初級文法のうち接続法、命令文、条件文までを学習する。</p>											
【到達目標】											
<p>CEFRのA 1程度のレベルを修得する。</p> <p>辞書を用いて時間をかけて調べれば、日常生活にかかわるごく簡単なテキストなら意味を把握することができる。母語話者の補助があれば、挨拶など日常生活に最低限必要なコミュニケーションをとることができる。トイレ・出口といった市民生活に不可欠な街頭指示なら理解できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>教科書に沿って進めるが、受講者の理解度を確認しながら進度を調節したり、必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。</p> <p>各回の主たる学習項目は以下の通りである。</p> <p>第1回：ガイダンス [教科書第0課～9課の振り返り、第10課導入]          第2回：第10課 [関係詞]          第3回：第11課 [比較級、最上級]          第4回：第12課 [不定語・否定語、受身文]          第5回：第13課 [直説法の未来・過去未来・未来完了・過去未来完了]          第6回：復習(1) 第10課～第13課の作文および応用問題          第7回：第14課 [接続法現在：名詞節における用法]          第8回：第15課 [接続法現在：関係詞節・副詞節における用法、命令文]          第9回：復習(2) 第14課～第15課の作文および応用問題          第8回：第16課 [接続法現在完了、接続法現在完了、接続法過去完了]          第9回：第17課 [条件文、譲歩文、話法]          第10回：復習(3) 第16課～第17課の作文および応用問題          第11～14回：文法発展 [テキスト講読または中級文法]          第15週：期末試験・フィードバック</p>											
----- スペイン語（初級）II (2)へ続く -----											

## スペイン語（初級）Ⅱ(2)

### 【履修要件】

前期開講の「スペイン語 初級I」の学修者であること、もしくは同等（教科書第9課まで）のスペイン語知識を有していることが望まれる。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点 10%：発音を中心に評価する。  
期末試験 90%：既習の文法事項を理解・習得しているか判定する。

### 【教科書】

川口正道 『文法からいくスペイン語』（朝日出版社,2020）ISBN:978-4-255-55113-5 C1087

### 【参考書等】

（参考書）

辞書 『現代スペイン語辞典』（白水社）

辞書 『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』（小学館）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2（中級まで対応した文法解説書）

上記のものでなくとも初修時に使用していた辞書、参考書があれば引き続き活用すること。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

進度に沿って教科書各課および配布される教材の復習（既習事項の定着）と予習（語彙調査、例文等の下訳、練習問題の解答、等）をした上で出席すること。

### （その他（オフィスアワー等））

教員メール [konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目36

科目ナンバリング		U-LET49 29668 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スペイン語（中級I）（語学） Spanish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小西 咲子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スペイン語（中級I）									
【授業の概要・目的】											
教科書に沿ってスペイン語初級文法を復習し、ニュース形式のテキストを通して実践的語彙を獲得し、読解力のみならず聴解力の向上を図り、併せてスペイン語圏の社会、文化、政治への関心を広げる。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・CEFRのA2程度のレベルを修得する。</li> <li>・辞書を用いて時間をかけて語彙を調べれば一般紙の記事を読解することができる。</li> <li>・定型文を発展させて自らで文章を作ることができる。</li> <li>・スペイン語に関する知識と併せてスペインの文化に関する理解を深める。</li> <li>・中級II（接続法、条件法など文法発展）の学習に繋げる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
以下のとおり教科書に沿って進める。各回のトピックと確認すべき文法事項は以下の通りである。											
<p>第1回 ガイダンス、第1課導入（発音と直説法現在・再帰動詞の確認）</p> <p>第2回 第1課 Las redes sociales y el ocio（SNS）：直説法現在 / 再帰動詞</p> <p>第3回 第2課 El tenista espan'ol Rafael Nadal（ナダル選手）：gustarの用法と不定詞を伴う表現</p> <p>第4回 第3課 El restaurante ma's antiguo del mundo: Boti'n（世界最古のレストラン）：過去時制の使い分け（1）現在完了/点過去</p> <p>第5回 第4課 La moda（ファッション）：過去時制の使い分け（2）線過去</p> <p>第6回 第5課 La adopcio'n（養子縁組）：過去時制の使い分け（3）点過去/線過去/過去完了</p> <p>第7回 第6課 La energi'a eo'lica（風力発電）：未来と過去未来</p> <p>第8回 第7課 Co'mo preparar un buen cafe'（コーヒー）：不定詞を伴う助動詞的表現</p> <p>第9回 第8課 El programa Erasmus（エラスムス留学制度）：比較級</p> <p>第10回 第9課 La polici'a comunitaria en Honduras（ホンジュラスの交番）：接続法現在（1）</p> <p>第11回 第10課 Equiparacio'n de los permisos de maternidad y paternidad（育休取得）：接続法現在（2）</p> <p>第12回 第11課 Aporofobia（アポロフォビア）：接続法現在（3）</p> <p>第13回 第12課 Consejos para aprender japone's（日本語学習）：接続法現在（4）</p> <p>第14回 第13課 La eutanasia en Espan'a（安楽死）：接続法過去（1）</p> <p>第15回 期末試験・フィードバック</p>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各課の文法例文の読解より練習問題の解答・解説とテキストのリスニングおよび講読に重点を置く。</li> <li>・受講者の理解度を確認しながら進度を調節することもある。</li> <li>・必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。</li> </ul>											
----- ス페인語(中級I)(語学)(2)へ続く -----											

## スペイン語（中級I）（語学）(2)

### 【履修要件】

スペイン語の初級文法（少なくとも接続法現在まで）が修得済みであること。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点 20% [ 発音など口頭パフォーマンスを中心に評価する ]

期末試験 80% [ リスニングを含む試験を実施し、既習事項を理解・習得しているか判定する ]

### 【教科書】

中島聡子 他 『ニュースで学ぶ中級スペイン語 [ 改訂版 ] 』（三修社,2022年）ISBN:978-4-384-42021-0 C1087

### 【参考書等】

（参考書）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2

辞書は初修時に使っていたものを引き続き活用すること。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

毎回の授業前の準備は必須である。進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）、予習（語彙調べ、練習問題の解答、テキストの音声確認や下訳）のうえ授業に参加すること。

### （その他（オフィスアワー等））

教員メール [konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



学部共通科目37

科目ナンバリング		U-LET49 29669 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スペイン語（中級II）（語学） Spanish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小西 咲子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スペイン語（中級II）									
【授業の概要・目的】											
教科書掲載のスペイン語テキストの講読を通してスペイン語圏の社会や文化に関する知識を深める。各課の練習問題では語彙や文法の振り返りだけでなく、トピックに関するスペイン語による意見表明なども試みる。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・CEFRのA2からB1程度のレベルを修得する。</li> <li>・辞書を用いて時間をかけて語彙を調べれば一般紙の論説文や簡単な文芸作品を読解することができる。</li> <li>・定型文を発展させて自らで文章を作ることができる。</li> <li>・スペイン語に関する知識と併せてスペインの文化に関する理解を深める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
以下のとおり教科書に沿って進める。											
<p>第1回 ガイダンス、第1課への導入</p> <p>第2回 第1課 Turismo en la aute'ntica Sevilla（歴史と文化のるつぼ - セビーリャ）</p> <p>第3回 第2課 Correr no es de cobardes（マラソン - 世界をかけるランナーたち）</p> <p>第4回 第3課 Nuevo flamenco y fusio'n（フラメンコの新しいスタイル）</p> <p>第5回 第4課 Latinos en Japo'n: tu vecino lejano（日本に暮らすラティーノ）</p> <p>第6回 第5課 PATRIA: una novela de Aramburu（バスクの抱えるトラウマ）</p> <p>第7回 第6課 En la Ciudad de Me'xico: variaciones del espan'ol（スペイン語の多様性 - メキシコシティにて）</p> <p>第8回 第7課 Una receta de la paella valenciana（スペインを味わい尽くすパエリアの作り方）</p> <p>第9回 第8課 La vuelta del mundo（世界一周 - マゼランの船旅）</p> <p>第10回 第9課 ¡Vivan los novios!（多様化する結婚のかたち）</p> <p>第11回 第10課 Spanglish: el espan'ol de EE.UU.（スパングリッシュ - アメリカ合衆国のスペイン語）</p> <p>第12回 第11課 No solo de sushi vive el hombre（寿司だけが日本食ではない）</p> <p>第13回 第12課 La coca no es cocai'na（コカ アンデスの秘薬）</p> <p>第14回 第13課 ¡Abran paso, que voy en patinete!（暴走するキックスクーター）</p> <p>第15回 期末試験・フィードバック</p>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講読を中心とした教科書を使うが、練習問題における作文や平易な口頭発表なども重視する。</li> <li>・受講者の理解度を確認しながら進度を調節することもある。</li> <li>・必要であれば補助的にプリント教材等を挿入する。</li> </ul>											
----- スペイン語（中級II）（語学）(2)へ続く -----											

## スペイン語（中級II）（語学）(2)

### 【履修要件】

前期開講の「スペイン語 中級I」の学修者であること、もしくは接続法を含めた初級スペイン語知識を有していることが望まれる。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点 20% [ 予習復習状況、音声パフォーマンスを評価する ]  
期末試験 80% [ 既習事項を理解・習得しているか判定する ]

### 【教科書】

高垣敏博 他 『シン・フロンテラス スペイン語圏はいま』（朝日出版社,2021年）ISBN:978-4-255-55123-4 C1087

### 【参考書等】

（参考書）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2  
辞書は初修時に使っていたものがあれば引き続き活用すること。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

毎回の授業前の準備は必須である。進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）、予習（語彙調べ、練習問題の解答、テキストの下訳）のうえ授業に参加すること。

### （その他（オフィスアワー等））

教員メール [konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目38

科目ナンバリング		U-LET49 29675 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イタリア語（初級4時間コース）I Italian(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 菅野 類			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2,木3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		イタリア語（初級I）									
【授業の概要・目的】											
<p>イタリア語文法の基礎を学習し、読み書きに必要な知識の習得を目指す。          授業の進め方としては、文法解説の後で練習問題を解いてもらい、知識の定着を図るというオーソ          ドックスなものを想定している。          イタリア語やロマンス諸語に興味のある初学者を対象とする。</p>											
【到達目標】											
<p>現在・過去・未来の各時制と代名詞の使い方を学習し、簡単な読み書きとコミュニケーションがで          できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1週：オリエンテーションと発音          第2週：Lezione 1 [名詞、冠詞]          第3週：Lezione 2 [動詞 essere と avere]          第4週：Lezione 3 [形容詞]          第5週：Lezione 4 [直説法現在・規則動詞]          第6週：Lezione 5 [直説法現在・不規則動詞]          第7週：Lezione 6 [人称代名詞]          第8週：Lezione 7 [再起動詞]          第9週：テストと解説          第10週：Lezione 8 [命令法]          第11週：Lezione 9 [直説法近過去]          第12週：Lezione 10 [直説法半過去・大過去]          第13週：Lezione 11 [直説法未来・先立未来]          第14週：Lezione 12 [受動態]          第15週：テストと解説</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>各課の締めくくりで行う小テスト（30%）          前期中2回行うまとめのテスト(70%)</p>											
【教科書】											
杉本 裕之 『基礎イタリア語講座 - CD付き改訂版 - 』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-55311-5											
----- イタリア語（初級4時間コース）I(2)へ続く -----											

イタリア語（初級4時間コース）I(2)

---

**[参考書等]**

（参考書）

『伊和中辞典』（小学館）ISBN:4095154020

『フリーモ伊和辞典』（白水社）ISBN:4560000859

**[授業外学修（予習・復習）等]**

各授業の前に60分前後の予習が求められる。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目39

科目ナンバリング		U-LET49 29676 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イタリア語（初級4時間コース）II Italian(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 菅野 類			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2,木3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		イタリア語（初級II）									
[授業の概要・目的]											
イタリア語文法の基礎を学習済みの学生を対象に、イタリア語で書かれたテキストを読むために必要な知識や技術を習得する。											
[到達目標]											
条件法や接続法といった動詞の性質を理解し、現代イタリアの短編小説やWeb上の情報を自立的に読めるようになる。											
[授業計画と内容]											
第1週：Lezione 13 [比較級・最上級] 第2週：Lezione 14 [関係詞] 第3週：Lezione 15 [ジェルンディオ・ciとneの解説] 第4週：Lezione 16 [条件法] 第5週：Lezione 17 [接続法] 第6週：Lezione 17 [接続法・仮定文] 第7週：テスト 第8 - 14週：遠過去および講読 第15週：テスト・フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
各課終了ごとの小テスト(30%) 後期に2回行われるまとめのテスト(70%)											
[教科書]											
杉本 裕之 『基礎イタリア語講座 - CD付き改訂版 - 』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-55311-5 講読用のテキストは適宜こちらが用意する。											
[参考書等]											
（参考書） 『伊和中辞典』（小学館）ISBN:4095154020 『プリーモ伊和辞典』（白水社）ISBN:4560000859											
[授業外学修（予習・復習）等]											
各授業前に60分前後の予習が求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

学部共通科目40

科目ナンバリング		U-LET49 29663 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イタリア語（会話） Spoken Italian				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	語学	使用 言語	イタリア語
題目		Lingua italiana e cinema - I									
【授業の概要・目的】											
Attraverso un percorso alla scoperta del cinema italiano, il corso si propone di fornire gli strumenti per la conversazione su un ' ampia varieta' di argomenti, che includono l ' arte e la musica, la letteratura, la politica e il tempo libero. Grazie al cinema, gli studenti impareranno a conoscere gli aspetti piu' affascinanti della cultura italiana e acquisiranno una piu' sicura padronanza della lingua, in particolare nella sua produzione orale, ampliando il loro vocabolario, migliorando la pronuncia, e rafforzando le competenze grammaticali e sintattiche.											
【到達目標】											
Gli studenti perfezioneranno la propria competenza della lingua italiana. Impareranno a gestire al meglio le funzioni comunicative fondamentali e acquisiranno familiarita' con la conversazione su argomenti essenziali della vita quotidiana; dimostreranno buona conoscenza delle strutture grammaticali e del vocabolario di base in periodiche esercitazioni. Saranno in grado di guardare e discutere un film in lingua, di progettare una presentazione orale e di eseguirla di fronte alla classe.											
【授業計画と内容】											
Lingua italiana e cinema. Corso di conversazione in italiano (livello intermedio).											
1: Introduzione											
2-13: Lingua italiana e cinema. Nella scelta dei copioni e degli spezzoni di film da analizzare, verranno tenuti in particolare considerazione gli interessi degli studenti.											
14-15: Presentazioni orali preparate dagli studenti su un film italiano che ha suscitato il loro interesse.											
Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.											
【履修要件】											
Questo corso e' rivolto agli studenti di italiano elementare e intermedio di tutte le facolta'.											
【成績評価の方法・観点】											
La valutazione sara' basata sulla partecipazione attiva alle lezioni, sulle esercitazioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni e' fondamentale per superare l ' esame. E' consentita una sola assenza.											
----- イタリア語（会話）(2)へ続く -----											

## イタリア語（会話）(2)

### 【教科書】

Handouts

### 【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

F. Rossi, *Lingua italiana e cinema*, Roma, Carocci, 2012.

### 【授業外学修（予習・復習）等】

Dopo ogni lezione verranno assegnate letture ed esercitazioni da svolgere a casa. Il seminario presuppone una partecipazione attiva degli studenti.

### （その他（オフィスアワー等））

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目41

科目ナンバリング		U-LET49 29663 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イタリア語（会話） Spoken Italian				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	語学	使用 言語	イタリア語
題目		Lingua italiana e cinema - II									
【授業の概要・目的】											
<p>Attraverso un percorso alla scoperta del cinema italiano, il corso si propone di fornire gli strumenti per la conversazione su un ' ampia varieta' di argomenti, che includono l ' arte e la musica, la letteratura, la politica e il tempo libero. Grazie al cinema, gli studenti impareranno a conoscere gli aspetti piu' affascinanti della cultura italiana e acquisiranno una piu' sicura padronanza della lingua, in particolare nella sua produzione orale, ampliando il loro vocabolario, migliorando la pronuncia, e rafforzando le competenze grammaticali e sintattiche.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti perfezioneranno la propria competenza della lingua italiana. Impareranno a gestire al meglio le funzioni comunicative fondamentali e acquisiranno familiarita' con la conversazione su argomenti essenziali della vita quotidiana; dimostreranno buona conoscenza delle strutture grammaticali e del vocabolario di base in periodiche esercitazioni. Saranno in grado di guardare e discutere un film in lingua, di progettare una presentazione orale e di eseguirla di fronte alla classe.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Lingua italiana e cinema. Corso di conversazione in italiano (livello intermedio).</p> <p>1: Introduzione                  2-13: Lingua italiana e cinema. Nella scelta dei copioni e degli spezzoni di film da analizzare, verranno tenuti in particolare considerazione gli interessi degli studenti.                  14-15: Presentazioni orali preparate dagli studenti su un film italiano che ha suscitato il loro interesse.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
【履修要件】											
Questo corso e' rivolto agli studenti di italiano elementare e intermedio di tutte le facolta'.											
【成績評価の方法・観点】											
La valutazione sara' basata sulla partecipazione attiva alle lezioni, sulle esercitazioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni e' fondamentale per superare l ' esame. E' consentita una sola assenza.											
----- イタリア語（会話）(2)へ続く -----											



## イタリア語（会話）(2)

### **[教科書]**

Handouts

### **[参考書等]**

（参考書）

授業中に紹介する

F. Rossi, *Lingua italiana e cinema*, Roma, Carocci, 2012.

### **[授業外学修（予習・復習）等]**

Dopo ogni lezione verranno assegnate letture ed esercitazioni da svolgere a casa. Il seminario presuppone una partecipazione attiva degli studenti.

### **（その他（オフィスアワー等））**

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目42

科目ナンバリング		U-LET49 29604 LJ48									
授業科目名 <英訳>		アラブ語(初級)(語学) Arabic				担当者所属・ 職名・氏名		国立民族学博物館 グローバル現象研究部 教授 西尾 哲夫			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	木3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		アラビア語の初級									
【授業の概要・目的】											
<p>前期の授業は、オンライン形式で実施する。          アラビア語は、西はモロッコから東はイラクまでの中東・北アフリカ諸国で使われており、およそ一億五千万人の母語となっている。またイスラム教(イスラーム)の聖典『コーラン(クルアーン)』はアラビア語で書かれているため、南アジア・東南アジア・中国などのムスリム(イスラム教徒)もアラビア語の知識をもっている。          この授業では、アラビア語の文字の書き方からはじめ、初級程度の文法事項をおしえる。</p>											
【到達目標】											
<p>アラビア文字が読めて書けるようになる。また基本的単語については、弱子音を語根に含む単語についてアラビア語の辞書が引けるようになる。基本的な文章表現について読む・書く・話ができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1) アラビア語についての概説(1回目)          (2) アラビア語学習法の概説(1回目)          (3) アラビア文字(2回目から5回目)          (4) 名詞(3回目)          (5) 冠詞(4回目)          (6) 名詞の格変化(5回目)          (7) 規則複数(6回目)          (8) 形容詞の用法(7回目)          (9) 疑問文(8回目)          (10) 場所の前置詞(9回目)          (11) これまでの復習(10回目)          (12) 存在文(11回目)          (13) 国名とニスバ形容詞(12回目)          (14) 数字の書き方と1~10までの数詞(13回目)          (15) 不規則複数(1)(14回目)          (16) 色の表現(15回目)          (17) 動詞完了形(16回目)          (18) 辞書の引き方(17回目)          (19) 不規則複数(2)(18回目)          (20) 11~100までの数詞(19回目)          (21) これまでの復習(20回目)          (22) 曜日の表現(21回目)          (23) 動詞未完形(22回目)          (24) 名詞文と動詞文(語順)(23回目)          (25) 時間表現(24回目)</p>											
----- アラブ語(初級)(語学)(2)へ続く -----											

## アラブ語（初級）(語学)(2)

- (26) 比較表現 (25回目)
- (27) 弱動詞 (26回目)
- (28) 動詞派生形 (1) (27回目)
- (29) 未来表現 (28回目)
- (30) 動詞派生形 (2) (29回目)
- (31) これまでの復習と今後の学習方法 (30回目)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。出席を重視し、欠席が多い場合には単位を認めない。前期については対面ではなくオンラインで実施する場合は、当該授業資料をダウンロードして学習した場合に出席したものとみなす。

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

(参考書)

西尾哲夫 『言葉から文化を読む アラビアンナイトの言語世界』(臨川書店)(とくに現代アラブ世界の言語状況についてふれた第1章)

西尾哲夫・東長靖 『中東・イスラーム世界への30の扉』(ミネルヴァ書房)(中東・イスラーム世界の理解のために必読)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

授業毎に指示する。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目43

科目ナンバリング		U-LET49 39608 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イラン語（初級）（語学） Iranian				担当者所属・ 職名・氏名		京都外国語大学 外国語学部 非常勤講師 杉山 雅樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		イラン語（初級）									
【授業の概要・目的】											
この授業の目的は、現在イランの公用語であるペルシア語（新ペルシア語）の基本文法や基礎単語を修得し、ペルシア語の古典文を読解するための基礎的な能力を獲得することである。											
【到達目標】											
基本的なペルシア語の文法規則・単語を習得することにより、平易な文章であれば自分で辞書を使用しつつ読むことができるようになる。また、ペルシア語による現代文と古典文との表現や文法的な違いを理解し、ペルシア語で書かれた歴史史料を読むための基礎的な能力を獲得する。											
【授業計画と内容】											
（前期）											
第1回 イントロダクション、文字											
第2回 発音と表記の注意点											
第3回 名詞、基本的な文章、疑問詞											
第4回 形容詞、エザーフェ、人称代名詞											
第5回 過去形、前置詞											
第6回 現在形、複合動詞											
第7回 現在形、未来形、副詞											
第8回 現在完了形、命令形											
第9回 仮説法、助動詞											
第10回 助動詞、人称代名詞、受動態											
第11回 接続詞											
第12回 関係詞、祈願文、副詞											
第13回 接続詞、複合動詞、過去分詞、現在分詞、その他											
第14回 数詞											
第15回 確認テスト、前期のまとめ、後期のテキストや予習の仕方について											
（後期）											
第16～18回 現代文（物語）の読解（1）～（3）											
第19～21回 現代文（イランの教科書）の読解（1）～（3）											
第22～29回 古典文（歴史史料）の読解（1）～（8）											
第30回 フィードバック（詳細については授業内で指示する）											
前期は、文字の読み方や書き方を練習しつつ、基本的な文法や単語を学ぶ。 後期は、まずイランの物語や教科書など現代のペルシア語で書かれたものを扱い、ペルシア語の文章を読むことに慣れておく。その後、前近代に書かれたペルシア語の歴史史料の中から比較的読み易い作品をテキストとして採り上げ、古典文を読むための基本的な能力を身に付ける。 原則として、前期の文法の授業では毎回復習のための小テストを行う。											
----- イラン語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

## イラン語（初級）(語学)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点評価（前期と後期の合計で100点）  
前期（基礎文法）：小テスト（25点）、確認テスト（25点）  
後期（テキスト読解）：予習の取り組み（50点）

各期で4回以上欠席した場合には、単位を認めない。

### 【教科書】

前期は文法事項をまとめたレジュメを毎回配布する。後期は講読するテキストのコピーをある程度まとめて事前に配布する。

### 【参考書等】

（参考書）

特に後期の授業では、黒柳恒男『新ペルシア語大辞典』（大学書林）などペルシア語辞書を用いて予習する必要がある。  
その他の辞書や文法書など参考文献については、授業内で指示する。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

文字の書き方、基本文法、基礎単語の修得が中心となる前期においては、毎授業後十分に復習をし、次の授業の冒頭に行われる小テストに備えること。  
実際のテキストを使用して講読を行う後期においては、各自辞書で単語を調べて訳文を作成しておくなど、毎回時間をかけて予習することが必須である。

### （その他（オフィスアワー等））

質問等があれば、sugiyama.masaki.25z@st.kyoto-u.ac.jpにご連絡下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目44

科目ナンバリング		U-LET49 39620 LJ48									
授業科目名 <英訳>		シュメール語（初級）（語学） Sumerian				担当者所属・ 職名・氏名		国士舘大学 イラク古代文化研究所 研究員 森 若葉			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		シュメール語文法と楔形文字書記体系のしくみ、楔形文字文献の講読および内容の紹介									
[授業の概要・目的]											
<p>古代メソポタミア文明で話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末からおよそ三千年間にわたって数多くの資料を残す楔形文字言語である。</p> <p>この言語は、複雑な動詞組織をもち、系統関係が不明な膠着語であることが知られている。本授業は、楔形文字で記されるシュメール語の文法と楔形文字文献について学ぶことを目的とする。</p> <p>文法の解説とともに、最古の文字である楔形文字の成立としくみ、および系統不明の古代語であるシュメール語ほか楔形文字言語の解読についてもふれる。</p> <p>比較的簡単なシュメール語資料の講読を行い、適宜、そのほかの資料についても内容の紹介をおこなう。死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点などもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキストを予定しているが、受講学生と相談し変更することもある。</p>											
[到達目標]											
<p>世界最古の文字で、その後三千年間古代メソポタミア世界の様々な言語を書き記した楔形文字の書記体系、およびシュメール語の基本的文法構造を理解する。</p> <p>また、楔形文字で記されたシュメール語のさまざまな文献を実際に講読し、その内容を知ることにより、シュメール語文法と楔形文字についての知識を深める。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいや受講学生の希望に応じ、順序やテーマは変更されうる。</p> <p>&lt;前期&gt; 楔形文字およびシュメール語文法の概説とともに、簡単な資料の講読を行う。粘土板および円筒印章を作成する実習を行う。</p> <p>第1回 シュメール語の背景 メソポタミア文明の世界について</p> <p>第2回 シュメール語と楔形文字について</p> <p>第3回 楔形文字の解読と楔形文字で書かれた諸言語について（第3回）</p> <p>第4回 楔形文字の成立としくみについて（第4-5回）</p> <p>第5回 シュメール語文法（1）、楔形文字文献について</p> <p>第6回 シュメール語文法（2）、王碑文を読む</p> <p>第7回 シュメール語文法（3）、王碑文を読む</p> <p>第8回 シュメール語文法（4）、行政文書を読む</p> <p>第9回 楔形文字粘土板実習 - 粘土板を作成</p> <p>第10回 シュメール語文法（5）、行政文書を読む</p> <p>第11回 シュメール文学の紹介</p> <p>第12回 シュメール文学作品を読む</p> <p>第13回 シュメール・メソポタミアの「法典」紹介</p> <p>第14回 裁判記録を読む</p> <p>第15回 行政文書・裁判記録を読む</p>											
----- シュメール語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

## シュメール語（初級）(語学)(2)

### <後期>

文法概説と並行して下記文献の講読、資料の紹介を進めていく。総合博物館の許可のもと、博物館が所蔵する楔形文字粘土板の見学実習を行う予定である。

- 第1回 文献から見るシュメールの生活
- 第2回 シュメール語文法（6）、行政文書を読む
- 第3回 シュメール語文法（7）、行政文書を読む
- 第4回 シュメール語文法（8）、行政文書を読む
- 第5回 シュメール文学作品を読む
- 第6回 シュメール語文法（9）、行政文書を読む
- 第7回 シュメール語文法・語彙文書概説、王碑文を読む
- 第8回 京都大学総合博物館所蔵資料紹介
- 第9回 京都大学総合博物館所蔵資料を読む
- 第10回 京都大学総合博物館粘土板見学実習
- 第11回 シュメール文学作品を読む
- 第12回 シュメール文学作品、王碑文を読む
- 第13回 行政文書、王碑文を読む
- 第14回 行政文書、王碑文を読む
- 第15回 まとめ

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

平常点（講読の状況・授業中の発言）[20%]および学年末レポート（シュメール語文献の翻字・翻訳）[80%]を予定。

### [教科書]

授業時に資料およびテキストのコピーを配布する。  
楔形文字の実習の際、粘土やカッターナイフ等を各自用意してもらう必要がある。

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

事前に授業中に配布する資料に目を通してもらうことがある。また、文献講読については、授業前にシュメール語テキストの文字や単語について調べてきてもらうことがある。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目45

科目ナンバリング		U-LET49 29624 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語（初級）(語学) Swahili				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スワヒリ語（初級）									
【授業の概要・目的】											
<p>バンツー諸語に属すスワヒリ語はタンザニアおよびケニアの国家語であり、東アフリカを代表する共通語である。バンツー諸語の特徴である名詞クラスなどのスワヒリ語の標準文法、語彙、文型に加えて実際の会話表現も学ぶことで、基本的な文法事項の習得と日常的な会話の理解をめざす。テキストを用いた会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行うことで、自分で文を組み立てる能力を身につける。また、テキストの会話表現には社会的・文化的事象が多く含まれる。その背景についての補足説明によって、東アフリカの言語だけでなく文化や社会についての知識も深める。関連する実物や画像は授業中に紹介される。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1：スワヒリ語の名詞クラスと基本文型を理解する</li> <li>2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てることができる</li> <li>3：短い日常会話の流れを把握できる</li> <li>4：東アフリカの文化や社会に関する知識を深める</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション / スワヒリ語文法の概要          第2回 第1課 / 現在時制          第3回 第2課 / コピュラ文          第4回 第4課 / 所有表現          第5回 第5課 / 未来時制          第6回 名詞クラス          第7回 第3課 / 存在表現          第8回 第1～5課の復習と補足説明          第9回 第6課 / あいさつ表現          第10回 第7課 / 過去時制          第11回 第8課 / 完了時制          第12回 第9課 / 形容詞          第13回 第10課 / 接続形          第14回 第6～10課の復習と補足説明          第15回 期末試験          第16回 フィードバック</p> <p>なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
----- スワヒリ語（初級）(語学)(2)へ続く -----											



## スワヒリ語（初級）(語学)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

予習・復習状況などの平常点（30％）、期末試験の結果（70％）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

### 【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。  
各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。  
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。  
練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目46

科目ナンバリング		U-LET49 29625 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語（中級）(語学) Swahili				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スワヒリ語（中級）									
【授業の概要・目的】											
<p>テキストはスワヒリ語初級と同じものを引き続き使用し、会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行う。スワヒリ語初級で習得した内容を再確認しながら、さらなる文法事項や新たな語彙・慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力と基礎的な表現力の習得をめざす。テキストの基本的な表現に基づいた応用練習を行うことで、スワヒリ語を用いて自ら表現する技能を習得することができる。スワヒリ語独特の表現をより理解するためにその社会・文化的背景についても説明し、関連する実物や画像を紹介する。これにより東アフリカの言語だけでなく文化や社会についての知識も深める。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1：スワヒリ語の基本文法を総合的に理解する</li> <li>2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てて話すことができる</li> <li>3：短い日常会話の流れ全体を把握して、その内容を要約できる</li> <li>4：東アフリカの文化や社会に関する知識を深める</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション / 第1～10課の復習          第2回 第11課 / 時間          第3回 第12課 / 指示詞          第4回 第13課 / 使役          第5回 第14課 / 条件節          第6回 関係節          第7回 第15課 / 受身          第8回 第11～15課の復習と補足説明          第9回 第16課 / 相互形          第10回 第17課 / 仮想時制          第11回 第18課 / 複合時制          第12回 第19課 / ことわざ・なぞなぞ          第13回 第20課 / 手紙の書き方          第14回 第16～20課の復習と補足説明          第15回 期末試験          第16回 フィードバック</p> <p>なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
----- スワヒリ語（中級）(語学)(2)へ続く -----											

## スワヒリ語（中級）(語学)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

予習・復習状況などの平常点（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

### 【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。  
各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。  
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。  
練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目47

科目ナンバリング		U-LET49 29648 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語（初級A）(語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 外国語学部 助教 杉山 豊			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語（初級）									
【授業の概要・目的】											
朝鮮語を知らない学生を対象に、初歩から文字、発音、初級文法、初級会話を教授し、あわせて朝鮮・韓国の文化、歴史にもふれる。											
【到達目標】											
終了時点でハングルが読め、簡単な会話ができることを目標とする。											
【授業計画と内容】											
一学期の進度予定は以下の通り。ただし、受講者の理解度や興味・関心に応じ、解説の補完、発展的内容の追加を随時行う。											
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：文字(1)（第1課相当）</p> <p>第3回：文字(2)（第1課相当）</p> <p>第4回：発音(1)（第2課相当）</p> <p>第5回：発音(2)（第2課相当）</p> <p>第6回：単語の表記(1)（第3課相当）</p> <p>第7回：単語の表記(2)（第3課相当）</p> <p>第8回：単語の発音(1)（第4課相当）</p> <p>第9回：単語の発音(2)（第4課相当）</p> <p>第10回：現在終止形（上称体）（第5課相当）</p> <p>第11回：名詞と助詞（第6課相当）</p> <p>第12回：数詞と助数詞(1)（第7課相当）</p> <p>第13回：数詞と助数詞(2)（第7課相当）</p> <p>第14回：否定と肯定（第8課相当）</p> <p>第15回：期末試験・フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30点）と学期末試験（70点）。											
----- 朝鮮語（初級A）(語学)(2)へ続く -----											

朝鮮語（初級A）(語学)(2)

**[教科書]**

松尾勇・金善美 『初めての韓国語』（同学社）ISBN:978-4-8102-0267-0

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

予習：各回の本文、会話文、及び新出単語に目を通しておくこと。  
復習：各回の学習内容を整理し、理解を定着させること。

**（その他（オフィスアワー等））**

出席を重んじるので、毎回出席し、復習すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目48

科目ナンバリング		U-LET49 29649 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語（初級B）(語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 外国語学部 助教 杉山 豊			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語（初級）									
【授業の概要・目的】											
朝鮮語を知らない学生を対象に、初歩から文字、発音、初級文法、初級会話を教授し、あわせて朝鮮・韓国の文化、歴史にもふれる。											
【到達目標】											
終了時点でハングルが読め、簡単な会話ができることを目標とする。											
【授業計画と内容】											
一学期の進度予定は以下の通り。ただし、受講者の理解度や興味・関心に応じ、解説の補完、発展的内容の追加を随時行う。											
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：略待上称体(1)（第9課相当）</p> <p>第3回：略待上称体(2)（第9課相当）</p> <p>第4回：変則用言(1)（第10課相当）</p> <p>第5回：変則用言(2)（第10課相当）</p> <p>第6回：過去終止形（第11課相当）</p> <p>第7回：未来終止形（第12課相当）</p> <p>第8回：敬語形（第13課相当）</p> <p>第9回：命令・勧誘・禁止（第14課相当）</p> <p>第10回：連用形（第15課相当）</p> <p>第11回：連体形（第16課相当）</p> <p>第12回：各種接続語尾（第17課相当）</p> <p>第13回：各種補助用言（第18課相当）</p> <p>第14回：各種補助用言(第18課相当)</p> <p>第15回：期末試験・フィードバック</p>											
【履修要件】											
前期よりの継続なので、前期に初級を履修しているか、またはそれと同等の学習歴のある者。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30点）と学期末試験（70点）。											
----- 朝鮮語（初級B）(語学)(2)へ続く -----											

朝鮮語（初級B）(語学)(2)

**[教科書]**

松尾勇・金善美 『初めての韓国語』（同学社）ISBN:978-4-8102-0267-0

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

予習：各回の本文、会話文、及び新出単語に目を通しておくこと。  
復習：各回の学習内容を整理し、理解を定着させること。

**（その他（オフィスアワー等））**

出席を重んじるので、毎回出席し、復習すること。  
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目49

科目ナンバリング		U-LET49 29650 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語(中級A)(語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 中村 麻結			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語(中級)									
【授業の概要・目的】											
朝鮮語文法における中級文法(初級に続く内容)を一通り解説・練習する。各課の内容は以下の文法事項のほか、簡単な会話を含む。文法説明は講義形式で行うが、会話と読解はペア練習または発表形式で練習する。											
【到達目標】											
中級朝鮮語文法を身につけ、会話において直接その知識を活用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 1. 希望表現、2. 過去形、3. l語幹用言について、4. 尊敬の語尾と過去形の融合形											
第2回 1. 感嘆・婉曲・余韻の語尾、2. 聞き手の意志を尋ねる終結語尾、3. 「～したあと」、4. 意思表示・約束の終結語尾											
第3回 1. 例えの表現、2. 丁寧に勧める終結語尾、3. 譲歩の表現、4. 可能と不可能											
第4回 1. 目的の表現、2. 感嘆の終結語尾、3. 仮定の接続語尾、4. 「～するまで」											
第5回 1. 推量表現(1)、2. 根拠の終結語尾、3. 過去形の縮約形、4. 丁寧に表す助詞											
第6回 1. 尊敬の語尾、2. 同意を求める終結語尾、3. 丁寧に疑問の終結語尾(動詞)、4. 先行動作や理由・根拠の接続語尾											
第7回 1. 連用形+補助用言、2. 前置き・逆接の接続語尾、3. 接続語尾-keiによる慣用表現、4. 「～てしまう」											
第8回 1. 依頼の表現、2. 経験の表現、3. 経過の表現、4. 「～について、に関して」											
第9回 1. 未来連体形による表現、2. 仮定条件の接続語尾、3. 目標の接続語尾、4. 常体とやわらかい敬体											
第10回 1. 不審を表す終結語尾、2. 名詞形語尾、3. 理由を表す分析的形式、4. 非関与を表す接続語尾											
第11回 1. 変則用言、2. 「～じゃないですか」3. 意図表現と意志表現、4. くだけた並列の助詞											
第12回 1. 準備を表す補助用言2. 変則活用1)h変則、2)t変則、3)le変則、4)lu変則、3. 比較対象の助詞、4. 接尾辞-talahta											
第13回 1. 付帯状況の接続語尾、2. 依頼や命令の根拠を表す接続語尾、3. 命令・勧誘の最敬体終止形語尾、4. e変則活用											
第14回 1. 意図の表現、2. 疑問形語尾を用いた推量表現、3. 程度の助詞、4. 対照させる接続語尾											
第15回 期末試験、フィードバック											
----- 朝鮮語(中級A)(語学)(2)へ続く -----											



朝鮮語（中級A）(語学)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

授業での発表（20点）、小テスト（1回、20点）、期末試験（60点）

**【教科書】**

松尾勇・金善美・千田俊太郎 『佳子のソウル留学から... - 中級韓国語教材 - 』（同学社）ISBN: 978-4-8102-0272-4

**【参考書等】**

（参考書）

油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎共編 『小学館 韓日辞典』（小学館）ISBN:978-4095157214

（関連URL）

[https://www.monokakido.jp/ja/old\\_product/foreign/korean/](https://www.monokakido.jp/ja/old_product/foreign/korean/)(小学館韓日辞典・日韓辞典のiPhone用アプリです。)

**【授業外学修（予習・復習）等】**

授業は教科書に沿って行うので、授業前に次回の内容を予習して下さい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目50

科目ナンバリング		U-LET49 29651 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語(中級B)(語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 中村 麻結			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語(中級)									
【授業の概要・目的】											
朝鮮語文法における中級文法(初級に続く内容)を一通り解説・練習する。各課の内容は以下の文法事項のほか、簡単な会話を含む。文法説明は講義形式で行うが、会話と読解はペア練習または発表形式で練習する。											
【到達目標】											
中級朝鮮語文法を身につけ、会話において直接その知識を活用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 1. 原因・目的の接続語尾、2. 逆説の助詞、3. 願望表現、4. 複数の接尾辞、5. 意外さ・感嘆を表す副詞											
第2回 1. 名詞「久し振り」、2. 並列の接続語尾、3. 引用の語尾、4. 逆接の接続語尾、5. 中断の接続語尾											
第3回 1. 程度・限界の接続語尾、2. 次善の助詞、3. 下称の平叙形・感嘆形、4. ため口、5. 可能性の表現											
第4回 1. 未来連体形 + 依存名詞kyem、2. 連用形 + 補助動詞kata、3. 接続語尾-(u)lci、4. 名詞形語尾-m/um、5. 助詞(u)losse											
第5回 1. 下称の疑問形・命令形・勧誘形・禁止形、2. 軽微な詠嘆の語尾、3. ...することはする、4. 推量・意志の表現(ため口)、5. 羅列の接続語尾-(u)lya											
第6回 1. 驚き・不審・不服の終結語尾、2. 方法の表現、3. 引用形語尾、4. 引用文を受ける述語、5. 動詞の現在連体形 + tailo											
第7回 1. 連用形 + 補助動詞ota、2. 推量・意志の表現(略体上称)、3. -i/ki/li/hi-による動詞の派生、4. 引用文の連体形、5. 思い込みの表現											
第8回 1. 接続語尾-aya/eya/yeya、2. 代名詞mueの感嘆詞的用法、3. ...することもある、4. 連体形 + chailo、5. ...してばかりいる											
第9回 1. 条件の接続語尾、2. 許可の表現、3. 理由の接続語尾(書き言葉)、4. 例示の接続語尾、5. 逆説の接続語尾(書き言葉)											
第10回 1. 人数の助詞、2. u変則活用、3. 終結語尾-nunkel、4. 補助動詞chekhata、5. 禁止の表現											
第11回 1. 接続語尾-tanuntei、2. 終結語尾-tanikka、3. 試行の補助動詞、4. 寸前の補助形容詞											
第12回 1. 未来連体形 + cikyeng、2. 伝聞感嘆形、3. ...しようと思っていたところだ、4. 終結語尾-ulkel											
第13回 1. 例示の助詞、2. 驚き・不審・不服の終結語尾 + yo、3. 接続語尾-tani/ntani/nuntani、4. 副詞「どれくらい」											
第14回 1. 形容詞連用形 + poita、2. 決定の表現、3. 後悔を表す表現、4. 伝聞表現											
第15回 期末試験、フィードバック											
----- 朝鮮語(中級B)(語学)(2)へ続く -----											

朝鮮語（中級B）(語学)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

授業での発表（20点）、小テスト（1回、20点）、期末試験（60点）

**【教科書】**

松尾勇・金善美・千田俊太郎 『佳子のソウル留学から... - 中級韓国語教材 - 』（同学社）ISBN: 978-4-8102-0272-4

**【参考書等】**

（参考書）

油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎共編 『小学館 韓日辞典』（小学館）ISBN:978-4095157214

（関連URL）

[https://www.monokakido.jp/ja/old\\_product/foreign/korean/](https://www.monokakido.jp/ja/old_product/foreign/korean/)(小学館韓日辞典・日韓辞典のiPhone用アプリです。)

**【授業外学修（予習・復習）等】**

授業は教科書に沿って行うので、授業前に次回の内容を予習して下さい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目51

科目ナンバリング		U-LET49 29672 LJ48									
授業科目名 <英訳>		古代エジプト語・コプト語（初級） Ancient Egyptian and Coptic				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 宮川 創			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		中エジプト語とコプト語の基礎									
【授業の概要・目的】											
5,000年以上の書記記録を持つエジプト語の様々な変種の文法を学び、文法化・語彙化・音韻変化など歴史言語学で扱われる様々な事象を分析する。背景となった古代エジプトやコプトの歴史・宗教・文化についても学ぶ。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒエログリフとコプト文字を読めるようになる。</li> <li>・中エジプト語とコプト語の文法を学んでこれらの言語のテキストの基礎的な文法解析ができるようになる。</li> <li>・中エジプト語とコプト語という同一言語の異なる通時的言語変種を学び、言語変異を分析できるようになる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
エジプト語は紀元前34～32世紀頃から現代まで文字記録があり、様々な言語変種がある。											
この「古代エジプト語・コプト語（初級）」の授業では、古代エジプト語の中、古典語となった中エジプト語と古代エジプト語の解読の鍵となった、古代エジプト語の直接の末裔であるコプト語について学ぶ。											
中エジプト語は、紀元前23世紀頃から使われ、『シヌへの物語』など古代エジプト文学の白眉となる作品を多数生み出した。その後、紀元後4世紀まで、古典語として用いられ、古代エジプト文明を象徴するエジプト語の一変種となった。この言語は、ヒエログリフとヒエラティックという2種類の文字で書かれた。											
これに対して、コプト語はエジプト語の最終段階であり、ギリシア文字24文字に6～7程度の民衆文字由来の文字を加えたコプト文字で書かれたエジプト語である。コプト語は、『トマスによる福音書』などのグノーシス主義の文献、『ケファライア』などのマニ教文献、様々な初期キリスト教の文献など、宗教学上重要な文献を多く有している言語であり、現在でもコプト・キリスト教会で典礼言語として用いられている。											
この授業では、エジプト語のこれらの2つの言語変種の文字・文法を学びながら、エジプト語の言語変化について深く分析する言語学的能力を身につける。その他、古代エジプトの歴史や宗教文化などの周辺事項についても学ぶ。											
第1回 古代エジプトとエジプト語の歴史 第2回 ヒエログリフとコプト文字（1） 第3回 ヒエログリフとコプト文字（2） 第4回 中エジプト語とコプト語の名詞 第5回 中エジプト語とコプト語の形容詞											
----- 古代エジプト語・コプト語（初級）(2)へ続く -----											

古代エジプト語・コプト語（初級）(2)

- 第6回 中エジプト語とコプト語の前置詞  
第7回 中エジプト語とコプト語の動詞  
第8回 中エジプト語とコプト語の文型  
第9回 中エジプト語とコプト語のその他の文法事項  
第10回 コプト語『トマスによる福音書』を読む(1)  
第11回 コプト語『トマスによる福音書』を読む(2)  
第12回 コプト語『トマスによる福音書』を読む(3)  
第13回 中エジプト語『難破した水夫の物語』を読む(1)  
第14回 中エジプト語『難破した水夫の物語』を読む(2)  
第15回 中エジプト語『難破した水夫の物語』を読む(3)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業への貢献、練習問題、課題など）60％・期末レポート40％

【教科書】

講師が用意する。

【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

予習・復習となる練習問題や課題が課される。

（その他（オフィスアワー等））

研究室（文系学部校舎406室）でも質問や相談を受け付けます。月曜日2限目をオフィスアワーとします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目52

科目ナンバリング		U-LET49 29677 LJ48									
授業科目名 <英訳>		古代エジプト語・コプト語（中級） Ancient Egyptian and Coptic				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 宮川 創			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		中エジプト語とコプト語の知識を活用して古エジプト語、新エジプト語、民衆文字エジプト語を学ぶ									
【授業の概要・目的】											
5,000年以上の書記記録を持つエジプト語の様々な変種の文法を学び、文法化・語彙化・音韻変化など歴史言語学で扱われる様々な事象を分析する。背景となった古代エジプトやコプトの歴史・宗教・文化についても学ぶ。											
【到達目標】											
「古代エジプト語・コプト語（初級）」で学んだ中エジプト語とコプト語の知識を活用して、他の古代エジプト語の変種、すなわち、古エジプト語、新エジプト語、民衆文字エジプト語の文法知識を身につけ、エジプト語の歴史変化をより深く分析できるようになる。											
【授業計画と内容】											
「古代エジプト語・コプト語（初級）」で学んだ中エジプト語とコプト語の知識を用いて、古エジプト語、新エジプト語、民衆文字エジプト語を学ぶ。											
古エジプト語は、主に紀元前27世紀から紀元前21世紀ころまで用いられ、最大のコーパスは第5王朝・第6王朝・第8王朝の王や王妃のピラミッドの内部にヒエログリフで刻まれている『ピラミッド・テキスト』である。古エジプト語は中エジプト語に似るが、相違点も多数ある。											
新エジプト語は、紀元前14世紀から紀元前4世紀まで用いられ、特に新王国第19王朝・第20王朝で発達した、口語に近い言語変種を書き記したものである。新エジプト語の文法は、中エジプト語の要素を残しながらも、コプト語に近くなっている。テキストのジャンルとしては、物語、恋愛詩、宗教詩などがある。											
民衆文字エジプト語は、紀元前8世紀から紀元後5世紀まで用いられ、民衆文字で表された。当時の口語をある程度反映しているものと思われ、文法はコプト語に極めて似ている。ロゼッタストーンの中段に書かれている言語もこの民衆文字エジプト語であり、物語、知恵文学から裁判記録や日常のメモや手紙など様々な文献がある。											
第1回 古エジプト語の文法（1）											
第2回 古エジプト語の文法（2）											
第3回 古エジプト語の文法（3）											
第4回 古エジプト語『ピラミッド・テキスト』読解（1）											
第5回 古エジプト語『ピラミッド・テキスト』読解（2）											
第6回 新エジプト語の文法（1）											
第7回 新エジプト語の文法（2）											
第8回 新エジプト語の文法（3）											
第9回 新エジプト語『呪われた王子』読解（1）											
第10回 新エジプト語『呪われた王子』読解（2）											
----- 古代エジプト語・コプト語（中級）(2)へ続く -----											

古代エジプト語・コプト語（中級）(2)

第11回 民衆文字エジプト語の文字と文法（1）

第12回 民衆文字エジプト語の文字と文法（2）

第13回 民衆文字エジプト語の文字と文法（3）

第14回 民衆文字エジプト語『セットネ・カエムワセトの物語』読解（1）

第15回 民衆文字エジプト語『セットネ・カエムワセトの物語』読解（2）

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業への貢献、練習問題、課題など）60％・期末レポート40％

【教科書】

講師が用意する。

【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

予習・復習となる練習問題や課題が課される。

（その他（オフィスアワー等））

研究室（文系学部校舎406室）でも質問や相談を受け付けます。月曜日2限目をオフィスアワーとします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目53

科目ナンバリング		U-LET49 29635 LJ48									
授業科目名 <英訳>		フランス語 (中級) (語学) French				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Olivier LORRILLARD			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	語学	使用 言語	フランス語
題目		Intermediate French									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is for students who have already studied French for one year or more. It will provide them with the opportunity to systematize and reinforce their knowledge of French vocabulary, grammar, pronunciation and culture, and allow them to work further on their command of written and spoken French.</p> <p>At the end of the year, students should be able to pass the intermediate French proficiency test designed by the French Ministry of Education (DELF A2 or B1), which addresses four language skills: reading, writing, listening, and speaking.</p> <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>											
【到達目標】											
<p>Upon the successful completion of this course, students will have learned the vocabulary, grammatical structures, and communicative norms to allow them to do the following in French:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- converse with ease when dealing with routine tasks and social situations</li> <li>- read and interpret narratives, including more complex texts on topics of interest</li> <li>- present, orally and in writing, discourse on a variety of familiar topics</li> <li>- identify and discuss fundamental elements of French culture</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the course, we will practice various exercises (weeks 2-14), fitting the schemes of the Delf exam : oral and written comprehension, oral and written production.</p> <p>Total:14 classes and 1 feedback</p>											
【履修要件】											
<p>All the students are welcome from the second academic year on, as soon as they have already studied French.</p>											
----- フランス語 (中級) (語学)(2)へ続く -----											



## フランス語（中級）(語学)(2)

### [成績評価の方法・観点]

The students will be evaluated through continuous assessment : this includes 3 tests (2 oral and 1 written) during the semester, oral and written class activities, but also participation (class attendance, classroom behavior, personal work).

Details will be explained in class.

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

Regular class attendance is essential. Short assignments will occasionally be given.

### (その他（オフィスアワー等）)

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目54

科目ナンバリング		U-LET49 29635 LJ48									
授業科目名 <英訳>		フランス語 (中級) (語学) French				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	語学	使用 言語	フランス語
題目		Intermediate French									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is for students who have already studied French for one year or more. It will provide them with the opportunity to systematize and reinforce their knowledge of French vocabulary, grammar, pronunciation and culture, and allow them to work further on their command of written and spoken French.</p> <p>At the end of the year, students should be able to pass the intermediate French proficiency test designed by the French Ministry of Education (DELF A2 or B1), which addresses four language skills: reading, writing, listening, and speaking.</p> <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>											
【到達目標】											
<p>Upon the successful completion of this course, students will have learned the vocabulary, grammatical structures, and communicative norms to allow them to do the following in French:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- converse with ease when dealing with routine tasks and social situations</li> <li>- read and interpret narratives, including more complex texts on topics of interest</li> <li>- present, orally and in writing, discourse on a variety of familiar topics</li> <li>- identify and discuss fundamental elements of French culture</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the course, we will practice various exercises (weeks 2-14), fitting the schemes of the Delf exam : oral and written comprehension, oral and written production.</p> <p>Total:14 classes and 1 feedback</p>											
【履修要件】											
All the students are welcome from the second academic year on, as soon as they have already studied French.											
【成績評価の方法・観点】											
<p>The students will be evaluated through continuous assessment : this includes 2 tests during the semester, oral and written class activities, but also participation (class attendance, classroom behavior, personal work). Details will be explained in class.</p>											
----- フランス語 (中級) (語学)(2)へ続く -----											

フランス語（中級）(語学)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

Regular class attendance is essential. Short assignments will occasionally be given.

**（その他（オフィスアワー等））**

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目55

科目ナンバリング		U-LET49 39636 LJ48									
授業科目名 <英訳>		フランス語(上級)(語学) French				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Olivier LORRILLARD			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	語学	使用 言語	フランス語
題目		Advanced French									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is designed to give students who have already begun to deepen their understanding of the French language and culture the opportunity to master a fuller range of vocabulary, structures, pronunciation, and cultural information.</p> <p>Upon completion of this course, students should be able to take the advanced French proficiency test (DELF B2 or DALF C1), required to enter French universities.</p> <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>											
【到達目標】											
<p>Strengthen listening comprehension and reading from various documents</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Consolidate grammar and lexical use</li> <li>- Increase knowledge on oral and written structures in French applied to academic (or formal) speaking and writing</li> <li>- Develop communicative skills</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the class, we will train on various exercises, fitting the schemes of the DELF / DALF exam : oral and written comprehension, oral and written production (week 2-14).</p> <p>Total:14 classes and 1 feedback</p>											
【履修要件】											
To attend to this class, students must already have a good level in French.											
【成績評価の方法・観点】											
<p>The students will be evaluated through continuous assessment : this includes 3 tests (2 oral and 1 written) during the semester, oral and written class activities, but also participation (class attendance, classroom behavior, personal work).</p> <p>Details will be explained in class.</p>											
----- フランス語(上級)(語学)(2)へ続く -----											

フランス語（上級）(語学)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

Regular class attendance is essential. Short assignments will occasionally be given.

**（その他（オフィスアワー等））**

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目56

科目ナンバリング		U-LET49 39636 LJ48									
授業科目名 <英訳>		フランス語(上級)(語学) French				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	語学	使用 言語	フランス語
題目		Advanced French									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is designed to give students who have already begun to deepen their understanding of the French language and culture the opportunity to master a fuller range of vocabulary, structures, pronunciation, and cultural information.</p> <p>Upon completion of this course, students should be able to take the advanced French proficiency test (DELF B2 or DALF C1), required to enter French universities.</p> <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>- Strengthen listening comprehension and reading from various documents</li> <li>- Consolidate grammar and lexical use</li> <li>- Increase knowledge on oral and written structures in French applied to academic (or formal) speaking and writing</li> <li>- Develop communicative skills</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the class, we will train on various exercises, fitting the schemes of the DELF / DALF exam : oral and written comprehension, oral and written production (week 2-14).</p> <p>Total:14 classes and 1 feedback</p>											
【履修要件】											
To attend to this class, students must already have a good level in French.											
【成績評価の方法・観点】											
<p>The students will be evaluated through continuous assessment : this includes 2 tests during the semester, oral and written class activities, but also participation (class attendance, classroom behavior, personal work) Details will be explained in class.</p>											
----- フランス語(上級)(語学)(2)へ続く -----											

フランス語（上級）(語学)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

Regular class attendance is essential. Short assignments will occasionally be given.

**（その他（オフィスアワー等））**

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目57

科目ナンバリング		U-LET49 28005 LJ36									
授業科目名 <英訳>		博物館学Ⅰ(講義) Museum Science I				担当者所属・ 職名・氏名		近畿大学文芸学部 准教授 松岡 久美子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		博物館概論									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、博物館に関する基礎的な知識を身につけることにある。博物館が成立した歴史的・文化的背景を振り返り、様々な博物館活動について通覧し、あわせて今日の博物館を取り巻く諸課題について考察する。											
【到達目標】											
博物館に関する基礎的な知識を身につけ、博物館や学芸員の今後のあり方について各自が自覚的かつ主体的に考える力を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。なお講義の進みぐあいや時事問題への言及などに対応して順序や同一テーマの回数を変える場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．博物館とは、学芸員とは</li> <li>2．西欧における博物館の歴史</li> <li>3．日本における博物館前史</li> <li>4．日本における博物館のあゆみ</li> <li>5．フィードバック</li> <li>6．統計から見る博物館</li> <li>7．博物館の分類</li> <li>8．館種別にみる博物館 総合博物館</li> <li>9．館種別にみる博物館 歴史博物館・郷土博物館</li> <li>10．館種別にみる博物館 美術館</li> <li>11．館種別にみる博物館 自然史博物館・理工博物館・動植物園水族館</li> <li>12．文化財行政と博物館</li> <li>13．学校教育と博物館</li> <li>14．社会の要請に応える博物館活動</li> <li>15．フィードバック・総括</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末レポート 70%</p> <p>講義時に実施する小レポート 30%</p> <p>出席回数が60%に満たない場合は、原則として単位を認めません。</p>											
----- 博物館学Ⅰ(講義)(2)へ続く -----											



博物館学Ⅰ(講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

様々な分野の博物館に実際に足を運び、それぞれの館の可能性や課題について考える。

**(その他(オフィスアワー等))**

連絡先 kumiko.matsuoka@lac.kindai.ac.jp  
連絡時は必ず科目名、所属、氏名を明記してください。

**【履修上の注意点】**  
資格取得のための科目であり卒業に必要な単位としては認められないので、注意して履修すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目58

科目ナンバリング		U-LET49 28006 LJ36									
授業科目名 <英訳>		博物館学II(講義) Museum Science II				担当者所属・ 職名・氏名		近畿大学文芸学部 准教授 松岡 久美子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		博物館経営論									
【授業の概要・目的】											
20世紀後半以降を中心に、博物館を取り巻く様々な制度の変遷やその背景、課題について取り上げる。博物館をとりまく環境が大きく変化していく中で、博物館が存続し、社会的意義を果たしていくためにはどうすればよいかを考察する。											
【到達目標】											
博物館を取り巻く様々な問題に関心を持ち、歴史的経緯を踏まえた上で現状を分析し、経営的視点を持って今後の博物館のあり方について考察できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。講義の進みぐあい、時事問題への言及などに対応して扱うテーマやその順序等を変える場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．博物館の経営</li> <li>2．国立博物館をとりまく制度と課題</li> <li>3．公立博物館をとりまく制度と課題</li> <li>4．公立博物館をとりまく制度と課題2</li> <li>5．博物館の公共性・公益性をめぐる諸課題（フィードバック）</li> <li>6．私立博物館をとりまく制度と課題</li> <li>7．大学博物館をとりまく制度と課題</li> <li>8．使命と評価</li> <li>9．博物館の定義と倫理規定、行動規範</li> <li>10．リスクマネジメント</li> <li>11．外部組織との連携</li> <li>12．博物館をつくる</li> <li>13．博物館をつくる2</li> <li>14．博物館をとりまく今日的課題（フィードバック）</li> <li>15．総括</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末レポート 70%</p> <p>講義時に実施する小レポート 30%</p> <p>出席回数が60%に満たない場合は、原則として単位を認めません。</p>											
----- 博物館学II(講義)(2)へ続く -----											

博物館学II(講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

博物館を取り巻く時事問題について情報収集し、分析し、考察する習慣を身につける。  
様々な分野の博物館をできるだけ多く、問題意識を持ちながら見学する。

**(その他(オフィスアワー等))**

連絡先 kumiko.matsuoka@lac.kindai.ac.jp  
連絡時は必ず科目名、所属、氏名を明記してください。

**【履修上の注意点】**

資格取得のための科目であり卒業に必要な単位としては認められないので、注意して履修すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目59

科目ナンバリング		U-LET49 28007 LJ36											
授業科目名 <英訳>		博物館学III(講義) Museum Science III				担当者所属・ 職名・氏名		京都国立博物館 学芸課 特任研究員				宮川 禎一	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語		
題目		博物館学 (博物館資料論)											
【授業の概要・目的】													
博物館・美術館の学芸員の仕事を博物館業務の実態をもとに具体的に講義する。特に作品・資料の収集・搬入の方法、また作品の取り扱い方法や収蔵庫や展示場での保存方法を中心に講義を進める。すなわち資料作品の収集・管理・研究・展示・運搬など資料にまつわる具体的作業について述べる。また京都国立博物館で実際に企画運営されている展覧会の実情を述べて博物館・美術館学芸員の役割への理解を深める。さらには実際の展覧会・展示場の見学もあわせて博物館美術館業務への認識を向上させることを目的とする。													
【到達目標】													
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 博物館・美術館の成り立ちと意義 - 博物館とはなにかを理解する</li> <li>2 作品の種類と性質 - 資料の性質と収蔵の問題を考えて理解する</li> <li>3 博物館における作品の収集とは - 寄託・寄贈・購入の実態を理解する</li> <li>4 作品の保存処理 - 作品を科学的に守る方法を理解する</li> <li>5 収蔵庫の要件 - 保存環境の問題を理解する</li> <li>6 作品の貸借と作品保護 - 保存と公開のあいだにある問題を理解する</li> <li>7 展覧会の作り方 1 - 展示を構想し出品をめざすことの意味</li> <li>8 展覧会の作り方 2 - 展示に際しての諸問題があることを理解する</li> <li>9 展覧会図録の作り方 - 鑑賞を助け、未来に記録する意義を理解する</li> <li>10 良い展覧会とは何か? - 人と作品の関係と展覧会の意義を考える</li> <li>11 実際に展示を見学しよう - 実際の展示からわかる保存と公開の問題を考える</li> <li>12 博物館美術館の未来 - デジタル化の行方と未来の展示を考える</li> <li>13 世界の博物館・美術館 - 世界にある様々な博物館美術館のありかたを考える</li> <li>14 学芸員になるには - 求められる学芸員の資質に関して考える</li> <li>15 博物館をめぐるディスカッション - これまでの講義を受けて学生と討論する</li> </ol>													
【授業計画と内容】													
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 博物館美術館の成り立ちと意義</li> <li>2 作品の種類と性質</li> <li>3 博物館における作品の収集</li> <li>4 作品の保存処理</li> <li>5 収蔵庫の要件</li> <li>6 作品の貸借と作品保護</li> <li>7 展覧会の作り方 (1)</li> <li>8 展覧会の作り方 (2)</li> <li>9 展覧会図録の作り方</li> <li>10 良い展覧会とは何か?</li> <li>11 実際に展示を見学しよう (京都大学総合博物館の展示見学)</li> <li>12 博物館美術館の未来</li> <li>13 世界の博物館・美術館</li> </ol>													
----- 博物館学III(講義)(2)へ続く -----													

博物館学III(講義)(2)

- 14 学芸員になるには  
15 博物館をめぐるディスカッション

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

受講態度およびレポートの成績で評価する。  
受講態度30%、レポート内容70%の割合で評価する。

**[教科書]**

講義中に適宜資料等を配布する。

**[参考書等]**

(参考書)

授業中に紹介する

博物館・美術館の展覧会図録を図書館などで読んで、図録のありかたに興味をもってほしい。また日本歴史・考古学・美術史などの図書も積極的に読んで欲しい。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

学芸員を目指し、資格を得ようとする学生のための講義であるので、受講生は日ごろから問題意識をもって博物館・美術館などの見学を行ってほしい。また講義を超えて展示物や解説から自己の学術的興味の範囲を広げてほしい。

**(その他(オフィスアワー等))**

日時は定めていないが、京都国立博物館での講義(例えば土曜日午後など)を行うのでそのつもりでいてほしい。

**【履修上の注意点】**

資格取得のための科目であり、卒業に単位として認められないので注意して履修すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目60

科目ナンバリング		U-LET49 28107 SJ36									
授業科目名 <英訳>		書道(演習) Calligraphy				担当者所属・ 職名・氏名		京都市立奏和高等学校 教諭 万殿 伸昭			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		書道									
【授業の概要・目的】											
書道や書写を学ぶための基礎的な力を養う。これからの書の学習のための必要な知識とともに、書 の能力を高めるための硬筆毛筆の実習を行う。さらには書の表現力を豊かにするために、歴代の漢 字古典および古筆の臨書を通してそれぞれの特徴を理解し技法を習得する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の楷書や行書と、それらに調和した仮名の書き方を理解する。</li> <li>・実技の習得を目的とし、課題に対して自主的、継続的に取り組む能力を養う。</li> <li>・学校教育の現場で必要とされる書を学ぶ心得や知識、また楷書・行書・仮名の基本を習得する。</li> <li>・文部科学省による中学校指導要領の目的に沿って、書写の基本から応用まで実技練習を通して学 び、中学校教員免許（国語）に役立てる能力を養う。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス・書写と書道、その研究倫理について 第2回 硬筆 平仮名・片仮名の学習 第3回 硬筆 漢字の基本学習 第4回 毛筆の基本学習 第5回 楷書の学習、漢字と仮名の調和 第6回 行書の学習、漢字と仮名の調和 第7回 古典による学習導入 第8回 臨書 唐代の楷書 第9回 臨書 行書「蘭亭序」 第10回 臨書 行書「風信帖」 第11回 臨書 隸書「曹全碑」 第12回 仮名 基本学習 第13回 仮名 単体 第14回 仮名 連綿 第15回 提出課題のフィードバック											
【履修要件】											
実技を伴う科目であるので、毎回の書道道具の携帯が必要となる。 半紙・墨等の消耗品も各自持参すること。											
【成績評価の方法・観点】											
提出課題（80%）課題への積極的な学習と授業での意欲的な姿勢（20%）を総合的に判断し、 評価する。											
----- 書道(演習)(2)へ続く -----											

## 書道(演習)(2)

課題（100点満点）は毎授業あり、毎回提出するため、半期8割の出席を目指す。

### [教科書]

全国大学書道学会編『書の古典と理論 改訂版』（光村図書株式会社）ISBN:978-4-89528-681-7（後期の書道の授業においても使用。）  
使用テキストのほか、授業内容に応じてプリントを配布する。

### [参考書等]

（参考書）  
実際の書に触れるために、書展に出向くことを推奨する。  
折につけ書展の情報などを告知する。

### [授業外学修（予習・復習）等]

書の実技に関してはそれまでの経験などによって各自さまざまであることが予想される。各授業に対する予習や復習に努めてほしい。

### （その他（オフィスアワー等））

【履修上の注意点】  
資格取得のための科目であり、卒業に単位として認められないので注意して履修すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目61

科目ナンバリング		U-LET49 28107 SJ36									
授業科目名 <英訳>		書道(演習) Calligraphy				担当者所属・ 職名・氏名		京都市立奏和高等学校 教諭 万殿 伸昭			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		書道									
【授業の概要・目的】											
後期の授業では、より芸術性を帯びた書を学んでいくことを目的とする。歴代の漢字古典および古筆の臨書を中心に学習する。あわせて作品と作者、時代状況等に関して講述し、それぞれの特徴を理解し技法を習得する。											
【到達目標】											
中国・日本の古典古筆の臨書実習と鑑賞を通じて、基本的な知識を習得するとともに多様な技法に習熟する。書体の変遷等、史的な推移を重視し、単に個別の古典の技法的特色を知るだけでなく、歴史の流れの中で名作相互がどのように関連しあっているかを理解する。また、名筆を生み出す時代状況も考察する。											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス・書道史上における古典古筆について。 第2回 硬筆 基本的な表現 第3回 硬筆 日常書 第4回 殷代の書 甲骨文字 骨に刻まれた文字の表現を考える 第5回 周代の書 金文「大盂鼎」 金属に鑄刻された文字の表現を考える 第6回 秦代の書 小篆「泰山刻石」 小篆の書法について考える 第7回 漢代の書 木簡「張家山前漢簡」 隸書の書法について考える 第8回 三国時代の書 楷書「薦季直表」 楷書の変遷を知る 第9回 楷書「雁塔聖教序」 第10回 行書「孔侍中帖」 第11回 行書「屏風土代」 日本の三筆・三蹟を考察する 第12回 平安朝の古筆 仮名の美を考察する 第13回 「高野切第一種」部分練習 第14回 「高野切第一種」清書 第15回 提出課題のフィードバック											
【履修要件】											
実技科目でもあるため、毎回書道用具の携帯が必要となる。 また、墨・半紙などの消耗品も持参すること。											
----- 書道(演習)(2)へ続く -----											



## 書道(演習)(2)

### [成績評価の方法・観点]

提出課題（80％）課題への積極的な学習や授業での意欲的な姿勢（20％）を総合的に判断し、評価する。

課題（100点満点）は毎授業あり、毎回提出するため、半期8割の出席を目指す。

### [教科書]

全国大学書道学会『書の古典と理論 改訂版』（光村図書出版株式会社）ISBN:978-4-89528-681-7（前期の書道の授業においても使用。）

使用テキストのほか、授業内容に応じてプリントを配布する。

### [参考書等]

（参考書）

出来るだけ積極的に書道の展覧会に足を運び、鑑賞力をつけることを勧める。

### [授業外学修（予習・復習）等]

実習を中心とするので、各回毎に指示する用具・用材を忘れず準備すること。

各回のテーマに沿って自主的に作品制作に取り組むなど、積極的に授業に取り組んでほしい。

### （その他（オフィスアワー等））

#### 【履修上の注意点】

資格取得のための科目であり、卒業に単位として認められないので注意して履修すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目62

科目ナンバリング		U-LET49 28041 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語論文作成法(演習) Introduction to Academic Writing				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 大崎 紀子			
配当 学年	2-4回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アカデミック・ライティング(1)									
【授業の概要・目的】											
<p>学術論文やエッセイ(小論文)などの論理的な文章を英語で書く能力を養成する。前期では、パラグラフの構造を学び、英文を読むことを通じて論理的な文章構成への理解を深め、自らの視点を反映した論理的な文章を英語で書く活動を行うとともに、引用の方法についても基本的な知識と技術を学ぶ。</p>											
【到達目標】											
英語と日本語の修辞法の違いを理解し、論理的で説得力のある文章を英語で書く能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>1 Guidance この授業の進め方                  2 Introduction. 書き言葉の語彙                  3-4 学術英語の基礎知識                  5 パラグラフの構造の理解、冠詞                  6-8 パラグラフの統一性と一貫性                  9-10 課題作文の添削と解説                  11-12 引用の方法、文献目録の書き方(基本篇)                  13-14 課題作文の添削と解説                  15 まとめ                  フィードバック方法は授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
受講者20人まで											
【成績評価の方法・観点】											
授業参加(クイズ、宿題提出を含む。30点)、作文課題(2-3回、計70点)											
【教科書】											
プリント教材を配布します。											
【参考書等】											
<p>(参考書)                  Alice Oshima and Ann Hogue 『Longman Academic Writing Series 4: Paragraph to Essays, Fifth Edition.』                  (Pearson Longman, 2017.)                  Swales, John M. and Feak, Christine B. 『Academic Writing for Graduate Students: Essential tasks and skills,                  third edition.』 (The University of Michigan Press, 2012)</p>											
----- 英語論文作成法(演習)(2)へ続く -----											

## 英語論文作成法(演習)(2)

---

### [授業外学修（予習・復習）等]

教材は、事前に配布しますので、予習をして授業に臨んでください。

### （その他（オフィスアワー等））

質問があればメールで随時尋ねてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目63

科目ナンバリング		U-LET49 28041 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語論文作成法(演習) Introduction to Academic Writing				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 大崎 紀子			
配当 学年	2-4回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アカデミック・ライティング(2)									
【授業の概要・目的】											
英文アブストラクト、要約、引用、文献目録の書き方など、英語論文を書くための基本的な方法論を学び、英語で学術論文を書く能力を養う。											
【到達目標】											
英語と日本語の修辞法の違いを理解するとともに、剽窃を疑われない適切な引用の方法と技術を身につける。											
【授業計画と内容】											
1 Introduction 2 Paraphrasing (書き換え) の基礎と演習 3 引用と時制、類義語 4 書き換え練習の添削と解説 5 履歴書、自己推薦書の書き方と演習 6-7 パラグラフから小論文へ 8-9 課題作文 (CV) の添削と解説 10 比較・対照論文の書き方 11 分詞構文の使い方 12-14 小論文作成演習 (作文の添削と解説) 15 まとめ フィードバックの方法は授業中に説明する。											
【履修要件】											
前期を受講していることが望ましい。(受講者20人まで)											
【成績評価の方法・観点】											
授業参加(クイズ、宿題提出を含む。30点)、課題作文(3回、計70点)											
【教科書】											
プリント教材を配布する。											
【参考書等】											
(参考書)											
Alice Oshima and Ann Hogue 『Longman Academic Writing Series 4: Paragraph to Essays, Fifth Edition.』 (Pearson Longman, 2017.)											
Swales, John M. and Feak, Christine B. 『Academic Writing for Graduate Students: Essential tasks and skills, third edition.』 (The University of Michigan Press, 2012.)											
----- 英語論文作成法(演習)(2)へ続く -----											

英語論文作成法(演習)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

教材プリントは、事前に配布しますので、予習をして授業に臨んでください。

**（その他（オフィスアワー等））**

質問はメールで随時お尋ねください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目64

科目ナンバリング		U-LET49 19702 SJ36									
授業科目名 <英訳>	人文学の多面的展開：文化の原動力としての欲望 Introduction to Humanities				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治 非常勤講師 田多井 俊喜 非常勤講師 平岡 久代 非常勤講師 平出 貴大 非常勤講師 TATARCZUK, Marcin Adam 非常勤講師 樽田 勇樹 非常勤講師 長岡 徹郎 非常勤講師 小林 敬					
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期不定	曜時限	その他	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	人文学の多面的展開：文化の原動力としての欲望										
[授業の概要・目的]											
開講期間：2022年9月30日（金）～2023年1月20日（金）（12/23休講） 後期6講時 18時10分～19時40分（毎週金曜日） 講義場所：キャンパスプラザ京都（対面）、Zoom（オンライン）											
<p>この授業では、京都大学で学んできた新進気鋭の若手研究者たちが、各自の研究内容に則してリレー形式で講義を行います。</p> <p>私たちは毎日さまざまな文化に触れ、文化的な生活を営んでいます。世界的な感染症の流行により日常生活が大きく変化し、価値観が多様化する現代において、私たちは自らが営んでいる「文化」について、一度考え直してみる時期にあるのではないのでしょうか。文化は人間の叡智の結晶であると同時に、人間の「欲望」の反映でもあります。普段あたり前に享受しているさまざまな文化、それらが生み出される人間的営為の源にまで遡って問い直すことは、私たちがよりよく生きてゆくために必要な作業ではないのでしょうか。</p> <p>こうした問題意識から、本授業では「文化」とそれを生み出す人間の営みを、社会学・現代史学・哲学・宗教学・キリスト教学といった、人文学の多様な立場から検討します。人間の営為の結晶として生み出された文化財や文化遺産、文化的営みを規定する言葉や学問、さらに文化を生み出す原動力としての私たち自身の「欲望」の問題。異なる分野・異なる切り口からアプローチしてゆくりリレー講義を通じて、問題の多角的な捉え方や柔軟な思考を養います。また、授業全体として「人文学的」観点から人間の営みを分析する面白さを学ぶことも目的としています。</p> <p>各回の授業では、受講生同士のグループディスカッションなどのアクティブ・ラーニングを積極的に活用し、授業で学んだ知識を自分自身の関心と結びつけながら主体的に考察する力を養うことも、併せて目的としています。また、本授業はオンライン授業と対面授業とを組み合わせた「ハイブリッド型授業」にて実施します。対面とオンラインの双方の特性を活かした多様な学びを経験する機会となるでしょう。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常的に受容しているさまざまな事象について、広い視野と洞察力をもって批判的に議論・検討することができるようになる。</li> <li>・ 学問的な知識や主体的な学びの方法を身につけると同時に、授業で学んだことを応用しつつ、自ら設定したテーマでレポートをまとめることができる。</li> </ul>											
----- 人文学の多面的展開：文化の原動力としての欲望(2)へ続く -----											

**[授業計画と内容]**

第1回(9/30)：イントロダクション（伊勢田・全講師）[オンライン]

・「観光から考える文化の消費と開発」（タタルチュック）

第2回(10/7)：「古都京都」は何のために作られたか？[対面]

第3回(10/14)：文化は観光のために消費されるものなのか？[対面]

・「文化財のある場所」（平岡）

第4回(10/21)：フェノロサと明治政府それぞれの欲望[オンライン]

第5回(10/28)：文化財はどこにあるべきか[対面]

・「研究調査における研究者の欲望」（田多井）

第6回(11/4)：「性的マイノリティ」研究における研究者の欲望[対面]

第7回(11/11)：研究者の欲望と説明責任[対面]

・「宗教と言語」（平出）

第8回(11/18)：経験と言葉[オンライン]

第9回(11/25)：宗教における経験の言語化[対面]

・「欲望にかんする哲学のテキストを読む」（樽田）

第10回(12/2)：欲望のあり方と「私」[対面]

第11回(12/9)：欲望のあり方と「社会」[オンライン]

・レポートの書き方とまとめ（長岡・小林）

第12回（12/16）：レポートの書き方（長岡）[オンライン]

第13回（1/6）：レポート指導（長岡）[対面・オンライン]

第14回（1/13）：レポート発表（小林）[対面・オンライン]

第15回（1/20）：まとめ・総括（小林）[対面]

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

平常点60点+レポート40点(ただし、2/3以上の出席がない場合は評価の対象としない)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

（参考書）

授業中に紹介する

人文学の多面的展開：文化の原動力としての欲望(3)

-----  
[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に、各担当者から、課題が提示されることがあります。その指示にしたがってください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



学部共通科目65

科目ナンバリング		U-LET49 19610 LJ48									
授業科目名 <英訳>		インドネシア語I (初級) (語学) Indonesian				担当者所属・ 職名・氏名		京都外国語専門学校 専任講師 柏村 彰夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		インドネシア語 (初級)									
【授業の概要・目的】											
インドネシア語に関する基礎知識を習得し、基本的な運用能力の養成を目的とする。基本的には、インドネシア語の学習歴の無い者を対象とする。											
【到達目標】											
日常会話での慣用表現の発話・聞き取りができるようになる。また、基本的な文の創出ができるようになることを目指す。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には教科書に則り、以下の項目について学習する。          なお、授業冒頭に語彙に関する小テストを（全10回）実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.イントロダクション</li> <li>2.名詞文</li> <li>3.発音と表記法</li> <li>4.人称代名詞</li> <li>5.基語動詞</li> <li>6.ber-動詞</li> <li>7.meN動詞</li> <li>8.7回までの学習内容の確認</li> <li>9.アスペクト、助数詞</li> <li>10.疑問文、疑問詞</li> <li>11.受動</li> <li>12.時間表現</li> <li>13.接尾辞 -an</li> <li>14.接頭辞 pe-, peN-</li> <li>15.前期学習内容の確認</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点評価100%          なお平常点評価には、語彙小テスト（10回、各5点）の評価を含む。</p>											
----- インドネシア語I (初級) (語学)(2)へ続く -----											

## インドネシア語I (初級) (語学)(2)

### [教科書]

森山幹弘・柏村彰夫 『教科書インドネシア語』 (めこん) ISBN:4-8396-0159-3

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に適宜紹介する

### [授業外学修 (予習・復習) 等]

初歩段階では語彙数を増やすことが最も重要である。従って初出単語の暗記を中心とする復習が必要。

### (その他 (オフィスアワー等))

第一回目の授業では、学習上必要な文献などの紹介を行う予定であるので、教科書や辞書を用意する必要は無い。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目66

科目ナンバリング		U-LET49 19611 LJ48									
授業科目名 <英訳>		インドネシア語II (初級) (語学) Indonesian				担当者所属・ 職名・氏名		京都外国語専門学校 専任講師 柏村 彰夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		インドネシア語 (初級)									
【授業の概要・目的】											
インドネシア語Iでの学習内容を踏まえ、インドネシア語の運用能力の養成を目的とする。											
【到達目標】											
日常会話レベルの基本的表現の創出能力を習得する。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には教科書に則り、以下の項目について学習する。          なお、授業冒頭に語彙に関する小テストを(全10回)実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的表現の復習</li> <li>2. 程度の副詞、接頭辞 se-</li> <li>3. 比較級、最上級</li> <li>4. 接頭辞 ter-</li> <li>5. 前置詞</li> <li>6. 接続詞</li> <li>7. 関係詞 yang</li> <li>8. 7回までの授業内容の確認</li> <li>9. 接辞 peN-an、 per-an</li> <li>10. 複合語、接辞 ke-an</li> <li>11. 命令文</li> <li>12. meN-kan動詞、 meN-i 動詞</li> <li>13. memper 動詞</li> <li>14. 畳語</li> <li>15. 後期の授業内容の確認</li> </ol>											
【履修要件】											
インドネシア語 I (初級) の履修または同程度のインドネシア語能力を前提とする。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点100%。          なお平常点には語彙小テスト(10回、各5点)の評価を含む。</p>											
【教科書】											
森山幹弘・柏村彰夫 『教科書インドネシア語』(めこん) ISBN:4-8396-0159-3											
----- インドネシア語II(初級)(語学)(2)へ続く -----											

インドネシア語II (初級) (語学)(2)

---

[参考書等]

(参考書)  
授業中に適宜紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

語彙習得が重要であり、既出単語を身につけるための復習が重要となる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目67

科目ナンバリング		U-LET49 19626 LJ48									
授業科目名 <英訳>		タイ語I(初級)(語学) Thai				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 弓庭 育子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		初めてタイ語にふれる人のためのタイ語学習									
【授業の概要・目的】											
臨地研究に備えて、暮らしの中で交わされる基本的なタイ語会話の知識を身につける。											
【到達目標】											
発音と声調の基礎が身についている。約100語の生活語彙と約20項目の基本文法が身についている。生活場面や話題に応じたタイ語表現を用いて意思疎通を図れる。											
【授業計画と内容】											
【学習方法】 講義形式による文法解説、単語、例文の口頭練習、文法事項の反復練習、ロールプレイ活動を行う。											
【学習内容：会話】											
1．オリエンテーション 学習内容、方法、テキスト、評価方法の確認											
2．発音練習 母音、声調、子音											
3．第1課1．1～1．3 挨拶、国籍を紹介する、尋ねる											
4．第1課1けたの数字、											
5．第2課2．1～2．3 挨拶、名前を紹介する、尋ねる											
6．第2課2．4～3けたの数字 挨拶、否定の表現											
7．第3課3．1～3．3 職業を紹介する、尋ねる											
8．第3課3．4～3．6 完了、予定の表現											
9．第3課数字に関する表現											
10．第4課4．1～4．3 継続の表現											
11．第4課職業の表現											
12．第5課5．1～5．2 品詞と語順											
13．第5課5．3～親族名称 可能の表現											
14．総復習											
15．フィードバック											
【履修要件】											
効果的に語学を習得するため、履修期間中は 全講義に出席し、 テキスト付録のCDを用いてタイ人の発音をまねること、を学習習慣にすること。											
----- タイ語I(初級)(語学)(2)へ続く -----											

## タイ語I(初級)(語学)(2)

### [成績評価の方法・観点]

各課学習後の課題(およそ500点)、総合の課題(およそ100点)を合計し、100点満点に換算して評価する。

### [教科書]

宮本マラシー・村上忠良『世界の言語シリーズ9 タイ語』(大阪大学出版会)ISBN:978-4-87259-333-4 C3087

授業時間に参加できないときには、記録動画を後日閲覧して授業内容を理解すること。

### [参考書等]

(参考書)

中島マリン著 赤木攻監修『挫折しないタイ文字レッスン』(めこん)ISBN:4-8396-0197-6 C0387  
(タイ文字の個人学習に関心のある学生に勧める)

### [授業外学修(予習・復習)等]

予習:テキスト付録のCDを活用してタイ語の発音に親しむこと。

復習:既習内容はテキストを用いて見直し、CDで繰り返し発音を真似て再現を試みること。

### (その他(オフィスアワー等))

上述と異なる学習レベルや学習内容を希望する場合には、第1回目授業日のオリエンテーションにて申し出ること。可能であれば対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目68

科目ナンバリング		U-LET49 19627 LJ48									
授業科目名 <英訳>		タイ語II(初級) (語学) Thai				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 弓庭 育子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		タイ語II(初級)									
【授業の概要・目的】											
【学習目的】 臨地研究に備えて、暮らしの中で交わされる基本的なタイ語会話の知識を身につける。											
【到達目標】 発音と声調の基礎が身についている。約200語の生活語彙と約38項目の基本文法が身についている。生活場面や話題に応じたタイ語表現を用いて意思疎通を図れる。タイ文字の子音字、母音符号の組み合わせの基礎が身についている。											
【授業計画と内容】											
【学習方法】 会話：講義形式による文法解説、単語、例文の口頭練習、文法事項の反復練習、ロールプレイ活動を行う。											
【学習内容：会話】 1．オリエンテーション 学習内容、方法、テキスト、評価方法の確認 2．第6課6．1～6．2 指示代名詞 3．第6課6．3～6．4 程度の表現 4．第6課味覚表現 5．第7課7．1～7．2 希望、要求の表現 6．第7課7．3～7．5 許可の表現 7．第7課交通機関の名称 8．第8課8．1～8．2 指示形容詞 9．第8課8．3～8．4 義務の表現 10．第8課時刻の表現 11．第9課9．1～9．2 順序の表現 12．第9課9．3～方向、方角の表現 13．第10課10．1～10．2 目的の表現 14．総復習 15．フィードバック											
----- タイ語II(初級) (語学)(2)へ続く -----											

## タイ語II(初級)(語学)(2)

### 【履修要件】

タイ語I(初級)を履修していることが望ましい。  
効果的に語学を習得するため、履修期間中は 全講義に出席し、 テキスト付録のCDを用いてタイ人の発音をまねること、を学習習慣にすること。

### 【成績評価の方法・観点】

講義中の小テスト(およそ500点)、学期末テスト(およそ100点)を合計し、100点満点に換算して評価する。

### 【教科書】

宮本マラシー・村上忠良 『大阪大学外国語学部 世界の言語シリーズ9 タイ語』(大阪大学出版会) ISBN:ISBN:978-4-87259-333-4 C3087

### 【参考書等】

(参考書)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

予習: テキスト付録のCDを活用してタイ語の発音に親しむこと。  
復習: 既習内容はテキストを用いて見直し、CDで繰り返し発音を真似て再現を試みること。

### (その他(オフィスアワー等))

上述と異なる学習レベルや学習内容を希望する場合には第1回目授業日のオリエンテーションにて申し出ること。可能であれば対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



学部共通科目69

科目ナンバリング		U-LET49 19631 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ビルマ(ミャンマー)語I(初級)(語学) Burmese				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 本行 沙織			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ビルマ語入門									
【授業の概要・目的】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビルマ語の発音と文字、文の成り立ちを理解する。</li> <li>・基礎的な語彙を覚え、文型を身に付け、簡単な会話を繰り返し練習する。</li> <li>・特に正確な発音の習得に重点を置き、母語話者に“通じる”ビルマ語を目指す。</li> </ul>											
【到達目標】											
ビルマ語を正確に発音するとともに、基本的な読み書き、簡単な日常会話ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 オリエンテーション ミャンマーについて、ビルマ語の特徴、発音 第2回 文字1(基本字母、複合文字、母音記号、末子音を伴う音節の表し方、有音化と綴り字) 第3回 文字2(軽音音節の綴り、重ね文字、特殊な文字、不規則な読み方や不規則な綴り字、句 読点、ビルマ数字、記号を書く順序) 第4回 第1課 それはココヤシの実です 第5回 第2課 元気です 第6回 練習問題1、第3課 私は豚肉のおかずが好きではありません 第7回 第3課 私は豚肉のおかずが好きではありません、第4課 ご飯食べましたか? 第8回 第4課 ご飯食べましたか?、練習問題2 第9回 第5課 マンダレーに行きます 第10回 第6課 何の仕事をしているんですか? 第11回 練習問題3、第7課 十冊くらいあります 第12回 第7課 十冊くらいあります、第8課 シュエダゴン・パゴダに行きたいです 第13回 第8課 シュエダゴン・パゴダに行きたいです、練習問題4 第14回 第9課 電気製品を売っている店はありますか? 第15回 これまでの授業内容の復習											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業態度、小テスト(50点)、期末試験(50点)											
----- ビルマ(ミャンマー)語I(初級)(語学)(2)へ続く -----											

ビルマ(ミャンマー)語(初級)(語学)(2)

**[教科書]**

加藤昌彦『ニューエクスプレス + ビルマ語』(白水社) ISBN:9784560088142

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

- ・ 予習は特に必要ありませんが、復習を大切にしてください。
- ・ 授業時間外でも教科書に付属しているCDを積極的に聞き、ビルマ語の音に親しんでください。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目70

科目ナンバリング		U-LET49 19637 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ベトナム語I(初級)(語学) Vietnamese				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 吉本 康子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ベトナム語I(初級)									
【授業の概要・目的】											
初学者を対象に、ベトナム語についての基礎知識を身につけるための講義を行う。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>ベトナム語の文字の読み方を理解し、単語や文章を正しく読み上げることができる。</li> <li>挨拶の表現や基本構文を用いて簡単な会話をすることができる。</li> <li>言語の学習を通し、ベトナムの社会と文化についての理解を深める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
テキストに従って以下の計画を進めるが、状況に応じて多少変更する場合もある											
第1回        ガイダンス 第2～4回    ベトナム語の文字と発音、挨拶と自己紹介 第5～6回    7課 第7～8回    8課 第9～10回   9課 第11～12回 10課 第13～14回 11課 第15回       まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点により評価する。											
【教科書】											
清水政明『世界の言語シリーズ4 ベトナム語』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-328-0 その他、授業中にプリントを配布する。											
----- ベトナム語I(初級)(語学)(2)へ続く											

ベトナム語(初級)(語学)(2)

[参考書等]

(参考書)

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[入門編]』 (アルク)

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[初級編]』 (アルク)

その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

予習

- ・ 本文に目を通し、テキスト付属のCD音声を聞く

復習

- ・ CD音声を再生しながら、本文を音読する

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目71

科目ナンバリング		U-LET49 19638 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ベトナム語II(初級)(語学) Vietnamese				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 吉本 康子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ベトナム語 (初級)									
【授業の概要・目的】											
ベトナム語の文字の読み方を理解し、挨拶や自己紹介などの基本的な会話が可能なレベルの学生を対象に、現地調査を実施する際に必要となる基礎的なベトナム語の習得を目的とした講義を行う											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>ベトナム語の基本的な文法を理解し、簡単な文章を読むことができる</li> <li>現地での生活や調査において必要な単語やフレーズを習得し、簡単な会話をするすることができる</li> <li>言語の学習を通して、ベトナムの社会と文化についての理解を深める</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
テキストに従って以下の計画で進めるが、状況に応じて多少変更する場合もある											
第1～2回 12課 第3～4回 13課 第5～6回 14課 第7～8回 15課 第9～10回 16課 第11～12回 17課 第13～14回 18課 第15回 まとめ											
【履修要件】											
ベトナム語 を履修していることが望ましいが、ベトナム語の文字が読め、挨拶や自己紹介、基本構文を用いた初歩的な会話ができれば可とする。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点により評価する。											
【教科書】											
清水政明 『世界の言語シリーズ4 ベトナム語』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-328-0 その他、授業中にプリントを配布する。											
----- ベトナム語II(初級)(語学)(2)へ続く -----											

ベトナム語II(初級)(語学)(2)

**[参考書等]**

(参考書)

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[入門編]』 (アルク)

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[初級編]』 (アルク)

その他、授業中に適宜紹介する。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

予習

- ・ 本文に目を通し、テキスト付属のCD音声を聞く

復習

- ・ CD音声を再生しながら、本文を音読する

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目72

科目ナンバリング		U-LET50 19822 LJ31									
授業科目名 <英訳>		タイ研修 Asian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定助教 張 子康			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		多文化共学短期[派遣] 留学プログラム タイ・チューラーロンコーン大学スプリングスクール									
【授業の概要・目的】											
<p>「タイ修」は、京都大学が実施する「多文化共学短期[派遣]留学プログラム」と呼ばれる短期留学、事前学習、事後学習から成る授業である。本演習の目的は、多様な文化的背景を持つ学生と共に学ぶことを通して、相手文化への理解を深めるとともに、自分自身が身につけてきた文化をも捉え直す経験をし、それを日本語、英語、もしくはタイ語で表現できるようになることを目的としている。これらのことは、将来にわたって国際活動を行うための基礎能力を養成することとなる。</p> <p>具体的には、京都大学と大学間学生交流協定関係にあるタイ・チューラーロンコーン大学の協力を得て、(1)派遣先大学が提供するタイ語講座、(2)現地学生との共同セミナー・共同学習、(3)派遣先大学提供の講座受講・実習・実地研修・文化体験を行う。</p> <p>(1)のタイ語講座では、チューラーロンコーン大学の教員による初学者向けのタイ語講座を受講する。(2)の共同セミナーにおいては、両国の文化の比較や社会情勢について両大学の学生による合同発表をおこなう。また、(3)については日・英でおこなわれるチューラーロンコーン大学の講義にも現地学生とともに参加する。文化体験においては、タイの食文化、史跡見学、現代文化見学など、多角的に現地文化を体験する機会が提供される。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期留学の経験並びに現地の学生と共に学び議論することを通じて、派遣先であるタイの文化、社会、習慣への理解、さらには日本とタイ関係ひいてはアジア諸国についての理解を深める。</li> <li>・また、同活動を通じて、日本文化（あるいは自分自身の身につけてきた文化）を相対化して客観的に捉えながら、それを相手に分かりやすく伝えられるようになる。</li> <li>・現地で提供される講義、実地研修を通じて、文化、社会、習慣について多様なアプローチを理解する。</li> <li>・現地学生を含む多様な文化的背景を持つ学生とコミュニケーションを図る意義を理解し、それを可能とする能力の基礎を習得する。</li> <li>・タイ語の基礎を習得し、基礎的なやりとりができるようになる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・当プログラムには別途申し込みをする必要があるため、申込方法などについて登録者に送られる案内、KULASIS等を参照すること。</li> <li>・研修の詳細についてもKULASISで確認すること。</li> </ul> <p>全体スケジュール（予定）</p> <p>（1）2月初旬～2月中旬：事前語学授業(12時間程度)、共同セミナー発表準備講座（3時間程度）</p> <p>（2）2月中旬～3月上旬：短期留学プログラム（於、タイ・チューラーロンコーン大学）</p> <p>プログラム内容（仮）</p>											
----- タイ研修(2)へ続く -----											

## タイ研修(2)

1日目日本発、タイ着

2日目

-09:00 - 12:00 キャンパスツアー

-13:00 - 16:00 講義「タイ国・タイ文化入門」

3日目

-09:00 - 12:00 タイ語授業

-13:00 - 16:00 タイ語授業

4日目

-09:00 - 12:00 授業受講「文化・文学」

-13:00 - 16:00 授業受講「歴史」

5日目

-09:00 - 12:00 実地見学（寺院訪問等）

6日目

-09:00 - 12:00 タイ語授業

-13:00 - 16:00 タイ語授業

7日目

実地見学（古都アユタヤ・伝統産業・現代文化等）

8日目日曜日

9日目

-09:30 - 12:30 授業受講「ビジネスコミュニケーション」

10日目

-09:00 - 12:00 講義「タイの歴史と文化」

-13:00 - 16:00 タイ語授業

11日目

-09:00 - 12:00 授業受講（予備日）

-13:00 - 15:00 共同セミナー準備

12日目

-09:30 - 12:30 共同セミナー

-13:00 - 16:00 タイ語授業

13日目

-09:00 - 11:00 発表会、修了式

14日目タイ発、日本着

（3）3月中旬 報告会（1.5時間、於、京都大学）

### 【履修要件】

本スプリングスクール参加にあたって、全学共通科目「日本語・日本文化実習」を受講した上での参加を推奨している。タイ語初学者も歓迎するが、「タイ語（初級）」等の関連科目を受講していることが望ましい。

### 【成績評価の方法・観点】

講義への参加状況、タイ語講座と共同発表での評価、研修後の報告書による。

\*全学共通科目として登録する場合は、別途「多文化教養演習：見・聞・知」のシラバスを確認のこと。

タイ研修(3)へ続く



### タイ研修(3)

#### [教科書]

授業中に指示する

#### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

(関連URL)

<http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/>(京都大学アジア研究教育ユニット(KUASU))

#### [授業外学修(予習・復習)等]

タイに関する文献を読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目73

科目ナンバリング		U-LET50 19822 LJ31									
授業科目名 <英訳>		ベトナム研修 Asian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定助教 張 子康			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		多文化共学短期[派遣]留学プログラム ベトナム国家大学ハノイ校スプリングスクール									
[授業の概要・目的]											
<p>「ベトナム研修」は、京都大学が実施する「多文化共学短期[派遣]留学プログラム」と呼ばれる短期留学、事前学習、事後学習から成る授業である。演習の目的は、多様な文化的背景を持つ学生と共に学ぶことを通じて、相手文化への理解を深めるとともに、自分自身が身につけてきた文化をも捉え直す経験をし、それを日本語、英語、もしくは現地の言語で表現できるようになることである。これらのことは、将来にわたって国際活動を行うための基礎能力を養成することとなる。</p> <p>具体的には、京都大学と大学間学生交流協定関係にあるベトナム国家大学の協力を得て、(1)派遣先大学が提供するベトナム語講座、(2)現地学生との共同セミナー・共同学習、(3)派遣先大学提供の講座受講・実習・実地研修・文化体験を行う。</p> <p>(1)のベトナム語講座では、初学者向けのベトナム語講座を受講する。(2)の共同セミナーにおいては、両国の文化の比較や社会情勢について両大学の学生による合同発表をおこなう。また、(3)ベトナム国家大学の講義にも現地学生とともに参加する。文化体験においては、ベトナムの食文化、史跡見学、伝統楽器の演奏体験など、多角的に現地文化を体験する機会が提供される。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期留学の経験並びに現地の学生と共に学び議論することを通じて、派遣先であるベトナムの文化、社会、習慣への理解、さらには日本とベトナムとの関係についてはアジア諸国についての理解を深める。</li> <li>・また、同活動を通じて、日本文化あるいは自分自身が身につけてきた文化を相対化して客観的に捉えながら、それを相手に分かりやすく伝えられるようになる。</li> <li>・現地で提供される講義、実地研修を通じて、文化、社会、習慣について多様なアプローチを理解する。</li> <li>・現地学生を含む多様な文化的背景を持つ学生とコミュニケーションを図る意義を理解し、それを可能とする能力の基礎を習得する。</li> <li>・ベトナム語の基礎を習得し、基礎的なやりとりができるようになる。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・当プログラムには別途申し込みをする必要があるため、申込方法などについて登録者に送られる案内、KULASIS等を参照すること。</li> <li>・研修の詳細についてもKULASISで確認すること。</li> </ul> <p>全体スケジュール(予定)</p> <p>(1)2月初旬~2月中旬:事前語学授業(12時間程度)、共同セミナー発表準備講座(3時間程度)</p> <p>(2)2月中旬~3月上旬:短期留学プログラム(於、ベトナム国家大学ハノイ校)</p> <p>プログラム内容(仮)</p> <p>1日目日本発、ベトナム着</p>											
----- ベトナム研修(2)へ続く -----											

## ベトナム研修(2)

2日目 2~6日目：ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学

-09:15-09:45 オリエンテーション

-09:50-11:40 講義「ベトナム地理」

-12:00-14:00 共同セミナー準備

3日目

-09:30-11:30 講義「日本語研究入門」

-14:00-16:00 ベトナム語授業

-16:15-18:15 共同セミナー準備

4日目

-09:30-11:30 講義「ベトナムの国家機関と法律」

-14:00-16:00 講義「ベトナムの大衆文化」

-16:15-18:15 共同セミナー準備

5日目

-09:30-11:30 ベトナム語授業

-12:45-14:30 実習（日本語教授研修）

-14:35-15:35 共同セミナーの準備

6日目

-10:00-16:30 実地研修（伝統村見学）

7日目土曜日

8日目日曜日

9~13日目：ベトナム国家大学ハノイ校外国語大学

9日目

-08:30-09:30 オリエンテーション及び共同セミナー準備

-09:50-11:40 ベトナム語授業

-14:45-15:45 共同セミナーの準備

10日目

-08:45-09:30 ベトナム語授業

-11:00-12:00 共同セミナーの準備

-13:00-14:35 ベトナム語授業

-14:45-16:30 実習（日本語会話：日本語教授研修）

11日目実地研修（6時間程度 詳細は後日）

12日目

-08:45-10:50 ベトナム語授業

-13:00-14:30 実習（日本語会話：日本語教授研修）

-14:45-16:15 ベトナム語授業

-16:30-17:30 共同セミナー準備

13日目

-9:30-11:30 共同セミナー、修了式

14日目ベトナム発、日本着

（3）3月下旬 報告会（1.5時間、於、京都大学）

### 【履修要件】

本スプリングスクール参加にあたって、全学共通科目「日本語・日本文化実習」を受講した上での参加を推奨している。ベトナム語初学者も歓迎するが、「ベトナム語（初級）」等の関連科目を受講していることが望ましい。

ベトナム研修(3)へ続く

## ベトナム研修(3)

### 【成績評価の方法・観点】

事前学習への参加状況、現地での評価、研修後の報告会および報告書による。

\*全学共通科目として登録する場合は、別途「多文化教養演習：見・聞・知」のシラバスを確認してください。

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### (関連URL)

<http://www.kuasucpier.kyoto-u.ac.jp/>(京都大学アジア研究教育ユニット(KUASU))

### 【授業外学修(予習・復習)等】

ベトナムに関する文献を読むこと。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目74

科目ナンバリング		U-LET50 19822 LJ31									
授業科目名 <英訳>		インドネシア研修 Asian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定助教 張 子康			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		多文化共学短期[派遣]留学プログラム インドネシア大学スプリングスクール									
[授業の概要・目的]											
<p>「インドネシア研修」は、京都大学が実施する「多文化共学短期[派遣]留学プログラム」と呼ばれる短期留学、事前学習、事後学習から成る授業である。本演習の目的は、多様な文化的背景を持つ学生と共に学ぶことを通じて、相手文化への理解を深めるとともに、自分自身が身につけてきた文化をも捉え直す経験をし、それを日本語、英語、もしくは現地の言語で表現できるようになることである。これらのことは、将来にわたって国際活動を行うための基礎能力を養成することとなる。</p> <p>具体的には、京都大学と大学間学生交流協定関係にあるインドネシア大学の協力を得て、(1)派遣先大学が提供するインドネシア語講座、(2)現地学生との共同セミナー・共同学習、(3)派遣先大学提供の講座受講・実習・実地研修・文化体験を行う。</p> <p>(1)のインドネシア語講座では、初学者向けのインドネシア語講座を受講する。(2)の共同セミナーにおいては、両国の文化の比較や社会情勢について両大学の学生による合同発表をおこなう。また、(3)インドネシア大学の講義にも現地学生とともに参加する。文化体験においては、インドネシアの食文化、史跡見学、伝統楽器の演奏体験など、多角的に現地文化を体験する機会が提供される。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期留学の経験並びに現地の学生と共に学び議論することを通じて、派遣先であるインドネシアの文化、社会、習慣への理解、さらには日本とインドネシアとの関係についてはアジア諸国についての理解を深める。</li> <li>・また、同活動を通じて、日本文化あるいは自分自身が身につけてきた文化を相対化して客観的に捉えながら、それを相手に分かりやすく伝えられるようになる。</li> <li>・現地で提供される講義、実地研修を通じて、文化、社会、習慣について多様なアプローチを理解する。</li> <li>・現地学生を含む多様な文化的背景を持つ学生とコミュニケーションを図る意義を理解し、それを可能とする能力の基礎を習得する。</li> <li>・インドネシア語の基礎を習得し、基礎的なやりとりができるようになる。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>2月初旬～3月初旬実施予定。          研修の詳細についてはKULASISで確認すること。          履修登録、単位認定は文学部でおこなわれる。          本スプリングスクールに参加するには別途申し込みをする必要があるため、申込方法などについてもKULASIS等を参照すること。</p> <p>全体スケジュール(予定)          (1)2月上旬～2月中旬：事前語学授業(12時間程度)、共同セミナー発表準備講座(3時間程度)</p>											
----- インドネシア研修(2)へ続く -----											

## インドネシア研修(2)

(2) 2月中旬～3月上旬：短期留学プログラム（於、インドネシア大学）

プログラム内容（仮）

1日目 日本発、インドネシア着

2日目

-09:00-10:40 インドネシア語授業

-11:00-12:40 インドネシア語授業

-16:00-18:00 キャンパスツアー

3日目

-09:00-10:40 インドネシア語授業

-11:00-12:40 インドネシア語授業

-14:00-16:00 文化体験（伝統舞踊研修）

-16:30-18:30 共同セミナー準備

4日目

-09:00-10:40 インドネシア語授業

-11:00-12:40 インドネシア語授業

-14:00-16:00 実習（日本語授業参加）

5日目

-09:00-10:40 インドネシア語授業

-11:00-12:40 インドネシア語授業

-16:30-18:30 共同セミナー準備

6日目

-09:00-10:40 インドネシア語授業

-11:00-12:40 インドネシア語授業

-14:00-16:00 文化体験（伝統工芸研修）

7日目

-09:00-18:00 課外研修（史跡訪問等）

8日目 日曜日 休み

9日目

-09:00-10:40 インドネシア語授業

-11:00-12:40 インドネシア語授業

-14:00-16:00 文化体験（伝統楽器・演奏研修）

-16:30-18:30 共同セミナー準備

10日目

-09:00-10:40 インドネシア語授業

-11:00-12:40 インドネシア語授業

-16:00-18:00 講義受講「翻訳」

11日目

-09:00-10:40 インドネシア語授業

-11:00-12:40 インドネシア語授業

-16:00-18:00 共同セミナー準備

12日目

-09:00-10:40 インドネシア語授業

-11:00-12:40 インドネシア語授業

-16:00-18:00 共同セミナー準備

13日目

-09:00-10:40 インドネシア語授業

-11:00-12:40 インドネシア語授業

インドネシア研修(3)へ続く

## インドネシア研修(3)

-13:15-18:00 共同セミナー  
14日目インドネシア発、日本着  
(3)3月下旬 報告会(1.5時間、於、京都大学)

### 【履修要件】

本スプリングスクール参加にあたって、全学共通科目「日本語・日本文化実習」を受講した上での参加を推奨している。インドネシア語初学者も歓迎するが、「インドネシア語(初級)」等の関連科目を受講していることが望ましい。

### 【成績評価の方法・観点】

事前学習への参加状況、インドネシア大学による評価、研修後の報告会および報告書による。

\*全学共通科目として登録する場合は、別途「多文化教養演習：見・聞・知」のシラバスを確認してください。

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### (関連URL)

<http://www.kuasucpier.kyoto-u.ac.jp/>(京都大学アジア研究教育ユニット(KUASU))

### 【授業外学修(予習・復習)等】

インドネシアに関する文献を読むこと。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目75

科目ナンバリング		U-LET50 19822 LJ31									
授業科目名 <英訳>		戦争と植民地の歴史認識 Asian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲 文学研究科 教授 高嶋 航			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		戦争と植民地をめぐる歴史認識問題									
【授業の概要・目的】											
東アジアの日、中、韓・朝間での「歴史認識問題」を中心とし、そこで焦点となっている慰安婦問題など過去の歴史についてより正確な事実を学ぶことを主としつつも、これら三国の間での歴史認識の差異を多面的に考察するとともに、より広く現代世界における「歴史認識問題」とくに過去の戦争や植民地支配の記憶をめぐる問題について考える手引きとなる講義をオムニバス形式で提供します。											
【到達目標】											
いわゆる「歴史認識」とはということかを理解したうえで、歴史学的に正確な事実を把握する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>文学研究科，人文科学研究所，人間・環境学研究科の教員を中心に，現在日本，中国，韓国，北朝鮮などの東北アジア諸国の間で国際的な問題となっている，過去の戦争と植民地支配にかかわる「歴史認識問題」について講義します。また，東北アジア以外の地域における「歴史認識問題」についても取扱います。</p> <p>講義担当者は以下のとおりです。日程については後日掲示します。なお、各講師の講義テーマについては、変更される可能性があります。</p> <p>小山 哲(文学研究科)：収容所の世紀の記憶の語り方 ポーランド人によるソ連強制収容所体験記を読む</p> <p>高嶋 航(文学研究科)：「慰安婦」と中国</p> <p>塩出浩之(文学研究科)：琉球/沖縄をめぐる歴史認識</p> <p>谷川 穰(文学研究科)：靖国神社について</p> <p>中村唯史(文学研究科)：ソ連「民族詩人」の戦争と民族の表象について：アヴァル語詩人ガムザトフの場合</p> <p>吉井秀夫(文学研究科)：朝鮮総督府古蹟調査事業の評価をめぐる</p> <p>太田出(人間・環境学研究科)：山西残留問題と「蟻の兵隊」 城野宏と笠実を事例として</p> <p>岡 真理(人間・環境学研究科)：日本の歴史的鏡像としてのパレスチナ/イスラエル</p> <p>小野寺史郎(人間・環境学研究科)：近代中国における戦争/平和をめぐる歴史認識</p> <p>細見和之(人間・環境学研究科)：丹波篠山から考える、在日コリアンの足跡</p> <p>石川禎浩(人文科学研究所)：日中国交回復時(1972年)の歴史認識</p> <p>小関隆(人文科学研究所)：中立国の第二次世界大戦経験：アイルランドを中心に</p> <p>直野章子(人文科学研究所)：戦争被害受忍論からみる戦争責任論</p> <p>藤原辰史(人文科学研究所)：帝国日本の品種改良 種子と権力について考える</p> <p>フィードバック</p>											
----- 戦争と植民地の歴史認識(2)へ続く -----											



## 戦争と植民地の歴史認識(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（50％）とレポート（50％）により総合的に評価します。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

関連する資料を講義担当者が指定した場合、予習しての出席、あるいは事後の自学をおこなっていることを前提に授業をすすめる。

### （その他（オフィスアワー等））

専門知識が無くともわかりやすい講義を心がけますので、学部や専修の枠にとらわれずに受講してください。

昨年度後期の「戦争と植民地をめぐる歴史認識問題」とかなりの講義が類似の内容なので、重複履修はできません。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目76

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		Introduction-Focus I Seminar (KBR) A Introduction-Focus I Seminar (KBR) A				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 VASUDEVA, Somdev			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目											
【授業の概要・目的】											
This course is designed as a general introduction to the theory and practice of Indian aesthetics. It provides two things: 1) a historiographic survey of the most influential authors, works, and theories; and 2) a narrative account of the major debates and disputes that led to specific evolutions of doctrine and practice.											
【到達目標】											
Students will be introduced to different styles of scholarship and different methods of analysis current in South Asian studies. The aim is to familiarise students with topics of ongoing debate and to provide them with tools to meaningfully engage with newly emerging literature.											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1 What is our goal? Introduction to the sources and languages.</p> <p>Week 2 The challenge of South Asian polyglossia, heteroglossia and hyperglossia. What is the point of historiography? How can we periodize and localize South Asia?</p> <p>Week 3 Bharata 's Natyasastra, The Foundational Text, Theatre, Dance, Music, Poetry and Other Arts</p> <p>Week 4 Early Development of the Rasa Theory</p> <p>Week 5 The Early Rhetoricians: Bhamaha and Dandin</p> <p>Week 6 Competing Categories I: Vamana and his Virtues; Defects; Textures; Styles</p> <p>Week 7 Competing Categories II: Rudrata and the Systematisation of Ornaments of Sound, Sense, and Both</p> <p>Week 8 Competing Categories III: Anandavardhana and the New Paradigm: Denotation, Implication, Suggestion, Sentiment</p> <p>Week 9 The Synthesizers: Bhoja and Mammata</p> <p>Week 10 Ruyyaka and the Epistemology of Aesthetics</p> <p>Week 11 Sobhakara's Modal Aesthetics</p> <p>Week 12 Aesthetics as Theology: Visvanatha, Simhabhupala and the Bhakti Movements</p> <p>Week 13 Aesthetics and the New Style of Philosophy: Appayadiksita and Jagannatha</p> <p>Week 14 The Unexpected Return of Figurative Poetry</p> <p>Week 15 Concluding Summary</p>											
【履修要件】											
Regular reading of assigned work and participation in the group discussions.											
Introduction-Focus I Seminar (KBR) A (2)へ続く											

## Introduction-Focus I Seminar (KBR) A (2)

### [成績評価の方法・観点]

In class, discussion and contextualization of the assigned readings (40%). One response paper to the discussions of the readings (30%). Homework (30%).

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)

Introduced during class

### [授業外学修(予習・復習)等]

The participants are expected to attend every class. The weekly readings of the short sections should take about one hour of preparation for each class.

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目77

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		Introduction-Focus I Seminar (SEG) A Introduction-Focus I Seminar (SEG) A				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Fieldwork and Qualitative Research of Japanese Society									
【授業の概要・目的】											
<p>This class will cover social research methods, particularly qualitative research. In view of the relaxed restrictions on movement under COVID-19, we are also planning to conduct fieldwork.</p> <p>Social research is a process and method of recognizing and understanding social phenomena by collecting data from the real world through observation, interviews, questionnaires, etc., and then by analyzing, interpreting, and integrating the obtained data. Through social research, we become aware of why certain phenomena occur, the relationship between structure and agency, the gap between institutions and reality, how people think and why they think the way they do, and finally, we believe that researchers approach social reality through research. Although there are many books on social research methods, this class will focus primarily on how to think about methodology rather than discussing methodology per se as a technical issue. In addition, since this class is mainly for the Joint Degree Master of Arts Program in Transcultural Studies, fieldwork in Kyoto City will be conducted in addition to reviewing previous academic works on Japanese social institutions.</p> <p>About Japanese Social Institutions and Fieldwork The main topics will be multiculturalism and Buraku (outcast community). The fieldwork will take place in Higashikujo in Kyoto City, where Korean residents, newcomers to Japan, and other foreigners live. Outcast communities have been historically formed and are scattered throughout Kyoto City. Although they have already disappeared institutionally, the discrimination itself remains today and is also considered important as a historical lesson. In this class, we will continue to learn about the historical background of the Outcast community and learn about the Outcast community today through visits to archives and other facilities.</p>											
【到達目標】											
To be able to conceptualize society through primary data gathering in Kyoto. This class requires field research within Kyoto to conceptualize Kyoto itself so that students can grasp Kyoto by collecting data and interpreting what is going on through field visit.											
【授業計画と内容】											
<p>The organization of course is as follows.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. introduction</li> <li>2. qualitative research (1)</li> <li>3. qualitative research (2)</li> <li>4. qualitative research (3)</li> <li>5. history and society (outcast community field visit)</li> <li>6. field visit to community</li> <li>7. diversity in Kyoto (field visit to migrant community center)</li> <li>8. listening and writing anthropology</li> </ol>											
----- Introduction-Focus I Seminar (SEG) A (2)へ続く -----											

## Introduction-Focus I Seminar (SEG) A (2)

9. education in Japan (field visit to public schools)
  10. Japan as welfare society (field visit to welfare organization)
  11. Pandemic and Migration
  12. Students presentation (1)
  13. Students presentation (2)
  14. Students presentation (3)
  15. conclusion / feedback
- schedule may change due to scheduling.

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

reflection papers(50%) and term paper(50%)

### 【教科書】

Corrigall-Brown, Catherine, 2020, *Imagining Sociology: An Introduction with Readings*, 2nd ed., Ontario: Oxford University Press Canada.

Marvasti, Amir, B., 2004, *Qualitative Research in Sociology*, London: Sage Publications.

Mirfakhraie, Amir, 2019, *A Critical introduction to Sociology: Modernity, Colonialism, Nation-Building, Post-Modernity*, Dubuque: Kendall Hunt Publishing Company.

Scheper-Hughes, Nancy, 1995, "The Primacy of the Ethical: Propositions for a Militant Anthropology," *Current Anthropology*, 36(3): 409-440.

Scheper-Hughes, Nancy, 2009, "The Ethics of Engaged Ethnography: Applying a militant Anthropology in Organs-Trafficking Research," *Anthropology News*: 13-14.

Francis, Nyamnjoh, B., 2015, "Beyond an evangelising public anthropology: science, theory and commitment," *Journal of Contemporary African Studies*, 33 (1): 48- 63.

### 【参考書等】

(参考書)

### 【授業外学修（予習・復習）等】

This course is also available for those who plan to write a paper without using qualitative research methods.

### （その他（オフィスアワー等））

Please make an appointment through the email below.

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

(@) indicates @

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目78

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		Introduction-Focus I Seminar (VMC) A Introduction-Focus I Seminar (VMC) A				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 Bjorn-Ole Kamm			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Japanese Contemporary Popular Culture: Media Practices in a Global Context									
[授業の概要・目的]											
<p>*****</p> <p>IMPORTANT: Depending on the pandemic situation, this class will be offered in an online or hybrid format. Please check “ Class support ” or PandA for detailed information.            注意：パンデミック状況により、本科目はオンライン・ハイブリッド形式で提供される予定です。詳しくは「授業サポート」またはPandAをご確認ください。</p> <p>*****</p> <p>Japanese popular media practices play not only in Japan a significant role in the everyday lives of many people. The course investigates various elements of this popular and consumer culture, such as manga, anime, or games, from a transcultural perspective. This practice-oriented and interactive seminar focuses on theoretical concepts and analytical techniques practical to engage transculturality in the cross-disciplinary research fields of visual, material, and media culture.</p> <p>Research into (sub-/pop-) cultures, for example, fan studies, often focuses either on the content or on the communities of fandom, at times essentializing involved persons or drawing borders around highly interconnected and dynamic things. However, cultural practices are performative, meaning that they exist through "doing," through recreating, tracing the network of involved human and non-human elements.</p> <p>Borrowing from Wittgenstein, Foucault, and many others, the course revisits key readings for a transcultural approach dealing with visual practices, such as cosplay and media content, for example, cultural representations of nationality or gender. Questions of production, reception, and appropriation by users in and outside Japan form the second point of departure. The theoretical input forms the basis for practical exercises in applying these methodologies to concrete cases.</p> <p>The course primarily addresses JDTS and MATS students of the VMC focus in their first semester but also welcomes students in their second year who are about to define their MA thesis topic. The course requires students to actively participate, do regular written homework and occasionally work in teams. It does not include a written term paper (see ECTS requirements below!), but several written short pieces and a project report instead.</p> <p>Study Focus: Visual, Media and Material Culture.            Modules: Introduction to Transcultural Studies.</p>											
[到達目標]											
<p>The course seeks to establish an understanding of theories of transculturality, entertainment, and user agency and various angles of research methodology useful for the study of visual and media practices. Building on a Wittgensteinian approach to cultural practices, students will acquire knowledge and skills in how to develop a matching research design for studies sensitive to the role of actors and materials alike.</p> <p>Students will apply key methodologies to contemporary cases studies, such as cyber-ethnography of fans, qualitative visual and textual analysis of manga, or the analysis of discourses surrounding the physical embodiment of fictional characters. The course aims to assist students in taking the leap to a position of knowledge production and thus focuses on practical exercises and training in academic presentation skills.</p>											
----- Introduction-Focus I Seminar (VMC) A (2)へ続く -----											

## Introduction-Focus I Seminar (VMC) A (2)

---

### 【授業計画と内容】

The following general structure will guide the schedule of course sessions. A detailed plan for each class will be determined depending on the number of and the feedback from the participants, and will be announced in class.

- (1) The first sessions introduce students to actor, network, and practice theories and appropriate methods for studying popular and sub-cultural practices. [Weeks 1-5]
- (2) The class decides on a shared question for project investigations, a specific object, and appropriate methods. As networks of humans and artifacts (media), popular culture often necessitates analyses of contents as well as "users." Accordingly, and if the number of participants permits, the class is divided into different project groups (e.g., text analysis, ethnography, cyber-ethnography), working on the same question from different angles (triangulation). [Weeks 6-10]
- (3) Employing an e-learning environment (forums, journals), the groups plan and execute the projects under the instructor's supervision. Finally, the groups present results and discuss problems and achievements according to the overall study question. [Weeks 11-15]

The lectures, individual preparations (homework/feedback), and group projects will figure 1/3 of the course each.

### 【履修要件】

3rd year or above (3回生以降).

### 【成績評価の方法・観点】

All students: Homework (20%), project work, presentation and report (50%), feedback (10%), active participation (20%). For a full seminar (8 ECTS): A research paper (counting 30% of the overall grade).

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)

The course materials as well as lecture slides will be made available via the course webpage. The course takes some guiding ideas from "Inside-out Japan? Popular culture and globalization in the context of Japan," by Matthew Allen & Rumi Sakamoto. 2006. Popular Culture, Globalization and Japan. London & New York: Routledge. pp.1-12. Reading their introduction/book is not mandatory but the chapter may be obtained prior to the course by contacting the instructor.

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Participants need to prepare one reading before each in-class session and are asked to write short comprehension essays afterwards. During project phases, participants will conduct group work and submit meeting protocols afterwards. Preparation and review require at least one hour.

Introduction-Focus I Seminar (VMC) A (3)

---

( その他 ( オフィスアワー等 ) )

Consultation (office hours) by appointment. The course PandA webpage will be available to download the course material.

Please contact the instructor Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



学部共通科目79

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		Introduction-Focus I Seminar (SEG) B Introduction-Focus I Seminar (SEG) B				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Issues in Environmental History: Nature, Knowledge, Place, and Surroundings									
【授業の概要・目的】											
<p>When we conjure up "the environment" in our mind 's eye, what do we see? Perhaps we envision mountains, trees, streams, and waves--scenes where humans don ' t appear or make only transient visits. Some of us could think about holistic linkages among all living creatures and their surroundings. Others among us may imagine how human societies have exploited and polluted relationships to non-human spaces. We might also "see" worldwide phenomena that are less obviously visible from a single vantage point, most notably climate change.</p> <p>This course invites us to reflect upon the multiplicity of environments and environmental thinking around the world, at a moment defined by global-scale environmental crises and human impacts. Some questions are: How have ways of understanding the environment, sustainability, and nature emerged, interacted, and changed? Can we study the world through approaches that go beyond human perspectives alone?</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>• The course will introduce you to the multi-stranded field of environmental history, which is animated by desires both to understand the past on its own terms and to bring the past to bear on present-day problems.</li> <li>• The course will press us to think about how environmental ideas structure people ' s everyday lives and inform their political priorities. We will consider these issues by looking closely at recent English-language research related to the Japanese archipelago and its environs. We will explore how concepts of nature, human artifice, resources, pollution, science, conservation, war, and food have functioned in Japan. By the same token, we will survey "more-than-human" approaches to understanding environments. We are lucky in this course to have a rich space in which to pursue these possibilities on the ground: Kyoto and its surroundings.</li> <li>• By the end of the course, you will be prepared to conduct research related to environmental history from new points of view.</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1. Introduction</p> <p>I. Approaches to Environmental History Week 2. The Trouble with Wilderness Week 3. Envirotech Week 4. Climate History</p> <p>II. Narrating Environmental Transformation Week 5. Visualizing and Managing Land and Sea Week 6. Changes in the Land Week 7. Nature and Empire</p>											
----- Introduction-Focus I Seminar (SEG) B(2)へ続く -----											

## Introduction-Focus I Seminar (SEG) B(2)

---

Week 8. War

Week 9. The Archives of Environmental History

III. Environmentalisms

Week 10. Knowing Harm

Week 11. Conceptual Interlude 1

Week 12. Disaster

Week 13. Conceptual Interlude 2

Week 14. Environmentalisms

Week 15. Presentations and Feedback

(Please note that the precise topics and order are both subject to change.)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Attendance, participation, and presentations in class (25%)

Short weekly reading responses (25%)

Final paper (50%)

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

### 【教科書】

At least one copy of the books should be available in the library and through the university's online subscriptions, although in some cases (particularly during the weeks where you are responsible for presenting) it may be advisable to purchase a new or used copy for yourself.

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

- Students are required to read through assigned readings and prepared for the discussions and presentations each week.
- Students are expected to actively participate in preparations for the final project.

### (その他(オフィスアワー等))

- Office hours will be held once a week at a fixed time (to be determined) and by appointment.

Introduction-Focus I Seminar (SEG) B(3)

---

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目80

科目ナンバリング		U-LET36 3JK07 SE36									
授業科目名 <英訳>		Skills for Transcultural Studies I-English Skills for Transcultural Studies I-English				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Advanced skills for humanities research in English: reading, writing, and discussion									
【授業の概要・目的】											
<p>The goal of this course is to familiarize humanities-focused students with different genres of academic texts and to develop their abilities to express themselves to international audiences, both in writing and in speech. Simply put, by the end of the course students should be better able to participate in English-language research activities.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will develop their analytical skills and their understanding of how to organize research findings effectively. Intensive reading and writing practice will acquaint them with the vocabulary, grammatical structures, and modes of expression characteristic to academic papers. Presentations and discussions will improve their ability to express opinions about complex academic topics in English.</p> <p>Study Focus: all. Modules: Skills in Transcultural Studies I.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The primary assignments will be two 5-7 page essays. For the first essay, students will be making a persuasive argument. For the second essay, students will be doing a close analysis of a text (or texts), chosen in consultation with the instructor, on a topic related to their research interests. There will be several steps before submitting each essay. First, in the leadup to each essay students will complete three shorter writing exercises. Second, students will read one (or more) essays by their classmates, then provide written and oral feedback.</p> <p>The final project, preparations for which we will discuss throughout the course, is a 10- to 15-minute presentation on a topic related to students' research interests. Essay 2 will provide material around which students can structure their presentations.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Reading and Summarizing</li> <li>3. Sentences and Paragraphs</li> <li>4. The Structure of Arguments</li> <li>5. Using Sources and Plagiarism</li> <li>6. Coherence, Cohesion, and Clarity</li> <li>7. Usage Rules and Style Suggestions</li> <li>8. Peer Review Session 1</li> <li>9. Academic Genres and Conventions</li> <li>10. Modes of Presentation</li> <li>11. Introductions and Conclusions</li> <li>12. Strategies for Editing and Revision</li> </ol>											
----- Skills for Transcultural Studies I-English(2)へ続く -----											

## Skills for Transcultural Studies I-English(2)

13. Peer Review Session 2
14. Final Presentations
15. Discussing the Final Papers

Please note that the above content of the course is subject to change. A finalized plan will be determined based on student numbers and feedback.

### 【履修要件】

Evidence of advanced English skills (a TOEIC score of 700 or higher).

### 【成績評価の方法・観点】

Class Participation: 15%  
Exercises: 20%  
Essay 1: 20%  
Essay 2: 25%  
Final Presentation: 20%

### 【教科書】

使用しない  
Reading materials will be provided as PDF files.

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### (関連URL)

<https://www.cats.bun.kyoto-u.ac.jp/>

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Students will have to read the assigned papers, book chapters, etc, before they are scheduled for class discussion. They are expected to prepare their presentations and essays on their own; assistance with the selection of topics will be offered when necessary.

### (その他(オフィスアワー等))

Office hours: by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目81

科目ナンバリング		U-LET36 3JK11 LE36									
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar(VMC) Foundations I-Seminar(VMC)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 KITSNIK Lauri			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Transcultural Dialogues in Modern Japanese Architecture									
【授業の概要・目的】											
<p>What is modern Japanese architecture and when did it begin? How were ideas coming from abroad domesticated and further expanded? To what extent is modern architecture in Japan informed by traditional building styles and materials? How has the relationship between architecture and nature been understood and elaborated? What characterises the works of several Pritzker Prize-winning Japanese architects? These are some of the questions this course hopes to address by looking at the dialogues and developments in modern architecture as they took place in Japan during the past century. A number of research trips taken around Kyoto to observe key buildings form an integral part of the learning process.</p>											
【到達目標】											
<p>The students will 1) gain knowledge on the historical development of modern Japanese architecture and its major architects; 2) learn to relate the above developments to transcultural dialogues taking place within a global context; 3) become familiar with approaches for studying architecture with an opportunity to apply these on their own future research projects; 4) acquire skills for historical and comparative analysis of architecture; 5) extend their abilities to summarise past scholarship in oral presentation, and communicate their own original arguments in classroom discussion and writing.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Seligmann, Introduction</li> <li>3. Research visit: around Kyoto University</li> <li>4. Seligmann, Chapter 1: Incorporating International Influences</li> <li>5. Research visit: Takaragaike and Kitayama</li> <li>6. Seligmann, Chapter 2: Drawing from Domestic Developments</li> <li>7. Research visit: Higashiyama</li> <li>8. Seligmann, Chapter 3: Constructing Relations between Building and Nature</li> <li>9. Research visit: Downtown Kyoto</li> <li>10. Seligmann, Chapter 4: Developing Dialogues with Materials</li> <li>11. Research visit: Kyoto Station and Omi-hachiman</li> <li>12. Seligmann, Chapter 5: Abstraction and Reduction, or Listening to the Sound of One Hand Clapping and Chapter 6: Afterword: Expanding Dialogues and Developments</li> <li>13. Research visit: Okazaki</li> <li>14. Conclusion</li> </ol>											
----- Foundations I-Seminar(VMC)(2)へ続く -----											

## Foundations I-Seminar(VMC)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Individual presentation (40%), participation in classroom discussion (40%), final essay (20%)

### 【教科書】

Ari Seligmann 『Japanese Modern Architecture 1920-2015: Developments and Dialogues』 ( The Crowood Press, 2016 )

### 【参考書等】

( 参考書 )

### 【授業外学修 ( 予習・復習 ) 等】

Read the assigned textbook during the course

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目82

科目ナンバリング		U-LET36 3JK15 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 海田 大輔			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Contemporary Japanese Philosophy (Post-World War II Japanese Philosophy)									
【授業の概要・目的】											
<p>*****</p> <p>IMPORTANT: At least during October, this class will be offered in an online or hybrid format. Please check "Class support" or PandA for detailed information.            注意：少なくとも10月中に本科目はオンライン・ハイブリッド形式で提供される予定です。詳しくは「授業サポート」またはPandAをご確認ください。</p> <p>*****</p> <p>This course explores various aspects of contemporary Japanese philosophy (Post-World War II Japanese philosophy) by reading Japanese primary sources in English translation, and discussing them in English. Participants will read and discuss papers by:            Yuasa Yasuo, Ueda Shizuteru, Omori Shozo, Nakamura Yujiro, Kimura Bin, and Sakabe Megumi.</p>											
【到達目標】											
By the end of the term students will gain some basic understanding of contemporary philosophy in Japan.											
【授業計画と内容】											
1 Introduction 2-3 Yuasa Yasuo "Toward an East-West Dialogue" 4-5 Ueda Shizuteru "Horizon and the Other Side of the Horizon" 6-8 Omori Shozo "The Realism of 'Form qua Emptiness'" 9-10 Nakamura Yujiro "Common Sense and Place" 11-12 Kimura Bin "Time as the Between" 13-14 Sakabe Megumi "Appearance and Copula" 15 Feedback											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
At the end of the term students will be asked to write a paper. Students' grades will be weighed according to the following scheme: Attendance 20% Active participation in discussion 20% Term paper 60%											
----- Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)へ続く -----											



Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)

**[教科書]**

使用しない

The reading materials will be uploaded on KULASIS.

**[参考書等]**

(参考書)

授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

Students will be asked to read the materials for the class in advance and come prepared to discuss them.  
Every student will be expected to raise at least one point that he or she thinks is worth discussing in a class.

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目83

科目ナンバリング		U-LET36 3JK15 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Heidi in Japan									
【授業の概要・目的】											
<p>In this class, we will discuss the story of “ Heidi ” (1880/81) by Johanna Spyri from the perspective of comparative literature. It is one of the main tasks of comparative literature to think about the reception of one literary work in various countries and regions, because it is important to know what has remained the same and what has changed in the course of translation and adaptation of the original work. Usually, these changes do not come from pure chance but from the essential differences of cultures. So, when we think about the transcultural transformations of a literary work, we at the same time (re-)think about the culture in which we are living. In this sense, the story of “ Heidi ” is a very productive example because it has a lot to tell us about our cultures.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will on the one hand gain basic knowledge about the reception of “ Heidi ” in Japan, and on the other hand understand the importance of interaction between cultures which sometimes borders on cultural appropriation.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1) Introduction  (2) Biographical facts about Johanna Spyri  (3) Spyri ’ s “ Heidi ’ s Years of Learning and Wandering ” (1880) in its cultural contexts  (4) Spyri ’ s “ Heidi Can Use What She Learned ” (1881) in its cultural contexts  (5) Excursus 1: Charles Tritten ’ s French “ Heidi ” -sequels  (6) The first Japanese translation by Yaeko Nogami (1920) and other early translations  (7) “ Heidi ” in girls ’ magazines in Pre-War Japan  (8) “ Heidi ” in children ’ s magazines in Post-War Japan  (9) The animation series “ Heidi, Girl of the Alps ” by Isao Takahata (1974)  (10) The reception of Takahata ’ s animation in Europe  (11) Excursus 2: “ Heidi ” -movies in the world  (12-14) Presentations by students  (15) Conclusion</p>											
【履修要件】											
<p>Completion of modules “ Introduction to Transcultural Studies, ” “ Skills for Transcultural Studies, ” “ Focus 1 ” and “ Focus 2 ”</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Homework (30%), participation (30%), final report (40%).</p> <p>To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS).</p>											
----- Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)へ続く -----											

**Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)**

Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://www.cats.bun.kyoto-u.ac.jp/>

**[授業外学修(予習・復習)等]**

The participants are expected to read texts uploaded in the CATS websites at home before they attend each class.

(その他(オフィスアワー等))

\*Please visit KULASIS to find out about office hours.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目84

科目ナンバリング		U-LET36 3JK17 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Welfare Regime and Cross-Border Migration									
【授業の概要・目的】											
<p>This course will discuss how welfare regimes intertwine with migration regimes in the process of rapid economic development and demographic change in Asian countries. One of the features of the Asian economic miracle was not only utilizing the demographic dividend and high educational attainment of its labor force, but also accepting migrants, domestic workers in particular, to facilitate the participation of local women in the labor market. From the social policy side, liberal familism in Asian countries justified maintenance of “ family value ” and the commercialization and externalization of reproductive work by recruiting foreign domestic worker as an extra family member. Sometimes this familism triggered cross border marriage for the formation of family welfare and this became the foundation of multiculturalism in some societies. In the process of demographic ageing, some Asian countries also borrowed institutional frameworks of welfare states in Europe such as Korea, Japan, and Taiwan. Therefore, divergence of welfare regime of Asian countries is observed.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will receive basic instruction on welfare policy, migration policy and related policies in Asian countries.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>A detailed plan for each class may be changed depending on the participants. The contents of the course include the following classes.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Economic development in Asia</li> <li>2. Demographic change</li> <li>3. Diversity of political system</li> <li>4. Development and migration</li> <li>5. Feminization of labor and migration</li> <li>6. Ageing and migration</li> <li>7. Population policy and marriage migration</li> <li>8. Social integration/multicultural policy</li> <li>9. Logic of human rights and migration</li> <li>10. Policy of sending countries</li> <li>11. International labor market formation</li> <li>12. International collaboration and mutual benefit</li> <li>13. Welfare Regime / Familism</li> <li>14. Pandemic and migration</li> <li>15. Conclusion</li> </ol>											
----- Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く -----											

**Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)**

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

reflection papers(50%) and term paper(50%).

**【教科書】**

授業中に指示する

Papers and related documents will be distributed in class.

**【参考書等】**

( 参考書 )

Goodheart, David, 2017, The Road to Somewhere: The Populist Revolt and the Future of Politics, London: Hurst & Co.

Hundt, David and Uttam Jitendra, 2017, Varieties of Capitalism in Asia: Beyond the Developmental State, London: Mcmillan Publishers.

Kim, Mason M.S., 2015, Comparative Welfare Capitalism in East Asia: Productivist Models of Social Policy, London: Macmillan Publishers.

Lan, Pei-Cha, 2006, Global Cinderellas: Migrant Domestic workers and New Rich Employers in Taiwan, Durham and London: Duke University Press.

Parrenas, Rhacel, S., 2001, Servants of Globalization: Women, Migration, and Domestic Work, Stanford: Stanford University Press.

Steger, Manfred B., 2014, " Approaches to the study of globalization, " Steger Manfred, Paul Battersby and Joseph Siracusa, eds., The SAGE Handbook of Globalization, London: Sage Publications Inc., 7-22.

**【授業外学修（予習・復習）等】**

Participants may be required to read papers related to the class

**（その他（オフィスアワー等））**

Please make an appointment through the email below.

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

(@) indicates @.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目85

科目ナンバリング		U-LET36 3JK17 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 佐野 真由子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Japan's early diplomacy during the last decade of the Tokugawa Shogunate									
【授業の概要・目的】											
<p>This course aims to explore Japanese diplomacy during the last decade of the Tokugawa Shogunate, through in-depth readings of documents (such as memoirs, diaries, and diplomatic correspondences) written by people who worked on the ground during that time.</p> <p>In the course of 2022, we will encounter with the British diplomats Ernest Mason Satow (1843-1929) and Algernon Bertram Mitford (1837-1916), two of the more famous figures in the early diplomatic history of Japan, known to have played important roles in the backstage of the Meiji Restoration. They were both young at the time and good colleagues to each other.</p> <p>Large part of the course will be dedicated to looking into their own writings, in combination with some other sources when necessary. Students are not only expected to learn the Japanese history of the time, but to critically discuss the two diplomats' conducts in a culture different from their own, particularly through comparing their reactions.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will have apprehended the transcultural nature of Japan's path in the late 19th century. It is also aimed to familiarize the students with historical studies through carefully following individuals' experiences.</p> <p>Furthermore, it is an important objective of the course to critically discuss people's conducts and development of their work in the forefront of facing a different culture.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1: Introduction</p> <p>Week 2-13: Discussions on experiences of Satow and Mitford mainly through their representative works "A Diplomat in Japan" (Satow, 1921) and "Memories" (Mitford, 1915), in combination with some other sources when necessary. The major aims of the discussions are as mentioned in the above fields. Classes will consist of: - Students' presentations on assigned readings (mainly from the above-mentioned books); - Discussions and further analyses in class; and - Introduction to additional sources and reading materials.</p> <p>Note: The schedule and more concrete contents of each week will be considered most appropriately depending the number of participants, their knowledge of the Japanese language as well as history, and other related conditions.</p> <p>Week 14-15: Final presentations and discussions (feedback) on the students' plans for their final papers.</p>											
----- Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く -----											

## Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)

### 【履修要件】

Each student will be assigned in-depth readings and related research about a particular part of Satow's and Mitford's writings and will give at least two oral presentations (mid-term and final) during the course. All students are expected to have read the part to be covered in each class, if not personally assigned, and to actively participate in discussions.

### 【成績評価の方法・観点】

Evaluation criteria:

- 1) Oral presentations (each with an outline of several pages to be shared with all participants): 40%
- 2) Term paper (3,000-4,000 words): 60%

### 【教科書】

Ernest Satow 『A diplomat in Japan』 ( Seeley, Service; 1921 ) ( Students may use the e-book version (Project Gutenberg , 2013) via KULINE. )

Hugh Cortazzi (ed.) 『Mitford's Japan: memories and recollections, 1866-1906』 ( Japan Library; 2002 ) ( The pages from the text book to be used in the course will be provided in class. )

### 【参考書等】

( 参考書 )  
授業中に紹介する

### 【授業外学修 ( 予習・復習 ) 等】

See [Class requirement].

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

Consultation (office hours) by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目86

科目ナンバリング		U-LET36 3JK17 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 河合 淳子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		SocSci Research Methods in Education									
【授業の概要・目的】											
<p>This course will examine various approaches and topics in the study of Japanese education, culture and society through reading sociological works on Japan. Education is a complex subject partly because everyone, having been educated, has a personal view about what education should be and should not be. However, generalizing from one's own experience can be dangerous. This is one of the reasons why sociological perspectives become important in the field of education.</p> <p>Students will also learn the nature, purposes and methods of social science research in the field of education and each students will experience a small-scale research project to explore practical aspects of what students have learnt in class. Students will have opportunities to take a close look at what is happening and what has happened in Japanese education.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>• To understand sociological perspectives in education and the importance of social science research in education</li> <li>• To gain knowledge of various research methods and to experience one of them</li> <li>• To develop interests to participate in cooperative projects with members from various cultural background.</li> <li>• To enable students to sharpen their skills in critical analysis through structured reading, discussion, written assignments and small scale research project.</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>1. Sociological perspectives on education (Week 1) What do we know about education of our own? Do we really know about it?</p> <p>2. The nature and purposes of social research in the field of education (Week 2-3)</p> <p>3. Investigation on Japanese education (Week 4-7) 3-1: Condition of language education in Japan - Why do reforms return again and again? 3-2: Transition from schools to work - Introduction of various approaches- Functionalist approach, Conflict theorist approach, and Micro-interactionism 3-3: Futoko (Truancy, Non-attendance) - Discourse analysis of educational problems 3-4: Life of adolescences - Roles of Japanese school clubs, functions and culture of cram schools, teacherstudent relationship, relationship between schools and families.</p> <p>4. Research Planning: What are your research questions? (Week 8)</p> <p>5. Lecture: Introduction to Research Methods (Week 9-12) 5-1: Modes of Inquiry- Quantitative Modes of Inquiry and Qualitative Modes of Inquiry 5-2: Sampling Techniques</p>											
----- Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く -----											



## Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)

5-3: Data Collection Techniques (1) Questionnaire (2) Observation (3) Interview

5-4: Interpretations of Data

6. Ethical issue in social research (Week 13)

7. Presentation on your project (Week 14)

Feedback

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Participation to the group project and class activities (30%), short reports(30%), and Final report(40%). 授業への参加 ( 30% )、課題レポート ( 30% )、期末レポート ( 40% ) で評価する。

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

Grading for JDTS/MATS full seminar students.

The grading policy for JDTS/MATS full seminar students are same as above. Details are as follows.

- Short reports 1 and 2 (30%)
- Report 3 (40%)
- Class Participation (30%)

Grading for JDTS/MATS reduced seminar students

- Short reports 1 and 2 (40%)
- Final presentation handout (20%)
- Class Participation (40%)

Class participation includes i) Presentations (one short introductory presentation (5min.) of your topic and a final presentation), ii)Introducing assigned readings,and iii)Participation in discussions and activities in regular classes.

### 【教科書】

授業中に指示する

プリント配布

Handouts will be distributed.

### 【参考書等】

( 参考書 )

Fukuzawa, Rebecca E. and LeTendre, Gerald. 『Intense Years: How Japanese Adolescents Balance School, Family, and Friends』 ( Taylor and Francis,2001 )

Rohlen, Thomas and LeTendre, Gerald (eds.) 『Teaching and Learning in Japan』 ( Cambridge University

### Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(3)

Press, 1998 )

McMillan, James H. and Schumacher, Sally 『Research in Education; A Conceptual Introduction, 5th edition』 ( Addison Wesley Longman, Inc., 2001 )

Weiss, Robert S. 『Leaning from Strangers: The Art and Method of Qualitative Interview Studies』 ( The Free Press, 1994 )

#### [授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]

・ Students are required to read through assigned readings and prepared for the discussions in each week. ・ Students are expected to actively participate in preparations for the small-scale group project.

#### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

・ Office hour by appointment ・ We will conduct a small-scale group (or individual) research project in the latter half of the course. Transportation fee, if necessary, should be covered by students. Enroll in Personal Accident Insurance for Students while Pursuing Education and Research.

講義後半には小グループまたは個人で簡単な実地調査に取り組む。旅費 ( 交通費 ) が必要な場合、原則として受講生の負担となります。学生教育研究災害傷害保険に各自加入しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目87

科目ナンバリング		U-LET36 3JK19 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture) Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 Mitsuyo Wada-Marciano			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4,5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Ecocinema: From Plastic Garbage to Art									
【授業の概要・目的】											
<p>The search for a sustainable life is a pressing issue in Japan, especially after the Fukushima disaster. However, those of us living in Japan are uncertain about where to start and how to proceed. This course will examine “ ecocinema, ” focusing specifically on films from the U.S., P.R.C. and Japan that tackle issues of nuclear power, agriculture, and sustainable life. By examining those issues in different regions, we will imagine how global sustainability might look and what roles our transcultural communities might play in the future.</p>											
【到達目標】											
<p>First, students will learn about a wide range of issues in present global ecology and a variety of documentary films categorized as “ ecocinema. ”</p> <p>Second, students will learn how to analyze those films. They will study, step-by-step, how to approach and analyze the medium of film.</p> <p>Third, in developing and writing their final essays, students will hone their ability to produce a persuasive paper. During our final two to three weeks, all students will present their final essay topics to the class.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The course will be offered in accordance with the following general structure. A detailed plan for each class will be determined depending on enrolment and feedback from the participants, and it will be announced in class. The reading materials for each week will be announced at the beginning of the course.</p> <p>[week 1-2] Introduction: What is Ecocinema? and Issues on Global Warming (Screening) An Inconvenient Truth (2006, dir. Davis Guggenheim, 1 h 36 min)</p> <p>(Reading Assignment) “ What is Ecocinema? A Case Study Analysis with Jim Henson ’ s Labyrinth, ” Toby Neilson. <a href="https://www.anthropocene-cinema.com/what-is-ecocinema-analysing-jim-hensons-labyrinth/">https://www.anthropocene-cinema.com/what-is-ecocinema-analysing-jim-hensons-labyrinth/</a></p> <p>(Suggested Assignments) “ More Truth, Even Less Convenient, ” David Guggenheim. <a href="http://deannelson.net/wp-content/uploads/2011/05/Risen-Davis-Guggenheim.pdf">http://deannelson.net/wp-content/uploads/2011/05/Risen-Davis-Guggenheim.pdf</a></p> <p>Tatiana Schlossberg, “ How Much Do You Know About Solving Global Warming? ” <a href="https://www.nytimes.com/interactive/2017/06/09/climate/drawdown-climate-solutions-quiz.html?rref=collection%2Fsectioncollection%2Fclimate&amp;action=click&amp;contentCollection=climate&amp;region=">https://www.nytimes.com/interactive/2017/06/09/climate/drawdown-climate-solutions-quiz.html?rref=collection%2Fsectioncollection%2Fclimate&amp;action=click&amp;contentCollection=climate&amp;region=</a></p>											
----- Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(2)へ続く -----											

## Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(2)

---

stream&module=stream\_unit&version=latest&contentPlacement=58&pgtype=sectionfront

[week 3-4] Planet or Plastic?

(Screening)

Plastic China (2016, dir. Jiuliang Wang, 1 h 22 min)

(Reading Assignments) 1. ( )

Beattie G., Sale L., McGuire L., “ An inconvenient truth? Can a film really affect psychological mood and our explicit attitudes toward climate change? ” *Semiotica*, 187, 105-125 (2011). #8211 Online.

Laura Parker. “ We Make It. We Depend on It. We ’ re Drowning in It. ” *National Geographic*, June 2018: 40-91.

“ China Stops Recycling Our Shit. ” (January 23, 2018).

<http://iquitplastics.com/blog/2018/1/23/china-bars-recycling-our-shit>

[week 5-6] Issues on Alternative Energy

(Screening)

Ashes to Honey (2010, dir. Hitomi Kamanaka, 2h 15 min)

(Reading Assignments) 2. ( )

Hideaki Fujiki, “ Problematizing Life: Documentary Films on the 3.11 Nuclear Catastrophe, ” in *Fukushima and the Arts: Negotiating Nuclear Disaster*, ed. Barbara Geilhorn and Kristina Iwata-Weickgenannt (London and New York: Routledge, 2017), 90-109.

Joel Neville Anderson, “ Cinema in Reconstruction: Japan ’ s Post 3.11 Documentary, ” in *Film on the Fault Line*, ed. Alan Wright (Bristol, UK/Chicago, USA: Intellect; 2015), 215-231.

[week 7-8] Issues on Fukushima

(Screening)

Nuclear Nation (2012, dir. Atsushi Funahashi, 1h 36 min)

(Reading Assignments) 3. ( )

Mick Broderick and Robert Jacobs, “ Fukushima and the Shifting Conventions of Documentary: From Broadcast to Social Media Netizenship, ” in *Post-1990 Documentary: Reconfiguring Independence*, ed. Camille Deprez and Judith Pernin (Edinburgh: Edinburgh University Press, 2015), Chapter 14.

Brandon Harris, “ After the Wave: Atsushi Funahashi on Nuclear Nation ” in <https://filmmakermagazine.com/82896-after-the-wave-atsushi-funahashi-on-nuclear-nation/#.XV9M1FBUuCQ> (published on Dec. 17, 2013, and accessed on August 2019).

Due date of Short Reaction Paper.

[week 9-10] Food Ecology and Animal Rights

(Screening)

Food, inc. (2008, dir. Robert Kenner, 1h 34 min)

A Story of a Butcher ’ s Shop (2013, dir. Aya Hanabusa, 1h 49 min) excerpt

## Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(3)

---

(Reading Assignments) 4. ( )

Laura Lindenfeld, “ Can Documentary Food Films Like Food Inc. Achieve their Premise? ” Environmental Communication Vol. 4, No. 3 (September 2010), 378-386.

Belinda Smaill, “ New Food Documentary: Animas. Identification, and the Citizen Consumer, ” Film Criticism Vol. 39, No. 2 (Winter 2014-15), 79-102.

[week 11-12] Ecology and Art

(Screening)

Waste Land (2010, dir. Lucy Walker, 1h 39 min)

(Reading Assignments)

No reading assignments for this week. Instead, we ’ ll discuss on various possibilities for “ ecocinema ” in class.

[week 13-14] Student Presentations on Final Essay

Student Presentations on Final Essay

-20 minutes maximum.

-use power point.

-if you are analyzing a film, which has not been screened in class, show some clips at least from the film during your presentation.

-distribute your one-page outline with hard copies to all students.

1. ( )

2. ( )

3. ( )

4. ( )

5. ( )

[week 15] Winding Down

### 【履修要件】

Number of participants not more than 10.

### 【成績評価の方法・観点】

Active Participation + Attendance (20%), Leading Discussion on Reading Materials (10%), Short Reaction Paper (20%), Presentation (10%), Final Paper (40%).

### 【教科書】

Not used. Reading materials will be retrieved digitally during the semester via email, or other ways.

Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(4)

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

The participants are expected to complete all reading materials before they come to our class.

**(その他(オフィスアワー等))**

Consultation (office hours) by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目88

科目ナンバリング		U-LET36 3JK19 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture) Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 Mitsuyo Wada-Marciano			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4,5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Transcultural Asian Cinemas & Transcultural Cinema Forum 2022									
【授業の概要・目的】											
<p>This course examines contemporary East Asian cinemas' transnational current at various levels of industry, genre, filmic style, and global commodification. Despite Hollywood cinema's historical dominance of the global cinema market, the ways in which cinema is disseminated have never been monolithic. Such cultural traffic has occurred through negotiations among locales, regions, and nations, across Asian countries, including Japan, Hong Kong, Taiwan, and Korea, and with Hollywood as well.</p> <p>This 2-month intensive course, cosponsored with Transcultural Cinema Forum, scrutinizes the dynamic between the global and the local by focusing on those East Asian cinemas' strategies towards globalization and regionalization. The course has been constructed in multiple sections, investigating transcultural aspects in cinema with specific topics, such as "Children of the World (1940): Jewish Filmmakers in Exile in Occupied Shanghai, 1939-1945," "When Currents Collide: Chinese Independent Cinema and Japan."</p> <p>This course is designed for all students who are interested in screen culture in Asia. Attending lectures, which will be held on Tuesdays in class, is mandatory in order to discuss both films and reading assignments during our class. Due to the Covid-19, guest speakers reside outside Japan might need to participate via zoom (the zoom information will be provided later).</p>											
【到達目標】											
<p>This class will give students the tools to map the current state of East Asian cinema and "transculturality" conformed among them, and to develop their original, compelling ideas on those films. All students will strengthen their ability to communicate clearly and make persuasive arguments orally and in writing. We will discuss various films from the PRC, Taiwan, South Korea, and Japan, and students will be assigned to see films outside a classroom due to the limitation of class hours.</p> <p>By the end of this course, students are expected to be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• draw on concepts from Film Studies to analyze a film's narrative and form, not just its content</li> <li>• expand knowledge of issues in Asian and transnational cinemas, and apply critical frameworks, film theories, and historiographical approaches</li> <li>• make original arguments and support them with evidence and a logical chain of reasoning</li> <li>• communicate their ideas clearly in writing, discussions, and oral presentations</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
Week 1-2 Introduction											
Week 3-4											
----- Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(2)へ続く -----											

## Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(2)

---

Guest Lecturer:

Filmmaker Kazuhiro Soda

Talk Title:

“ The Power of Observation: How and Why I Make ‘ Observational ’ Documentaries ”

Screening:

Peace (2010, dir. Kazuhiro Soda, 95 min.)

Reading Assignments:

TBA

Week 5-6:

Guest Lecturer:

Dr. Tamako Akiyama (Associate Professor of Chinese Studies at Department of Chinese, Kanagawa University)

Talk Title:

“ When Currents Collide: Chinese Independent Cinema and Japan ”

Screening:

TBA

Reading Assignments:

TBA

Week 7-8

Guest Lecturer:

Filmmaker Thomas Ash

Talk Title:

On Ushiku

Screening:

Ushiku (2021, dir. Thomas Ash, 87 min.)

The Ushiku deportation prison near Tokyo mainly holds people seeking refuge in Japan. Using a hidden camera, award-winning filmmaker Thomas Ash interviewed inmates there from late 2019. His film publicly accuses Japan ’ s uncompromising refugee policy through one of the country ’ s biggest human rights scandals. Ushiku has been making international headlines for years.

Reading Assignments:

#8226 Mark Schilling, “ Detained but not silent: Stories from inside Japan ’ s immigration Centers, ” The Japan Times (June 11, 2021).

<https://drive.google.com/file/d/1Jc9BzBsM2yDbtBdFUJYdAWdNDwwrbOHw/view>

#8226 Yukina Kin, “ Horrible ‘ hospitality ’ : Detainees talk about reality of Japan immigration facility in film, ” The Mainichi (July 2, 2021).



### Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(3)

---

<https://drive.google.com/file/d/1Y1NjjXHfEQFjll6MOr40N7HZf10DvviC/view>

#8226 Toshikuni Doi, “ Yamagata International Documentary Film Festival Review #6 Ushiku ” (October 15, 2021).

[https://drive.google.com/file/d/1PEGVxOjOSKmXFeDAQps45XdpXcz\\_7jmw/view](https://drive.google.com/file/d/1PEGVxOjOSKmXFeDAQps45XdpXcz_7jmw/view)

Week 9-10

Guest Lecturer:

Dr. Roland Domenig (Associate Professor, Department of Art Studies, Meiji Gakuin University)

Talk Title:

“ Children of the World (1940): Jewish Filmmakers in Exile in Occupied Shanghai, 1939-1945 ”

Screening:

Children of the World ( 『世界儿女』 , 1940, dirs. Louise & Jakob Fleck, 90 min.)

Reading Assignments:

TBA

Week 11-12

Guest Lecturer:

Filmmaker Kaori Oda

Talk Title:

“ Film to Understand and Be Understood ”

Screening:

Thus A Noise Speaks (2012, dir. Kaori Oda, 38 min.)

Cenote (2019, dir. Kaori Oda, 75 min.)

Reading Assignments:

TBA

Week 13-14

Guest Lecturer:

Dr. Yoshikuni Igarashi (Professor of History, Vanderbilt University  
Visiting Research Scholar, International Center for Japanese Studies)

Talk Title:

“ Circular Vision: The Metavisuality of Television ”

Outline:

In this talk, I will gauge television ' s underestimated socioeconomic effects on Japanese society by revisiting the early years of its introduction, when it was still a newsworthy event. The dramatic transformation that Japan experienced under the high-growth economy (1955-1972) was not only political, social, economic, and cultural but also intensely visual. Television was instrumental to how individuals came to see themselves and their nation during this period. Through television, individuals became deeply embedded in a newly emerging national space: their everyday lives viewed as part of an unfolding national drama. This new media provided

## Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(4)

viewers an expansive vision even as it taught them to internalize its conforming gaze.

Screening:

Good Morning (Ohayo, 1959, dir. Yasujiro Ozu, 94min.)

Reading Assignments:

TBA

Week 15

Students' presentations on their final papers.

Final essay due, December 6th (Tuesday) by noon.

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

1. Attendance + Participation 20%

2. Essay Assignment 20%

Write a short paper analyzing one of the reading assignments. Your paper should be comprised of two sections: (1) summarize your chosen material and indicate what idea(s) that you like in the reading material and (2) point out problem(s) of the material, i.e. criticism.

You will submit your assignment on November 1st (Tuesday), in class. 3 page in length is maximum (1.5 space; font 11). No late assignments will be accepted.

3. Presentation on your final essay topic 20%

The total length of your presentation is about 20 minutes.

Please come up with a one-page outline of your presentation, make copies of it and provide them to all classmates + me in class.

Evaluations of presentations are based on the following aspects:

(1) level of thesis (focused, connected with any specific discourse related with our discussions in class, etc.)

(2) adequate supports (quality of research on the topic, awareness of the existing literature, etc.)

(3) organization of presentation

4. Final Essay 40%

You will write your final essay based on your presentation. 15 pages in length is maximum (1.5 space; font 11), and its due date is on December 6th (Tuesday) by noon. Print out and submit your essay via email. No late papers will be accepted.

Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(5)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)

授業中に紹介する

**[授業外学修 (予習・復習) 等]**

The participants are expected to complete all reading materials before they come to our class. Each week, all students will have to view an assigned film prior to coming to class. The logistic will be explained in the introduction.

**(その他 (オフィスアワー等) )**

Please make an appointment with me over email first, if you want to have a consultation with me.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目89

科目ナンバリング		U-LET36 3JK21 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高嶋 航 人文科学研究所 准教授 村上 衛 文学研究科 特定講師 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Modern East Asian History									
【授業の概要・目的】											
<p>This course explores Modern East Asian History from transcultural perspectives.</p> <p>From Session 1 to Session 5: The first section will introduce the history of science and technology in 20th century East Asia.</p> <p>From Session 6 to Session 9: We will discuss various aspects of the South China Sea in the 19th century.</p> <p>From Session 10 to Session 14: Modern sports in East Asia have a long history. The sessions provide interesting topics of that history.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-get a sense of major issues and new approaches to the study of science, technology, and society in East Asia.</li> <li>-further understand society and economy of Modern China from the perspective of maritime history.</li> <li>-develop a good understanding of sports in Modern East Asia.</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>Weeks 1-5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Science, Technology, and Modern East Asia</li> <li>• Infrastructure</li> <li>• Waste, Scarcity, and Substitution</li> <li>• Cultivation "Revolutions": Red, Green, and Blue</li> <li>• Risk and Disaster</li> </ul> <p>Weeks 6-10</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Opium Trade in the Coastal Area of China before the Opium War • "Traitors" and the Qing Government's Policies toward Coastal Residents of Fujian and Guangdong during the First Opium War</li> <li>• The End of the Coolie Trade in Southern China</li> <li>• Pirates of Fujian and Guangdong and the British Royal Navy</li> </ul> <p>Weeks 11-14</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Introduction: Girl ' s Baseball in East Asia</li> <li>• The Japanese Empire and Sports</li> <li>• Sports and Masculinities in Japan</li> </ul> <p>Week 15 Feedback</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Active participation (30%), short essays (30%), and final essay (40%).</p> <p>To JDTS/MATS students: This course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS).</p>											
----- Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)

Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)

Hiromi Mizuno, Aaron S. Moore, John Dimoia, eds. 『Engineering Asia: Technology, Colonial Development, and the Cold War Order』 ( Bloomsbury )

Shellen Wu 『China: How Science Made a Superpower』 ( Nature (October 2019) )

Eiko Maruko Siniawer 『Waste: Consuming Postwar Japan』 ( Cornell University Press )

Sigrid Schmalzer 『Red Revolution, Green Revolution: Scientific Farming in Socialist China』 ( University of Chicago Press )

Yeonsil Kang 『Bodies as Evidence: Activists and Patients Responses to Asbestos Risk in South Korea』 ( Science, Technology, and Society (2016) )

Sara Pritchard 『An Envirotechnical Disaster: Nature, Technology, and Politics at Fukushima』 ( Environmental History (2012) )

Fairbank, John K 『Trade and Diplomacy on the China Coast: The Opening of the Treaty Ports, 1842-1854』 ( Harvard University Press )

Wakeman, Frederick, Jr. 『Strangers at the Gate: Social Disorder in South China, 1839-1861』 ( University of California Press )

Yen Ching-hwang 『Coolies and Mandarins: China ' s Protection of Overseas Chinese during the Late Ch ' ing Period (1851-1911)』 ( Singapore University Press )

Andrew D. Morris 『Marrow of the Nation: A History of Sport and Physical Culture in Republican China』 ( University of California Press )

Stefan Huebner 『Pan-Asian Sports and the Emergence of Modern Asia』 ( NUS Press )

**[授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]**

The students are expected to read the assigned materials.

**( その他 ( オフィスアワー等 ) )**

\*Please visit KULASIS to find out about office hours.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目90

科目ナンバリング		U-LET36 3JK21 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Historical Seminar: Animals and Borders									
【授業の概要・目的】											
<p>This seminar introduces students to issues related to the historical study of animals. Animal history and the wider category of animal studies are areas of increased academic and popular interest, yet both encompass a wide range of approaches. In this course, we will examine persistent historical problems: defining (human and non-human) animals, living alongside them, working with them, fighting against them, memorializing them, and eating them. The course will make use of the explosive growth in English-language studies of animals in and around the Japanese archipelago. In so doing, it will allow students to consider how human-animal relationships have changed alongside political, cultural, and economic developments in Japan, East Asia, and the Pacific Ocean world.</p> <p>Classes will include discussion of books, articles, and films. The final project asks students to research the regional and transnational histories of institutions, spaces, and practices related to animals in the Kyoto area.</p>											
【到達目標】											
<p>After this course, students should:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* better understand the methods, problems, and assumptions of animal history</li> <li>* undertake individual field and archival research</li> <li>* communicate ideas during in-class discussion and through written reports</li> </ul> <p>Study Focus: Society, Economy and Governance. Modules: Mobility &amp; Research 1; Mobility &amp; Research 2; Research 3.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Course Outline</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Three Initial Questions</li> <li>3. Conceptualizing Animals and/as Humans</li> <li>4. Animal Actors</li> <li>5. Animal Traces, Animal Parts</li> <li>6. Domestication</li> <li>7. Creatures of Empire</li> <li>8. Invasive Species</li> <li>9. Disease</li> <li>10. Between the Laboratory and "the Field"</li> <li>11. Knowing Animals</li> <li>12. Rethinking Pets</li> <li>13. The Zoo</li> <li>14. Writing Animal Histories</li> </ol>											
----- Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)

15. Presentations/Feedback

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

Attendance, participation, reading responses, and presentations in class (30%), short book analyses (30%), and final research project and project presentation (40%).

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

**【教科書】**

授業中に指示する

At least one copy of the books will be available in the library and through the university's online subscriptions, although in some cases (particularly during the weeks where you are responsible for presenting) it may be advisable to purchase a new or used copy for yourself.

In other cases, articles will be available for download through the university library or distributed before class.

**【参考書等】**

(参考書)

授業中に紹介する

**【授業外学修（予習・復習）等】**

- Students are required to read through assigned readings and prepared for the discussions and presentations each week.
- Students are expected to actively participate in preparations for the final project.

**（その他（オフィスアワー等））**

- Office hours will be held once a week at a fixed time (to be determined) and by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目91

科目ナンバリング		U-LET36 3JK21 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期不定	曜時限	水6	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Transnational Japanese History Seminar: Migration, Labor, and Environment									
【授業の概要・目的】											
<p>This seminar-style course introduces students to recent approaches to the transnational study of Japanese history. In fall 2021, our focus will be on issues of migration, labor, and the environment. We will read about the history of diaspora and settler colonialism while delving into more intensive study of places beyond what might form the typical geographic focus of a course on Japanese history. In addition, the seminar is set up to be an interactive, hands-on introduction to ways of doing historical research in multi-lingual archives. A major feature of past iterations of this course has been its collaborative format, which brings students at Kyoto University into conversation with students working in parallel on topics in transnational Japanese history at Zurich University.</p> <p>(Please note however that the precise outlines of the collaboration for 2022-23 are not clear yet.)</p>											
【到達目標】											
<p>By the end of the course, students will:</p> <p>Better understand recent trends in the study of transnational Japanese history, particularly with regard to the history of migration, labor, and the environment.</p> <p>Have greater familiarity with the process of multi-lingual historical research. This includes ways of finding sources, reading them, forming arguments, and addressing ongoing academic debates.</p> <p>Improve their ability to express themselves in speech and in writing.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1: Introduction</p> <p>Week 2: Approaches to Diaspora and Settler Colonialism</p> <p>Week 3: Settler Colonialism in the Japanese Empire</p> <p>Week 4: Diaspora and Settler Colonialism beyond the Empire</p> <p>Week 5: Hawaii**</p> <p>Week 6: Singapore**</p> <p>Week 7: The World of the Arafura Sea**</p> <p>Week 8: Central and South America**</p> <p>Week 9: The North American Pacific Northwest**</p> <p>Week 10: Returning to Categories of Diaspora and Settler Colonialism</p> <p>Weeks 11-13: Working on Individual Research Projects: Consultations and Peer Review</p> <p>Weeks 14-15: Final Presentations</p> <p>** These meetings will involve hands-on discussion and collaborative assignments with Zurich University students. Due to time differences, the goal is to hold these classes in the evening starting at 18:00. Please keep</p>											
----- Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)へ続く -----											



**Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)**

-----  
this in mind.

(Please note that the content and order of topics is subject to change.)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

Evaluations will be based on attendance (20%), discussion participation (20%), reading responses (20%), and a final research paper (40%).

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

**【教科書】**

Most readings will be supplied as PDF files. Additional books will be available in the library.

**【参考書等】**

(参考書)  
授業中に紹介する

**【授業外学修(予習・復習)等】**

This course is open both to undergraduate and graduate students, but please note that the course will feature a substantial amount of discussion in English. If you have any questions about the course please contact the instructor.

**(その他(オフィスアワー等))**

Weekly office hours will be held along with individual consultations by request.

Please be aware that the current plan is to hold 5 of the course meetings in the evening starting at 18:00 to coordinate with students at Zurich University. Please refer above to the course plan and let the instructor know if you have any additional questions or concerns.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。